

平成30年度入学式の挙 行 名誉教授に11氏

お知らせ

- ・北海道大学病院 北海道で初の「臨床研究中核病院」として承認
- ・平成30年度 人間ドック・特定健康診査の実施について



■ 全学ニュース

- 1 平成29年度学位記授与式の挙
- 3 総長告辞（学士学位記授与式）
- 5 来賓祝辞（学士学位記授与式）
- 7 平成30年度入学式の挙
- 8 総長告辞（入学式）
- 10 平成30年4月 教育研究組織の改革
- 10 本学永年勤続者表彰に55氏
- 11 名誉教授に11氏
- 12 国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構と連携・協力に関する協定を締結
- 12 「サステイナブルキャンパスマネジメント本部」を設置
- 13 平成29年度「北海道大学総長表彰」表彰式を挙
- 14 平成29年度「北海道大学職員表彰」表彰式を挙
- 15 北海道地区国立大学教養教育連携実施事業成果報告フォーラムを開
- 16 平成30年度北海道大学の予算
- 18 北大フロンティア基金
- 20 新渡戸スクール修了式を挙
- 21 平成29年北大えるむ賞授与式を挙
- 22 平成29年度北海道大学大塚賞授与式を挙
- 22 平成29年度北海道大学クラーク賞授与式を挙
- 23 平成29年度北海道大学鈴木章記念賞－自然科学実験－表彰式を挙
- 23 平成29年度 北海道大学特別修学支援活動賞授与式を挙
- 24 平成29年度北海道大学企業研究セミナーを開
- 25 タイリエゾンオフィス開所式及び大学交流デーを開
- 26 フィリピンリエゾンオフィス開所式及び大学交流デーを開
- 27 中国北京リエゾンオフィス開所式及び中国科学院大学丁仲礼（テイ・チュウレイ）学長北海道大学名誉学位記授与式の開
- 28 平成29年度第2回HUCIフォーラム「HUCI構想の軌跡と大学のグローバル化・グローバル教育の将来像」を開
- 29 北海道大学交流デー（ウメオ大学）を開
- 30 北海道大学交流デー（浙江大學）を開
- 31 名和総長が清華大学を訪問
- 32 高等教育研修センターにて研修会を開
- 33 「大学等における安全保障貿易管理勉強会」を開
- 34 北海道大学特別学生「onちゃん」が第2学年に進級決定
- 34 本学入学式において産学連携の取り組みをアピール

■ 部局ニュース

- 35 歯学研究院・歯学院がサッポロデンタルカレッジと部局間交流協定を締結
- 35 法学研究科・法学部優秀賞授与式を挙
- 36 北海道大学クラーク賞、函館市長賞及び水産科学院の各種表彰授賞式を挙
- 37 水産学部キャンパス移行式及びくろしお賞授賞式を挙
- 38 物質科学リーディングプログラム（ALP）パイロット生の修了式を挙
- 39 タイ王国司法裁判所研修団が法学研究科で特別講義を受講
- 40 特別学部学生onちゃんが法学部を訪問
- 41 経済学研究院で研究会「デジタル化時代の日本のものづくり」を開
- 41 経済学部でメンタルヘルス講演会を開
- 42 医学研究院寄附分野「総合女性医療システム学分野」感謝状贈呈式及び記念シンポジウムの開
- 43 多様な色覚を持つ多くの人に配慮した理学部広報誌「Sci」第2号を發行



学位記授与式



国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構と連携・協力に関する協定を締結

- 43 工学系部局で平成29年度工学系企業研究セミナーを開
- 44 薬学研究院が「第11回薬学研究院研究発表会」を開
- 44 国際広報メディア・観光学院が上海と北京で留学説明会及び同窓会を開
- 45 国際食資源学院「ワンダーフォーゲル実習Ⅱ」をミャンマーで実施
- 46 北方生物圏フィールド科学センターで「公開水産科学実習」を開
- 48 国立東華大学（台湾）との国際合同実習「2018 Joint International Training Course on Ecological and Environmental Research in Taiwan」を開
- 49 観光学高等研究センターが「第6回 CATS観光創造研究会」を開
- 50 「2017 SAGE-Hokkaido Award for Best Journal Article in Social Sciences (2017年度 SAGE－北大 社会科学国際優秀論文賞)」授与式を挙
- 51 環境健康科学研究教育センターが平成29年度後期「社会と健康」ディプロマ授与式を開
- 51 脳科学研究教育センター発達脳科学専攻第14期修了生に修了証書授与
- 52 数理・データサイエンス教育研究センターが「公開シンポジウム：数理・データサイエンスの人材育成と社会応用」を開
- 53 総合博物館で第10回「卒論ポスター発表会」を開
- 54 小中学生向け科学体験イベント「さっぽろサイエンスフェスタ in 北大」を開
- 55 北海道大学病院で新規採用者多職種合同歓迎会を開
- 56 藤井純子関係資料を大学図書館で受贈
- 57 保健センターで平成29年度第2回緊急対応研修を実施

■ お知らせ

- 58 北海道大学病院 北海道で初の「臨床研究中核病院」として承認
- 58 平成30年度 人間ドック・特定健康診査の実施について

■ 博士学位記授与 60

■ 同窓会との交流

- 78 函館同窓会「総会及び懇親会」

■ 諸会議の開催状況 79

■ 学内規程 80

■ 表敬訪問 85

■ 人事 85

- 91 新任理事紹介
- 92 新任部局長等紹介
- 95 部局長等（再任）紹介
- 96 新任教授紹介
- 99 新任部課長等紹介

■ 訃報

- 104 名誉教授 梨本 勝昭氏
- 104 名誉教授 米田 徳彦氏

■ 資料

- 105 平成30年度入学者の道内・道外別及び卒業年度調べ
- 106 平成30年度入学者の都道府県分布及び地域比率

■全学ニュース

平成29年度学位記授与式の挙行

平成29年度学士学位記授与式



学位記を受ける総代

平成29年度学士学位記授与式を3月22日（木）に、本学第一体育館において行いました。

学位記授与式は、来賓、役員、学部長等の列席の下、北海道大学交響楽団による「エルムの鐘」の演奏の後開始され、水産学部を除く11学部の卒業生2,334名（獣医学部共同獣医学課程のうち、帯広畜産大学が本籍の者を除く）を代表し、各学部の総代へ学部長から学士学位記が授与されました。

また、平成25年度に創設された新渡戸カレッジの修了者28名を代表し、総代へ名和豊春新渡戸カレッジ校長から修了証書が授与されました。

名和豊春総長は告辞の中で、卒業生に向けて「フロンティア精神とともに自信を持って果敢に挑戦してください。皆さんが、夢と勇気と大志を持って、新たな人生を切り拓かれることを

祈念します。」との言葉が贈られました。

続けて、北海道大学校友会エルム会長 石山 喬氏は祝辞の中で、「皆さんが世界の大きな進歩のうねりの中で、他国から尊敬されるような日本をリードしていってくれる人達として成長されることを心から願っております。」と述べられ、卒業生へのはなむけの言葉として贈られました。

その後出席者全員による「都ぞ弥生」の斉唱で式は終了しました。

翌3月23日（金）には、フォーポイントバイシェラトン函館において水産学部卒業生222名を代表し、各学科の総代へ水産学部長から学士学位記が授与され、新渡戸カレッジの修了者には名和新渡戸カレッジ校長から修了証書が授与されました。



告辞を述べる名和総長



祝辞を述べられる石山会長



会場の様子

平成29年度修士・専門職学位・博士学位記授与式

平成29年度修士・専門職学位・博士学位記授与式を、学士学位記授与式終了後に、第二体育館において執り行いました（水産科学院については翌日挙行）。

修士・専門職学位・博士学位記授与式では、役員、研究科等の長の列席の下、16研究科等の修士課程修了者1,444名を代表し、各研究科等の総代へ修士学位記が、また、法科大学院（法学研究科法律実務専攻）修了者39名、経済学研究科会計情報専攻修了者12名及び公共政策学教育部公共政策学専攻修了者26名を代表し、各研究科等の総代へ専門職学位学位記が、各研究科等の長から授与されました。

引き続き、16研究科等の博士課程修了者280名、論文博士14名を代表し、各研究科等の総代へ、名和豊春総長か

ら博士学位記が授与されました。

この後、総長告辞があり、最後に北海道大学交響楽団の弦楽四重奏による「都ぞ弥生」の演奏で締めくくられました。

翌3月23日（金）には、フォーポイントバイシェラトン函館において、水産科学院の修士課程修了者108名を代表し、各専攻の総代へ水産科学院長から修士学位記が、また、博士課程修了者12名に対し、名和総長から博士学位記が授与されました。

学部・研究科等別の卒業者数、修了者数及び論文博士授与者数は以下のとおりです。

博士学位記授与者については、本号60ページに掲載しています。

（学務部学務企画課）



学位記を受ける総代



水産学部応援団のエール

学部別卒業生数一覧

学部名	卒業生
文学部	185
教育学部	61
法学部	208
経済学部	189
理学部	288
医学部	315
歯学部	55
薬学部	78
工学部	688
農学部	229
獣医学部	(67) 38
水産学部	222
計	(2,585) 2,556

括弧書きの数字は本学及び帯広畜産大学の合計数

研究科等別大学院修士課程・専門職学位課程修了者数一覧

研究科等名	修了者	研究科・教育部・専攻名	修了者
文学研究科	83	法科大学院（法学研究科法律実務専攻）	39
法学研究科	13	経済学研究科会計情報専攻	12
情報科学研究科	154	公共政策学教育部公共政策学専攻	26
水産科学院	108		
環境科学院	129		
理学院	122		
農学院	160		
生命科学院	116		
教育学院	33		
国際広報メディア・観光学院	47		
保健科学院	40		
工学院	340		
総合化学院	136		
経済学院	5		
経済学研究科	37		
医学院	4		
医学研究科	25		
計	1,552	計	77

研究科等別大学院博士課程修了者及び論文博士数一覧

研究科等名	課程博士	論文博士
文学研究科	12	2
法学研究科	7	1
経済学研究科	2	
医学研究科	63	2
歯学研究科	23	
獣医学研究科	14	2
情報科学研究科	16	
水産科学院	12	
環境科学院	18	1

研究科等名	課程博士	論文博士
理学院	20	
農学院	19	4
生命科学院	26	1
教育学院	2	
国際広報メディア・観光学院	4	1
保健科学院	7	
工学院	27	
総合化学院	20	
計	292	14

学士学位記授与式

北海道大学総長 名和 豊春

本日、卒業される2,556名の皆さん、ご卒業おめでとうございます。

北海道大学での学生生活を終え、人生の大きな節目を迎えられたことに対し、北海道大学を代表し、心よりお祝いを申し上げます。

皆さんが、本学で学んだ知識や経験、出会いを大切にしながら、持てる力を存分に発揮され、豊かな人生を築かれることを期待しています。また、皆さんを、ここまで支えてこられたご家族をはじめ関係各位の皆様に対しまして、心よりお祝い申し上げます。

これから社会人として活躍される皆さん、進学してさらに学問を究められる皆さん、それぞれが様々な道へ歩まれようとしています。皆さんにとって、明日からは、この北海道大学が母校となります。今日、大学の門を出るとき、歩みを止め、皆さんが学んだ本学をもう一度振り返ってみてください。皆さん一人ひとりの胸の中に、勉学に励んだ日々、クラブ活動やサークル活動に没頭した日々、友人と語り明かした日々など、いろいろな思い出が鮮やかに蘇ることと思います。それらの記憶は、本学での学生生活を通じて得た貴重な財産を意味しています。

私は、大学での4年の学びは、皆さんがこれから過ごす人生の基軸になるものと考えております。皆さんは、これから多くの試練に直面すると思いますが、そのときには、是非、学生時代の様々なことを思い出してください。必ずや、そこから試練を打開するアイデアや勇気が得られると思います。

北海道大学は、4つの教育理念として、「フロンティア精神」「国際性の涵養」「全人教育」「実学の重視」を掲げ、140年余りの歳月を経た今も、その志は脈々と受け継がれています。このような理念の下で学ばれた皆さんは、それぞれの専門分野における深い知識を得ながらも、その専門性のみにとらわれることなく、物事を多元的に捉えて、理解力、洞察力、実践力、想像力を鍛え、かつ高邁な大志と国際的な視野を養ってきたと確信しています。

また、皆さんにとって、これからの人生は、自分にとっての「天職」を見いだす旅路といえます。「天職」について、本学の前身である札幌農学校の第2期生であり、日本を代表する思想家である内村鑑三は、こう述べています。

「天職を発見するの法は今日目前の義務を忠実に守るこ

とであります。要するに天職は之に従事するまでは発見することの出来るものではありません。予め天職を見付け置いて然る後に之に従事せんと思ふ人は終生、其天職に入ることの出来ない人であります。」

今風に言いますと「天職を発見する方法は、日々の義務を忠実に守ることです。あらかじめ天職を見つけておいて、しかる後にこれに従事せんとする人は、終生その天職を見出すことのできない人です。」となります。

皆さんは、これから先、それぞれの選んだ職に就き、社会と深くつながることになりますが、初めから天職に出遭うことができた人は稀です。内村鑑三が言うように、日々の職務を誠実に実行する中で、自分に与えられた天職を得られるのだということをしつかりと胸に刻んでいただきたいと強く願います。

今、私たちは、環境汚染、地球温暖化、エネルギー資源の枯渇、少子高齢化など数多くの世界的な問題を抱えています。そして、そのどれもが空前のスケールを有する重要な問題です。日本は、前世紀において、これらの困難に遭遇し、世界で初めて課題解決の方策を見いだしてきた国です。言い換えると、困難な時代であればあるほど、真に我が国が国際社会におけるフロントランナーとして、世界に貢献できると言えます。

皆さんは、そのことに誇りと自信を持って、これからの人生で活躍して頂きたいと思います。歴史を振り返りますと、明治維新以降、日本は欧米諸国から様々な産業や社会制度を導入して先進国となりました。そして、今や世界に類を見ない「世界的な課題を解決できる先進国」となったのです。

また、現代社会が抱えている課題は、もはや、再び欧米諸国から何かを導入することによって解決できるものではなく、むしろ、私達が世界に先駆けて課題を解決しなければならないものです。それが日本の使命であり、国際社会における役割だと思います。

今日、北海道大学を巣立つ皆さんが、それぞれの立場で世界をリードする人材へと発展されることを強く期待しています。

もちろん、現代のようにグローバル化が急速に進み、インターネットが世界の各地を一瞬で結び付ける現在にあっ

ては、相手の立場に寄り添いながらも、問題解決や変革を主導できる人材が不可欠です。

グローバルなフィールドで主体的に構想し、多様な人々の理解と共感を得ながら、問題意識を国際社会と共有し、地球規模の社会モデルを提案していく必要があります。皆さんが、このことを実践されることを望みます。

卒業はけっして皆さんとお別れを意味するものではありません。むしろ、これからの長い人生の中で、社会の中の皆さんと北海道大学は、これまで以上に強い絆で結ばれていくものだと私は思っています。

「Not only four years, but also forever」、北海道大学は、4年の学びの場だけでなく、皆さんがこれから歩む人生でいつでも立ち寄れる「港」であり、皆さんが直面する課題を解決するために必要な人と知のネットワークの場として機能しつづけます。

同窓会組織「校友会エルム」の活動をはじめ、様々な形で皆さんとの交流を図ってまいりますことを約束いたします。

最後になりますが、北海道大学は、これからもさらなる発展を目指して挑戦を続けてまいります。

私は、皆さんが、課題解決のための能力を備え、無限の可能性を秘めており、世界各地でリーダーとして活躍できる人材であることを信じて疑いません。フロンティア精神とともに自信を持って果敢に挑戦してください。皆さんが、夢と勇気と大志を持って、新たな人生を切り拓かれることを祈念し告辞の結びとします。

学士学位記授与式

北海道大学校友会エルム会長 石山 喬

皆さんご卒業おめでとうございます。

ただ今ご紹介いただきました、昭和42年卒業の石山でございます。

今年も若さで光輝いている、2585名の皆さんを同窓生の仲間として迎え入れることに大変喜びを感じています。

皆さんは卒業後殆どが進学される方達や就職される方達で、先が決まっていないう人はあまりいないと思いますが、世界の情勢は非常に変化が速く、今後はさらに混沌とした状況が続く、誰もこのような世界になっていくよと言える安定した形にはならないだろうと思われま

す。先日のダボス会議である人が、「今ほど変化の速い時代は過去にはなかった。だが、今後今ほど変化が遅い時代も二度と来ないだろう」と言いました。全くその通りだと思います。以前1994年に初めて中国の深圳に行きました時、家の窓から電話線を引き出して公衆電話を開設している人や、台秤を歩道に置いて体重を計る商売をやっている人がいてびっくりしましたが、最近は露店の饅頭屋でも金額はスマホ決済になってきています。

ピョンチャンのオリンピック開会式、閉会式でも見たこともないようなハイテクらしきものが多く使われていました。

世界の経済状態は適温経済化の世界同時好況が続いています。熱すぎず冷たすぎず、丁度よい温度。これは先進国の需要不足が解消され、物価も2%UPし、失業率は歴史的低水準です。これに対して日本は上場企業の7割が増収増益で有効求人倍率は1.5倍と完全雇用状態となり、17年度の実質GDP伸び率はプラス1.7%、消費者物価上昇率指数はプラス2.8と安定した好ましい状態が継続しています。

これらによって今は皆さん新卒者にとっては大変な売り手市場が出現しています。しかし、2年後に修士課程を卒業された時にはどうなっているか分かりません。まだそれほど悪くはなっていないだろうと想像はしていますが、変化の要因は色々出てきています。

今の安定した世界の経済状況の中で、先ごろの米国で賃金の上昇スピードが速すぎるということで、これによる金利上昇を懸念した株価の暴落が発生し世界に伝播しました。また、ビットコインのハッキングによる多額の流出が起こっています。これらは金余りの中で実態の無い世界において金儲けに猛進している人達の仕業であります。

さらに、トランプ大統領のアメリカファーストで今度は鉄鋼、アルミニウムに輸入関税が掛けられようとしていま

す。全く慌ただしい状況が続いていますが、私達はこのような事に振り回されることなく、実態のある世界を大切に、どっしりと構え、おれることなく地道に活動していれば良いと考えています。

最近世界の中で日本の経済的地位が低くなっていると良く言われていますが、これは日本の経済活動が停滞していたわけではないと思います。日本に於いて今までのビジネスモデルは限界に近いまで発展してきました。日本の中では色々なマーケットが頭打ちになり、多くの企業はマーケットを求めて海外展開をしてきました。そこで多くの人を雇用し、製品をその国や他国に輸出し、それらの国々が発展するのを助けてきました。そのような変化によって周辺国の経済は発展し、人々は裕福になり、格差の大きな国ではアッパークラスの賃金が日本を上回るようになってきました。これはアメリカでも同様でコモディティー商品は国内では生産されなくなり、トランプ大統領のアメリカファーストが支持された原因となったのは皆さんもご存知の通りです。企業は相対的に賃金が安くなった自国に回帰し設備投資を行う現象が起きつつあります。

この中で今一つ日本の特殊性があります。日本のマーケットは全てが小さく製造業にとって生産能力を拡大していく余地がありません。「大量生産、大量販売、大量消費」は国内では望むべくもありません。そのため競争が激烈で顧客の関心を引くためにどんどんマニアックな品質競争に入り込んでしまいます。しかし後進国のマーケットではもっと普通の品質で品数も少なく安く作れる商品が大量に普及していきます。EMS企業で有名なフォックスコンは中国で50万人程の人を雇い、作業員は12時間労働で週6日勤務です。このように多くの人を厳しく統制して単純労働を行わせる経営は家族的な絆を大切にしている日本人には難しいものがあります。

また、通常日本の工業製品は品質基準としてJISを使っていますが、私たちはこの基準の中にさらに狭い基準の幅を独自にもって仕事を行っています。JISの基準の幅ではばらつきが大きすぎて、日本の顧客では満足してもらえないからです。良い例ですが、日本の自動車が故障して修理に持ち込んだという話は殆ど聞いたことがありません。中国でも中古の価格は日本車の方が欧米ブランドよりも高いようです。アラブのサファリツアーでも砂漠の中を走り回っている車は、全てトヨタのランドクルーザーでした。

これはある会社の注射針の話ですが、皆さんは痛くない

注射針をご存じですね。この針を作っている会社の会長さんに話を聞いたことがあります。開発が成功して全自動の機械をアメリカとオーストラリアに設置しました。機械は使っているうちに精度が落ちてきますので、調整が必要となります。この時アメリカでは製品の精度が基準値の振幅MAXまではOKとし調整しますが、オーストラリアでは基準から外れてしまうことが多くあるようです。日本では自分達で基準値の内側にさらに狭い基準を設定してその範囲に入るように調整していました。最終的にはオーストラリアでは痛くない針を安定して作れないので、機械は引き揚げてしまったとの事でした。オーストラリアの人達は少しくらい痛くても当たり前と思うのかもしれませんが。この針の開発は糖尿病の子供たちを毎日のインシュリン注射の痛さから救ってやりたくて開発したもので、最初は1本1万円でしたが、100円まで下げることができ、最終的には10円台を目指しているという話でした。海外における日本人と日本製品の評価は品質、機能、納期において他国の製造業を凌駕しております。ここが日本の製造業の勝てるポイントです。今後さらに世の中は変化していき、新しい技術、新しい製品、新しいビジネスモデルが生まれてきます。その中で生き残り勝ち残って行けるのは、この日本人の持つ特性、このジャパニーズテイストが最大の強みと考えています。

昨年来日本の製造業がデータ改ざん問題で糾弾される事態がかなり起きましたが、先ほど述べた厳しい品質基準と製品納期の板挟みにあって行われてしまった事だろうと思います。しかし製品としてはほとんど問題にならない範囲と思いますが、ただしそのようなことが行われていることが社内でもオープンになり早く是正されるような正しい組織風土を企業は真摯に構築しておくことが大切です。これらが明らかになるのはほとんどが内部告発です。ごまかしに耐え切れなくなった人や会社の扱いに不満を持つ人が声を上げた結果です。しかし永年不正が積み重なった後に明らかにされると、大企業でも存続の危機にさらされ多くの従業員も大変困難な状況に陥ってしまいます。皆さんも卒業され働くようになると、報告データや検査データの改ざんを迫られる場面に出くわすことも多分、いや必ずあると思います。今はほとんどの企業でホットラインを設けてこのような場合には内部通報が匿名で行える機能が設けられています。このような不正を早く明らかにし、正していく事が正に企業を守ることです。これは今後リーダーとなっていく皆さんがしっかり心にとどめておかなければならない事です。

私が会社のトップとして手帳に書き留めて、常に思いを新たにしていたことは「企業のコンプライアンスはトップの姿勢が一番大切であり、その正しいことを行うという精神を企業の末端まで行き渡らせなければならない。会社の品格は社員個々の品格によって形成される。」でした。

このような話の中に、皆さんが学ばれてきた北大の4つの理念の大切さが浮かんでくると思います。フロンティア精神、国際性の涵養、全人教育、実学の重視この中に私達と周囲の人達が豊かな人生を過ごしていくための基本となる理念が込められていると思います。皆さんも今後色々悩んだりしたり、迷った時にはこの理念から考え方を組み立てられることをお勧めします。

最後に校友会エルムの宣伝です。全学同窓会を校友会エルムと変えて、在学生、職員、保護者まで加入できる組織として一昨年6月に発足しました。昨年からは新入学生も会員になるよう勧誘してきました。エルムの組織は、日本だけでなく海外にもその輪を広げております。新渡戸カレッジフェローの推薦や、海外インターンシップの受け入れ先の開拓、留学奨学金支給活動なども行っています。皆さんも卒業されるとエルムの基礎同窓会である各学部の同窓会や東京、関西といった地区の同窓会に入会されることと思います。そして校友会エルムにも入会していただくと、全ての会員と繋がる事ができます。同窓生は政界、財界、官界、学会で広く活躍しています。普段は面識のないこの方達とお目にかかるのは難しいのですが、エルムを通じれば、学部も地域も関係なく非常に気楽に会っていただく事ができます。ただ、都ぞ弥生を2番までは歌える事が必要ですね。

皆さんが世界の大きな進歩のうねりの中で、他国から尊敬されるような日本をリードしてってくれる人達として成長されることを心から願っております。

これをもちまして私の祝辞とさせていただきます。

平成30年度入学式の挙行



総代による入学者宣誓

平成30年度の入学式を、4月6日（金）に札幌コンベンションセンターにおいて執り行いました。

式は、来賓の校友会エルク会長 石山 喬氏、大韓民国、中華人民共和国、ロシア連邦及びオーストラリア連邦領事館からの代表者ならびに理事、副学長、監事及び部局長の列席の下、北海道大学交響楽団による「エルクの鐘」の演奏により開始され、名和豊春総長から新入生に対し告辞が述べられました。

はじめに、名和総長は告辞の中で、本学の概要について歴史的経緯を含めて紹介し、是非、本学の雄大なスケールを味わってほしいと述べました。

続いて、私たちは環境汚染、少子高齢化など数多くの世界的な問題を抱え、特に少子高齢化は我が国が初めて経験する、世界的にも類を見ない問題であり、過去の例や他国での例を参考にすることはできないことから、新しい状況を自ら理解し、その理解に基づき「自分の頭で考える」ことが大切であり、大学生活の学びの中で、ぜひ、考え方、思考法を身に付けてください

と述べました。

さらに、そのためには基礎となる幅広い知識を学び、自由自在に取り扱えるようになる必要があることから、最初の1年間、高等教育推進機構・総合教育部に籍を置き、様々な学問分野の問題や知見に触れながら、自らの関心を広げ、個々に修学のスタイルを作っていくこととなり、このように教養を培うことを基礎としてこそ、各学部の専門課程における修学も実を深めていくことが可能となることから、様々な講義を通じて教養教育を受けながら、自ら学ぶという姿勢を会得してほしいと述べました。

また、これは札幌農学校の「全人教育」の建学精神に則ったものであり、本学がその伝統を保ち続けてきたことを、アカデミック・コミュニティの一員として知っておいてもらいたいと述べました。

そして最後に、グローバル化が急速に進む現在では、主体的に構想し、問題意識を国際社会と共有のうえ地球規模の社会モデルを提案していく必要があります。そのためには、英語を中心とす

る外国語によるコミュニケーション能力と異文化理解が欠かせないことから、「新渡戸カレッジ」への積極的な参加により、グローバル人材として成長し、世界で活躍してほしいと激励の言葉を述べました。

続いて、留学生40名を含む2,573名の入学者を代表して、松林あかねさんによる入学者宣誓が行われました。

その後、来賓、本学理事、副学長、監事及び部局長の紹介と続き、北海道大学交響楽団による「都ぞ弥生」の演奏で式は終了しました。

入学式終了後には、本学卒業生である、北海道大学大学院医理工学院長の白土博樹教授から「本学卒業生からのメッセージ」としてご講演いただき、引き続き長谷川副学長から「北大生活を送るにあたっての心構え」についてのガイダンス、北海道大学合唱団による「都ぞ弥生」及び「Ride the Chariot」の合唱が行われ、全ての行事が終了しました。

(学務部学務企画課)



告辞を述べる総長



白土教授から後輩へのメッセージ



長谷川副学長によるガイダンス

入 学 式

北海道大学総長 名和 豊春

新入生の皆さん、入学おめでとうございます。この春、北海道大学は、2,573名を新入生として迎えました。北海道大学を代表して、希望とエネルギーに満ち溢れた皆さんを心から歓迎するとともに、支えてこられたご家族、関係者の皆様にも心よりお祝いを申し上げます。

北海道大学は、今から142年前の1876年に、「札幌農学校」として、北海道の開拓の任に当たる人材を育成するため、欧米の大学に匹敵する高等教育機関を目指して明治政府により設立されました。

当時は、明治維新を経て、我が国が近代国家へ歩み始めた時期であり、東京大学を初め幾つもの大学が、同じ時期に実学を重視した、国家と産業の近代化を担う人材の育成を目指し、その礎を築きました。

しかし、札幌農学校では、実学の農学だけではなく、数学、化学、生物学から語学、歴史、経済学まで幅広い基礎教育が英語により実施され、アメリカ流のリベラルアーツ教育が行われていました。そこでは、人間形成の基となる幅広い教養を培う「全人教育」の実施のみならず、未踏の学問領域を積極的に探求する「フロンティア精神」を持つこと、国際性や多様性への柔軟な感受性を育成する「国際性の涵養」を行うこと、そして、物事の本質を見極め、それを社会に活かす実のある研究を進める「実学の重視」を念頭に置いた教育が実践されました。皆さんは、今日、北海道大学の学生として、この建学以来の長い年月の中で培われてきた教育・研究の基本理念を持つアカデミック・コミュニティの一員となったのです。

北海道大学は、我が国の基幹総合大学の一つであり、12の学部、21の大学院、3つの専門職大学院を有し、日本全国はもちろん、80カ国を超える世界中から集った約1万8,000名の学生がキャンパスで学んでおり、文字通り、世界に開かれた大学です。

北海道大学は、札幌の中心部に位置し、日本でも有数の規模を誇る緑豊かな札幌キャンパスのほか、函館キャンパス、全国6カ所にある広大な研究林、臨海・臨湖実験所、果樹園、植物園、牧場などを有し、自然に恵まれた環境の中で世界的なレベルの教育・研究が行われています。皆さんには、是非、北海道大学のキャンパスをできる限り歩き、あらためてこの大学の雄大なスケールを味わってみたいと思います。

さて、皆さんがこれから過ごす大学生の時代は、人生の中でもっとも自由な時間を享受でき、自分の可能性を無限に試すことができるかけがえのない時期です。今、私たち

は、環境汚染、地球温暖化、エネルギー資源の枯渇、少子高齢化など数多くの世界的な問題を抱えています。例えば、新入生の皆さんが生まれた2000年前後では、人口に占める65歳以上の高齢者の比率は全人口の約17%でしたが、現在では約28%となり、皆さんが働き盛りの40歳代になる2040年代には人口の約35%、実に4割弱が高齢者となります。このような少子高齢化社会は、我が国で初めて経験することであり、世界的にも類を見ない問題です。したがって、この少子高齢化社会でこれから発生する問題を解決するためには、過去の例や日本以外の国での例を参考にすることはできません。新しい状況を自ら理解し、その理解に基づいて問題を解決しなければなりません。つまり「自分の頭で考える」ことが大切です。既存の価値や思考方法自体を疑い、それを変え、時には壊していくことが必要となります。

具体的には、問題となっている現象や変化がどのようなものであり、どこで生じているのか、皆さんは、自らが考えるべき課題を特定した上で、課題解決へ向けた論理を組み立て、次にその論理が正しいかを確認しながら、その解決策を実行していかなければなりません。これは、大学で学ぶ学問の方法論そのものです。すなわち、自ら考えるべき問題を研究課題とし、これを解析し、説明しうる仮説を作り、その仮説が正しいかを実験や統計、さらには過去の文献等を用いて検証し、正しい結論を導くわけです。

また、この「考える」という営みのためには、社会での体制に拘わらず正しいと主張する覚悟、勇気が必要です。大学が自由でなければならぬことをだれもが認めているのは、この「考える」ことを教えるために大学が存在するという特異性に他なりません。皆さんは、大学生活の学びの中で、ぜひ、考え方、思考法を身に付けて下さい。

さらに、この「考える」力を身につけるためには、まずはその基礎となる幅広い知識を学び、自由自在に取り扱えるようになる必要があります。このため、皆さんは、最初の1年間、高等教育推進機構・総合教育部に籍を置き、文系と理系に大きく分かれて、様々な学問分野の問題や知見に触れながら、自らの関心を広げ、個々に修学のスタイルを作っていくこととなります。

そして、このようにして教養を培うことを基礎としてこそ、各学部の専門課程における修学も、実を深めていくことができるのです。また、これは皆さんが自らの頭で考えることを可能とし、さらに各人の将来の人生設計へとつながっていくのです。様々な講義を通じた教養教育を受けな

がら、自らが学ぶという姿勢を会得してください。これは、札幌農学校の「全人教育」の建学の精神に則ったものであり、北海道大学がその伝統を保ち続けてきたことを、アカデミック・コミュニティの一員として知っておいて欲しいと思います。

札幌農学校では、先ほど述べた幅広い素養を身に付ける教育の実施だけではなく、「Be gentleman!」の一言を校則とし、学生の自律心、独立心を目覚めさせました。皆さんも「Gentleman」、現代版の「Ladies and Gentlemen」の意味を自ら追い求め、その答えを見いだしてください。北海道大学は、皆さんを一個の自律した人格として尊重し、敬意をもって接します。また、皆さんに対しても、そのような個人の自覚と責任を求めたいと思います。

これから、様々なバックグラウンドや希望をもった仲間たちと共に修学します。そして広大で美しいキャンパスでは、講義はもとより、様々な行事、あるいは部活、サークル活動などを通じ、交流を深め、互いに切磋琢磨しあい、友情を育むことができます。また、グローバル化が急速に進み、インターネットが世界の各地を一瞬で結び付ける現在にあっては、相手の立場に寄り添いながらも、問題解決や変革を主導できる人材が不可欠です。そこでは、グローバルなフィールドで主体的に構想し、多様な人々の理解と共感を得ながら、問題意識を国際社会と共有し、地球規模の社会モデルを提案していく必要があります。

そのためには、英語を中心とする外国語によるコミュニケーション能力と異文化理解が欠かせません。北海道大学では、平成25年度から英語で学び異文化を理解する能力を身に付けることができる「新渡戸カレッジ」を開校しました。そこでは、国際経験豊かな本学同窓生の協力や、海外留学の経験を通じて、グローバル社会で活躍できる人材を養成しています。皆さんには、この「新渡戸カレッジ」に積極的に参加し、海外の異なった考え方や価値観を理解し、グローバル人材として成長し、世界で活躍して欲しいと願います。

最後に、大学生活という未踏の地にその一步を踏み出すこととなった皆さんに、札幌農学校のクラーク先生が残された「Boys, be Ambitious」を現代版に改めた「Girls and Boys, be Ambitious（少年・少女よ大志を抱け）」の言葉をお送り、告辞いたします。

平成30年4月 教育研究組織の改革

総長直轄の教育研究組織である国際連携研究教育局（GI-CoRE）における国際連携研究・教育の成果を大学院教育へと発展させるべく、4月1日、下記のとおり新専攻が設置されました。これにより、物質科学と生命科学の新

しい学際領域の成長分野であるソフトマター科学を開拓できる広い視野等を備えた人材を養成することが可能になります。今後も、世界の課題解決に貢献する人材を養成できるよう、教育研究組織の整備を実施してまいります。

詳細は下記でもご覧いただけます。

◆教育組織の改革

<http://www.hokudai.ac.jp/introduction/reform/>

【新設】

生命科学院 ソフトマター専攻

(総務企画部企画課)

本学永年勤続者表彰に55氏



名和総長から表彰状の授与

平成30年3月31日をもって定年、または15年以上在職し退職された方々に対する本学永年勤続者表彰式を3月30日（金）学術交流会館小講堂で行いました。

表彰式は各部局長等列席のもとに行われ、永年勤務し退職された方々55氏の代表として、水産学部准教授梶原善

之氏に、名和豊春総長から表彰状の授与並びに記念品の贈呈が行われました。

次いで、名和総長から、被表彰者の方々の本学に対する永年にわたる精励と努力に対し、深い敬意と感謝の意が表せられました。

引き続き、同会館第一会議室におい

て祝賀会が催され、被表彰者と関係部局長等が、思い出話に和やかなひとときを過ごしました。

なお、このたび表彰を受けられた方々は、以下のとおりです。

(総務企画部人事課厚生労務室)

北海道大学永年勤続者表彰（退職時）被表彰者

所 属	氏 名	所 属	氏 名
総務企画部	浅野 賢二	学務部	加福 千明
〃	萩原 俊博	施設部	佐々木 力
〃	中塚 英俊	〃	永井 雅彦
〃	計 良 広 幸	附属図書館	猿橋 キヨミ
学務部	近藤 俊治	〃	守谷 径子
〃	藤野 祐一	文学研究科	樽本 英樹

所 属	氏 名
法学研究科	藤 原 正 則
水産科学研究所	中 谷 敏 邦
水産学部	梶 原 善 之
〃	山 根 長 日 出
〃	玉 川 宏
理学研究所	村 上 亮
理学・生命科学事務部	小 林 康 子
農学研究所	川 端 潤
〃	福 永 重 治
教育学研究所	大 塚 吉 則
保健科学研究所	佐 伯 和 子
〃	佐 川 正
〃	山 中 正 紀
〃	松 尾 淳 司
〃	齊 藤 展 士
〃	塚 本 美 奈
工学研究所	佐 藤 靖 彦
経済学研究所	小 山 光 一
医学研究所	近 藤 健
〃	中 瀬 健 一
医学系事務部	小 谷 正 雄
北海道大学病院	清 水 力

所 属	氏 名
北海道大学病院	石 川 岳 彦
〃	横 式 尚 司
〃	高 崎 裕 代
〃	中 嶋 栄 治
〃	吉 村 康 良
〃	本 間 美 恵
〃	高 木 真 弓
〃	安 部 佳 子
〃	大 野 稔 子
〃	小 松 克 子
〃	玉 山 深 雪
〃	水 野 愛 子
〃	竹 田 泰 子
〃	村 上 康 子
〃	谷 尻 直 子
北海道大学病院事務部	水 野 範 善
低温科学研究所	宮 内 政 幸
スラブ・ユーラシア研究センター	山 村 理 人
保健センター	折 戸 智 恵 子
産学・地域協働推進機構	山 口 茂 彦
国際連携機構	中 村 重 穂

名誉教授に11氏

本学名誉教授称号授与規程に基づき、3月14日（水）開催の教育研究評議会において、次の11氏に対し名誉教授の称号を授与することを決定し、本年4月から新たに名誉教授となられる方々には、決定通知が送付されました。

なお、称号授与式は、6月6日（水）を予定しています。

（総務企画部人事課厚生労務室）

北海道大学名誉教授

栗 山 敬 己 （元大学院文学研究科教授）
 町 村 泰 貴 （元大学院法学研究科教授）
 村 上 亮 （元大学院理学研究所教授）
 川 端 潤 （元大学院農学研究所教授）
 大 塚 吉 則 （元大学院教育学研究所教授）
 千 葉 仁 志 （元大学院保健科学研究所教授）

佐 伯 和 子 （元大学院保健科学研究所教授）
 山 中 正 紀 （元大学院保健科学研究所教授）
 傳 田 健 三 （元大学院保健科学研究所教授）
 小 山 光 一 （元大学院経済学研究所教授）
 松 浦 正 孝 （元大学院公共政策学連携研究部教授）

国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構と連携・協力に関する協定を締結

平成30年3月13日（火）、本学は国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構（以下、農研機構）と連携・協力に関する協定を締結しました。

この協定は、両機関が相互に連携・協力をを行い、共同研究、研究成果の普及及び農業・食品産業分野における人材育成等を推進することにより、我が国の農業・農村及び地域の活性化並びに国民生活の向上に寄与することを目

的として締結したものです。

締結式は本学で行われ、名和豊春総長及び農研機構の井邊時雄理事長による協定書への調印と代表者挨拶が行われました。

本協定では両機関の代表者で構成する連携協議会と以下4つの分科会を設置し、幅広い分野で相互に協力し合いながら、社会の更なる発展に貢献することを目指しております。

第1分科会：農業・食品産業を牽引する先導技術

第2分科会：食による疾病予防、健康創成

第3分科会：農業イノベーションに向けた地域戦略

第4分科会：農業・農村環境の創造

（産学連携課）



協定書を手し、握手をする井邊時雄理事長[㊤]と名和豊春総長[㊦]

「サステイナブルキャンパスマネジメント本部」を設置

4月1日付けで、運営組織として「サステイナブルキャンパスマネジメント本部」が設置されました。

本学は、これまで施設・環境計画室とサステイナブルキャンパス推進本部の2つの運営組織のもとで、施設・環境整備、環境負荷低減、キャンパスの歴史的資産の保全・活用や生態系保全

の業務遂行、これらにかかる全学参加型のワークショップ等の企画を行ってきました。2つの運営組織の業務の目的は重なるものが多いため、これらをより柔軟かつ機動的に行うことを目指し、この2つの組織の大半の業務を「サステイナブルキャンパスマネジメント本部」に一元化しました。これに

より、本学のキャンパスを持続可能な社会実現のモデルとするサステイナブルキャンパスの取り組みを、より一層推進することとしています。

（サステイナブルキャンパスマネジメント本部）

平成29年度「北海道大学総長表彰」表彰式を挙



被表彰者と総長ほか列席者

3月15日(木)、百年記念会館大会議室において「教育研究総長表彰」「教育研究支援業務総長表彰」表彰式が執り行われ、関係者列席のもと、名和豊春総長から被表彰者に、賞状及び報奨金(目録)が授与されました。

教育研究総長表彰は、教育活動及び研究活動を通し、特に優れた功績をあげた教員を、また、教育研究支援業務総長表彰は、業務改善等の取り組みを通し優れた功績をあげた職員を顕彰することにより、本学の活性化と更なる

発展に資することを目的としたものです。

なお、このたび表彰を受けられた方々は、下記のとおりです。

(総務企画部人事課厚生労務室)

◆教育研究総長表彰

所 属	氏 名
文学研究科	弐 和 順
〃	佐 藤 健太郎
水産科学研究院	大 西 広 二
理学研究院	前 田 理
〃	加 藤 昌 子
先端生命科学研究院	グ ン 劍 萍
メディア・コミュニケーション研究院	金 ソンミン
〃	奈 良 雅 史

所 属	氏 名
工学研究院	谷 博 文
〃	泉 典 洋
〃	岡 部 聡
〃	菊 地 竜 也
医学院	玉 腰 暁 子
国際食資源学院	中 谷 朋 昭
電子科学研究所	三 澤 弘 明

◆教育研究支援業務総長表彰(貢献賞)

最優秀賞

技術部門 工学研究院工学系技術センター 伊東 茂昭

優秀賞

事務部門 理学研究院 数学部門事務室
技術部門 電子科学研究所技術部ナノ加工・計測技術班第1グループ

医療部門 大学病院 超音波センター

奨励賞

技術部門 低温科学研究所技術部 小野 数也
医療部門 北海道大学病院 検査・輸血部(輸血検査室)

医療部門 大学病院 超音波センター(心エコー室)

平成29年度「北海道大学職員表彰」表彰式を挙



被表彰者と総長ほか列席者

3月7日（水）、総長室において「北海道大学職員表彰」表彰式が行われ、関係者列席のもと、名和豊春総長から被表彰者に、賞状及びメダルが授与されました。

この表彰は、職務上顕著な功績等があった方及び職務外において職員の模

範として表彰に値する善行を行った方を対象とするものです。

このたび表彰された方は、獣医学系事務部主任の近藤哲仁氏で、スポーツチャンバラの日本および世界チャンピオンという実績と長年の競技生活から培った経験をもとに、北海道大学ス

ポーツチャンバラ部翠剣会に所属する学生を指導し、優秀な成績に導く等、スポーツチャンバラを通じて、本学の名誉を著しく高め、本学学生の健全な育成に多大な貢献をされました。

（総務企画部人事課厚生労務室）

北海道地区国立大学教養教育連携実施事業成果報告フォーラムを開催

北海道地区国立大学連携教育機構では、3月8日（木）に北海道地区国立大学教養教育連携実施事業成果報告フォーラムを高等教育推進機構N1講義室において開催しました。

北海道地区国立大学教養教育連携実施事業は、平成24年度国立大学改革強化推進補助金「北海道内国立大学の機能強化について～北大を拠点とする連携体制の構築」の一事業として、北海道地区国立大学間で締結した単位互換協定に基づき、各大学で開講している教養教育の授業科目の一部を双方向の遠隔授業や対面授業により提供し合うことにより、各大学の教養教育の充実強化を図ることを目的とした事業です。

平成26年度後期に試行した後、平成27年度以降は本格実施として、毎年100科目以上の単位互換科目が、双方向遠隔授業や対面授業で開講され、これまでに、延べ約1,300名の学生が単位互換科目を履修しました。

平成29年度が本補助金の最終年度であることから、本フォーラムでは、本

事業の成果報告を行いました。本フォーラムは、本学はじめ連携大学とテレビ会議を接続して行われ、一般の方を含め約50名の参加がありました。

プログラムの前半は、長谷川晃北海道地区国立大学連携教育機構長から、開会の挨拶と「これからの教養教育の在り方について」と題した基調講演の後、小林幸徳北海道地区国立大学連携教育機構副機構長から、本事業の成果報告が、重田勝介高等教育推進機構オープンエデュケーションセンター副センター長から、同センターにおいて、平成25年度から3年間、本事業の委託事業として開発した、デジタル教材の活用や反転授業の手法を取り入れた双方向遠隔授業に関する成果報告が行われました。

プログラムの後半は、これまでに本事業で遠隔授業を担当された授業担当教員の中から、池田文人高等教育推進機構准教授（人間と文化（ムーミン谷の仲間たち）担当）、亀田貴雄北見工業大学教授（「雪氷学」担当）、桑名保智旭川医科大学講師（「言葉と文化」

担当）の3名から、それぞれ特色ある遠隔授業の事例報告と今後のより良い遠隔授業の実施に向けたパネルディスカッションが行われました。

ディスカッションの中では、「遠隔授業であっても、通常の授業と変わらずに行うことができる」、「もっと多くの教員に遠隔授業を知って欲しい」等の意見があり、また、参加者のアンケートからも、「事例報告する先生の熱意に感心した」、「実際に授業運営されている先生方の率直な考えを伺うことができ、大変参考になった」等の意見が寄せられ、来年度以降の本事業の展開に期待する意見が寄せられました。

なお、本事業については、今後も継続して実施し、平成30年度は約90科目の遠隔授業や対面授業が開講されま

す。また、本フォーラム終了後に、これまでの成果を踏まえ、成果報告書を行

（学務部教育推進課）



長谷川晃連携教育機構長による基調講演



小林幸徳連携教育機構副機構長による本事業の成果報告



重田勝介高等教育推進機構オープンエデュケーションセンター副センター長による新たな授業方法の開発に係る成果報告



池田文人高等教育推進機構准教授による事例報告



連携大学とパネルディスカッションの様子



会場の様子

平成30年度北海道大学の予算

平成30年度 北海道大学収入・支出予算書

(単位：百万円)

収入				支出			
事項	前年度 予算額	30年度 予算額	増減額	事項	前年度 予算額	30年度 予算額	増減額
[一般会計]	43,385	43,888	503	[一般会計]	43,385	43,888	503
運営費交付金収入	32,788	33,108	320	財政課題対応経費（留保）	457	0	△457
学生納付金	9,389	9,429	41	人件費	27,760	27,794	33
雑収入	1,209	1,351	142	機能強化経費	687	524	△163
				特殊要因経費	1,750	2,114	363
				退職手当	1,467	2,006	539
				建物新営に伴う設備費	55	22	△33
				移転費	131	0	△131
				PFI事業維持管理経費	93	85	△8
				土地建物借料	1	1	0
				災害支援関連経費	4	0	△4
				調整費	200	200	0
				特定経費	2,804	3,061	257
				電子計算機借料	252	305	52
				電子ジャーナル経費	600	615	15
				公租公課、保険料等	889	954	65
				燃料費	0	0	0
				収入見合経費	1,062	1,187	124
				学長裁量経費	3,492	4,058	567
				学長裁量経費	2,240	2,318	78
				基幹経費化分	0	305	305
				機能強化促進分	1,252	1,435	183
				基盤配分経費	6,236	6,138	△97
[病院会計]	31,363	31,830	467	[病院会計]	31,363	31,830	467
運営費交付金収入	2,670	2,607	△64	人件費	8,819	8,779	△40
附属病院収入	28,466	28,992	526	機能強化経費	649	633	△16
雑収入	227	232	5	病院診療経費	20,273	21,140	867
				債務償還経費	1,514	1,172	△342
				基盤配分経費	108	107	△2
[外部資金会計]	21,631	22,648	1,016	[外部資金会計]	21,631	22,648	1,016
施設費補助金等収入	1,402	1,830	428	施設整備費	1,402	1,830	428
保育園運営費補助金収入	93	95	1	保育園運営費補助金事業費	93	95	1
寄附金収入	2,513	2,563	49	直接事業費	17,409	17,955	546
受託研究収入	6,231	6,988	757	寄附金事業費	2,460	2,517	56
共同研究収入	1,475	1,568	93	受託研究費	5,245	5,964	719
受託事業収入	1,000	846	△154	共同研究費	1,356	1,444	88
大学改革補助金等収入	1,951	1,783	△167	受託事業費	984	830	△154
文部科学省科学研究費補助金	6,723	6,775	52	大学改革補助金等事業費	1,945	1,769	△177
厚生労働省科学研究費補助金	177	115	△62	文部科学省科学研究費補助金	5,204	5,247	43
その他助成金等	66	86	20	厚生労働省科学研究費補助金	151	103	△48
				その他助成金等	63	81	18
				間接経費	2,727	2,768	41
				特定経費（電子計算機借料）	821	816	△4
				特定経費（燃料費）	554	568	15
				部局配分経費	1,353	1,384	31
合計	96,379	98,366	2.1%増 1,987	合計	96,379	98,366	2.1%増 1,987

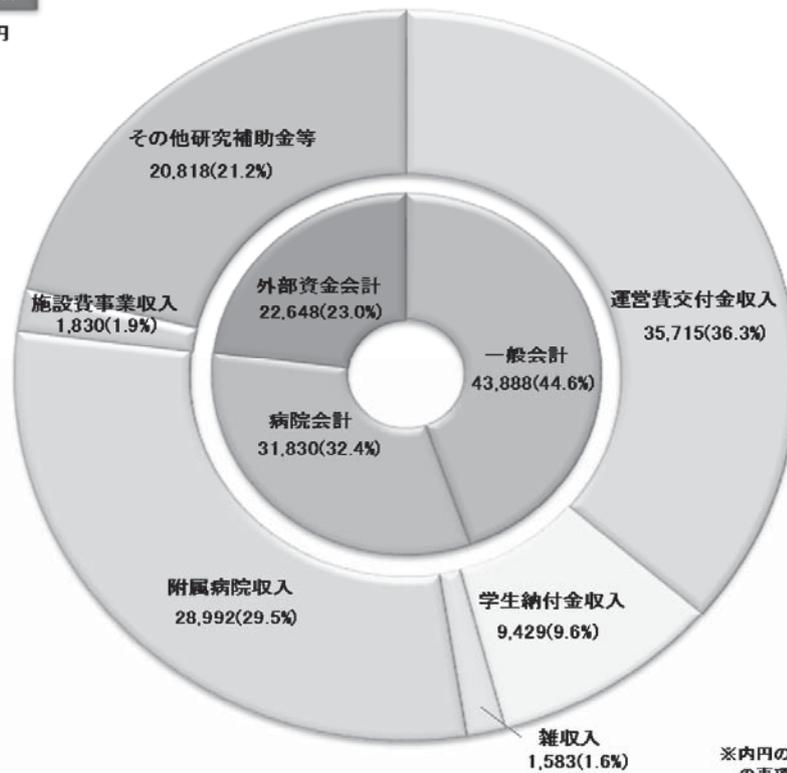
※項目ごとに四捨五入を行っているため、合計が一致しない場合があります。

平成30年度 北海道大学収入・支出予算（グラフ）

（単位：百万円）

収入予算全体

98,366百万円

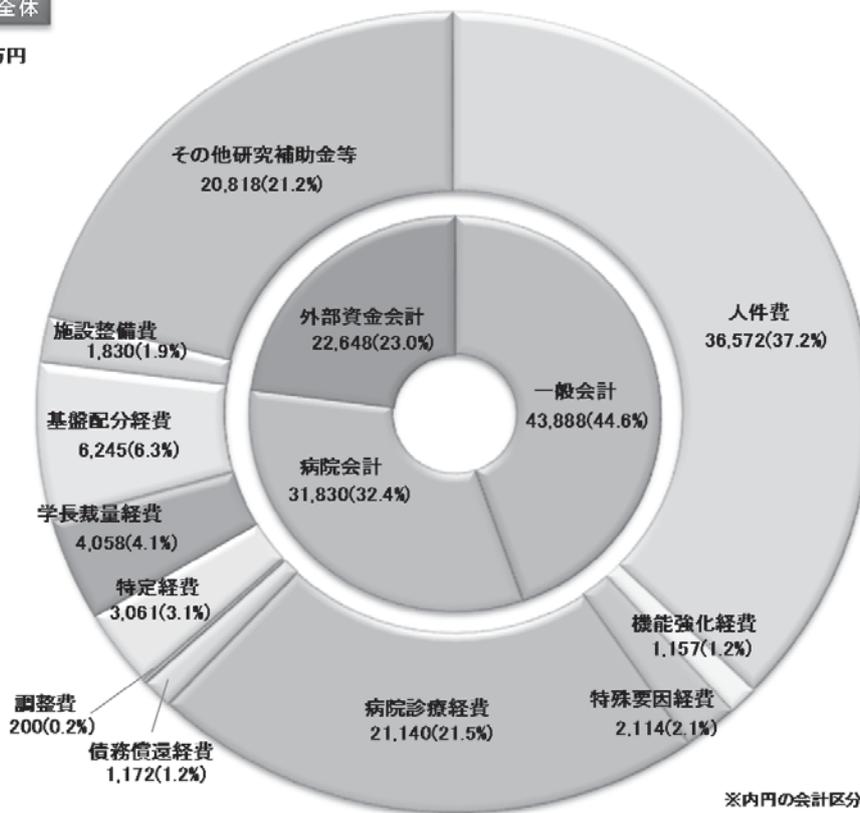


※内円の会計区分と外円の事項は一致しません。

（単位：百万円）

支出予算全体

98,366百万円



※内円の会計区分と外円の事項は一致しません。

※項目毎に四捨五入を行っているため、合計が一致しない場合があります。

（財務部主計課）

北大フロンティア基金

北大フロンティア基金は、本学の創基130年を機に、教育研究の一層の充実を図り、これまで以上に自主性・自立性を発揮して大学としての使命を果たすため、平成18年10月に創設しました。

募金目標額は50億円です。奨学金制度の充実や留学生への支援などの学生支援を中心に、研究支援、学部等支援など様々な事業を行っており、期限を付さない、息の長い募金活動を行うこととしています。

皆様には基金の趣旨にご賛同いただき、ご協力をお願いします。

北大フロンティア基金情報
基金累計額（3月31日現在）

22,007件 4,422,486,779円

3月のご寄附状況

法人等20社、個人228名の方々から68,970,000円のご寄附を賜りました。

そのご厚志に対しまして感謝を申し上げますとともに、同意をいただいているの方々のご芳名、銘板の掲示、感謝状の贈呈について掲載させていただきます。（五十音別・敬称略）

なお、基金累計額には、北海道大学大学院工学研究院の寄附金より移し替えた1,000,000円を含んでおります。

寄附者ご芳名（法人等）

アステラス製薬株式会社、一般社団法人WIND、栄研化学株式会社、株式会社O H E N、株式会社熊谷組、
医療法人社団京愛会 黒磯病院、市立釧路総合病院、第一三共株式会社、株式会社竹山、田辺三菱製薬株式会社、寺田医院、
北大応用マテリアル工学コース同窓会、北海道大学校友会エルム、株式会社明電舎

寄附者ご芳名（個人）

合川 正幸	朝賀 紳介	浅野 賢二	安部 崇重	石川 智喬	石黒晋太郎	入澤 秀次	岩見 大基
大沢 正人	太田 俊郎	大野 公男	大畑 昇	小倉 滋明	小田 庸男	小内 透	鬼丸 力也
小原 大和	埴山 雅秀	金川 眞行	金子豊三郎	蒲池 浩文	神山 俊哉	河本 充司	久米 尚雄
今野武津子	斉藤 久	坂本 大介	坂本 由則	佐藤 真未	三升畑元基	関口 新造	瀬名波栄潤
曾我 時久	高野 一夫	高橋 国広	竹田洋一郎	津田 和男	土家 琢磨	土屋 文人	出口 達也
寺澤 睦	豊田 威信	鳥潟 肇	内藤 直樹	中川 洋	中村 克宏	成田 吉明	新田 幸絵
林 眞	船津 保浩	山田 勉	横尾 英樹	吉田 広志			

銘板の掲示（20万円以上のご寄附）

（法人等）

アステラス製薬株式会社、一般社団法人WIND、株式会社O H E N、医療法人社団京愛会 黒磯病院、
市立釧路総合病院、第一三共株式会社、株式会社竹山、田辺三菱製薬株式会社、株式会社明電舎

（個人）

石川 智喬、岩見 大基、太田 俊郎、小倉 滋明、鬼丸 力也、蒲池 浩文、神山 俊哉、高野 一夫、高橋 国広、
成田 吉明

感謝状の贈呈



大塚 榮子 様 (平成30年3月7日)



石山 喬 様 (平成30年3月7日)

ご寄附のお申し込み方法

北大フロンティア基金ホームページの「教職員の方によるご寄附について」にアクセスして下さい。

<https://www.hokudai.ac.jp/fund/howto-staff.html>

①給与からの引き落とし

ホームページから「北大フロンティア基金申込書（兼・給与口座からの引落依頼書）」をダウンロードし、ご記入の上、基金事務室に提出してください。

②郵便局または銀行への振り込み

基金事務室にご連絡ください。払込取扱票をお送りします。

③現金でのご寄附

寄附申込書に現金を添えて、基金事務室にご持参ください。

申込書は、ホームページから「北大フロンティア基金申込書（教職員現金用）」をダウンロードしてご記入いただくか、基金事務室にもご用意していますので、基金事務室にお越しただいてからご記入いただくことも可能です。

④クレジットカード決済・コンビニ決済でのご寄附

北大フロンティア基金ホームページ

(<https://www.hokudai.ac.jp/cgi-bin/fund/bin/xRegist.cgi>) の寄附申し込みフォームから申込をお願いします。

北大フロンティア基金に関する問い合わせ 基金事務室（北海道大学 百年記念会館内・学内電話 2017）

（総務企画部広報課）

新渡戸スクール修了式を挙行

平成29年度新渡戸スクール修了式を3月19日（月）に、学术交流会館にて執り行いました。

修了式は、基礎プログラム1期、2期及び3期修了生の109名、及び上級プログラム1期修了生の25名から50名が出席する中、名和豊春校長から、修了生代表のスクール生3名に修了証書が授与されました。

名和校長は告辞の中で、「近年、グローバル化という言葉によって象徴される社会の急激な変化に対応するため、個々の専門性を超えてチームで問題に立ち向かい、新たな社会的価値を生み出すことができる人材の必要性が高まっている」ことに触れ、修了生に対し、「新渡戸スクールにおける学びと経験をもとに、本学と世界をつなぐネットワークのハブとなり、国際社会の発展に寄与する指導的・中核的な人材となることを願っております」との激励の言葉を贈りました。

最後に、修了生代表の挨拶として、基礎プログラム2期生代表のタヌイエリシャ キビチさん、同3期生代表の豊田めぐみさん、及び上級プログラ

ム修了生代表の山崎莉佳さんが、新渡戸スクールで学んだ経験や今後の抱負などについて英語で挨拶を行い、修了式を終えました。

修了式後は、北大新渡戸同窓ネットワーク懇親会を開催しました。懇親会には修了生の他、新渡戸スクールメンターの森順子氏、藤井幸大氏、基礎プ

ログラム科目の実施にご協力いただいた石井宏和氏、及び平成28年度修了生の三嶋渉さんが出席しました。懇親会の実施にご協力いただいた皆様に改めて御礼申し上げます。

（学務部教育推進課）



修了証書授与



名和校長による告辞



基礎プログラム修了生代表の挨拶



上級プログラム修了生代表の挨拶

平成29年北大えるむ賞授与式を挙



受賞者記念撮影

3月20日（火）、総長室において、平成29年北大えるむ賞の授与式を行い、名和豊春総長から賞状の授与と記念品が贈呈されました。

北大えるむ賞は、平成9年度に本学の伝統である全人教育の充実のため、学生の健全な課外活動及び社会活動等を積極的に支援し、その振興と活性化

を図ることを目的として創設されたものです。

本学の学生を対象として、国際的・全国的規模の競技会等に参加し優秀な成績をおさめ課外活動の振興に功績があったもの、社会活動において優れた評価を受けたもの、自己研鑽並びに他の学生の指導などに優れた評価を受け

たものなどに対して表彰しているもので、今回は、応募のあった23件から6件が決定されたものです。

名和総長から受賞者へ労いと激励の言葉があり、受賞者は今後の更なる活躍を誓いました。

（学務部学生支援課）

受賞団体・個人と受賞理由

◆個人

- 北 航平
「第55回全日本学生選抜競技ダンス選手権大会」においてモダン個人総合の部で第1位。
- 種田 健二
「日露青年フォーラム」に北海道の学生として唯一選出され、アイヌ文化に関するプレゼンテーションを行い、未来志向の日露関係の構築に貢献。
- 戸田 賀奈子
「2017年ストックホルム国際青年科学セミナー（SIYSS）」に日本代表として参加。

◆団体

- 北海道大学躰道部
「第7回世界躰道選手権」男子団体法形競技において優勝したこと。
- 北海道大学エレガントスキー部
「第44回全国学生岩岳スキー大会」基礎スキーの部において、男子団体演技で1位、男子クラブ総合成績で1位。
- Team Bits
JP HACKS 2017において、「Smart Jaguchi」というプロダクトを開発し、Best Hack Award（最優秀賞）及びInnovator認定を受けた。

平成29年度北海道大学大塚賞授与式を挙

3月20日（火）、総長室において、北海道大学大塚賞授与式を挙

式を行いました。大塚賞は、大学院博士課程を当該年度内に修了し、研究者を目指す優秀な女子学生に授与される奨励金制度です。

今回は平成29年度内の博士課程修了予定者6名及び既修了者4名、計10名が受賞者として選ばれました。

授与式には名和豊春総長、大塚榮子名誉教授、長谷川晃理事・副学長、長谷山美紀女性研究者支援室長列席の下、名和総長より賞状が授与され、お祝いの言葉が述べられました。

式終了後には、大塚賞受賞者講演会が学術交流会館にて開催され、今年度受賞者代表並びに平成19年度受賞者の研究紹介及び講演があり、最後に大塚名誉教授から講評と激励のお言葉をいただきました。

引き続き交流会が開催され、研究分野に関する情報交換や将来の活躍を誓い合う機会となりました。

これからも、研究者を目指す多くの女子学生が受賞されることを期待しております。

（学務部学生支援課）

受賞者

文学研究科	金 惠 璘
経済学研究科	陳 プン君
理学院	中 島 悠 貴
工学院	SHANYA ORASUTTHIKUL
総合化学院	齋 藤 沙弥佳
総合化学院	倉 千 晴
獣医学研究科	西 森 朝 美
医学研究科	渡 邊 美 佳
生命科学院	蘇 武 佑里子
環境科学院	滝 沢 侑 子



賞状の授与



お祝いの言葉を述べる名和総長



記念撮影

平成29年度北海道大学クラーク賞授与式を挙

3月19日（月）、高等教育推進機構中会議室において、平成29年度北海道大学クラーク賞授与式を挙

式を行いました。北海道大学クラーク賞は、平成27年度末で解散した公益財団法人北海道大学クラーク記念財団が、特に優秀な学業成績を修め、かつ、人格に優れた本学学部卒業予定者を対象に実施していたクラーク賞を本学が継承して、平成28年度から北海道大学クラーク賞として制定した新しい賞です。

北海道大学クラーク賞は、本年、北海道大学を卒業される学部学生の中から、所属の学部において、最も優秀な学生であると推薦された1名を表彰するものです。

表彰式では、山口淳二副学長から13名の受賞者のうち所属学部において表

彰式を行う6名を除く7名に賞状と記念品が授与され、続いてお祝いと期待の言葉が述べられました。

なお、所属学部において表彰式を挙

（学務部学生支援課）

受賞者

文学部	萬里小路 裕樹
教育学部	前 原 一 輝
法学部	玉 木 咲 良
経済学部	金 川 聖 也
理学部	恒 川 佳 諒
工学部	田 中 泰 爾
農学部	三 隅 智 央
獣医学部	浅 野 裕美恵
水産学部	河 村 眞 美
医学部医学科	原 田 拓 弥
医学部保健学科	野々川 茉 佑
歯学部	布 川 裕 規
薬学部	河 合 賢太郎



賞状の授与

平成29年度北海道大学鈴木章記念賞－自然科学実験－表彰式を挙

3月27日（火）、高等教育推進機構中会議室において、平成29年度北海道大学鈴木章記念賞－自然科学実験－表彰式を挙

行しました。この賞は、全学教育科目「自然科学実験」において、特に優秀な成績を修め、本学の目指す全人教育の理念にふさわしい学生を表彰するために設けられた制度です。

表彰式は、長谷川晃高等教育推進機構長、出口寿久学務部長の列席の下、長谷川機構長から5名の受賞者のうち2名の欠席者を除く3名に賞状が授与

されました。

続いて長谷川機構長から、鈴木章名誉教授の経歴の紹介とともに、「学術と社会の発展に貢献できる人材へと育てていただきたい」との挨拶がありました。

受賞者は、偉大なる先輩の名を冠した賞を授与されたことにより、今後も勉学に一層励むべく自覚を新たにしてい

ました。（学務部学生支援課）

被表彰者

【第1学期被表彰者】

17組 山口 颯 人
17組 大野 雅 史

【第2学期被表彰者】

38組 藤 木 卓 巳
43組 尾 谷 雪 花
51組 太 田 恭 輔



賞状の授与



記念撮影

平成29年度 北海道大学特別修学支援活動賞授与式を挙

行しました。3月20日（火）、事務局1号館会議室Dにおいて、平成29年度北海道大学特別修学支援活動賞の授与式を行い、長谷川晃理事・副学長から賞状の授与と記念品が贈呈されました。

北海道大学特別修学支援活動賞は、

本年度から新たに設立された賞であり、本学の障害学生への支援の意識向上と支援活動の更なる活性化を図ることを目的として、本学特別修学支援活動において著しく貢献した学生に対し表彰する制度です。

初年度である今回は、24名の学生が受賞者として選ばれました。

（学務部学生支援課）

平成29年度北海道大学企業研究セミナーを開催

キャリアセンターでは、北海道大学校友会エルクとの共催により、3月1日（木）から15日（木）までの期間中14日間にわたり、クラーク会館において「平成29年度北海道大学企業研究セミナー」を開催しました。

本セミナーは、北大生の地理的ハンディキャップを解消し、学生が主体的に業界・企業研究を行うことで「就職活動へ向けての礎を築く」ことを目的に平成16年度から開催しています。本年度は、全国から北大生の採用に積極的な680の企業・団体の参加を得るとともに、延べ約20,000名の学生が参加しました。

セミナーでは、午前・午後各25ヵ所のブースで、企業・団体の採用担当者

や本学OB・OGからそれぞれの業界・企業に関する説明が行われ、参加学生は熱心に耳を傾け、積極的に質問していました。

午前の部と午後の部の間には、「留学生相談コーナー」を毎日開催し、外国人留学生採用に積極的な81社の参加を得て、延べ108名の留学生が率直な質疑応答を交わしました。

午後の部終了後は、「情報交換会」を毎日開催し、254社の採用担当者と延べ約800名の学生が参加して、和やかな雰囲気での交流を深めました。

特別企画として開催日前日の2月28日に開催した「公開模擬面接会」では、協力企業12社の採用担当者と受検学生24名との間で本番さながらの形式

で面接が行われ、延べ764名の見学学生とともに面接での留意点や課題を確認していました。また、期間中の3月6日に開催した「外国人留学生就職セミナー」では、国内企業で活躍している外国人社員及び本学留学生の内定者から、就活での苦労話や雇用慣行の違い、仕事内容など様々な経験談について講話があり、33名の留学生が参加しました。

キャリアセンターでは、引き続き、各種の就職ガイダンス・セミナーや個別相談等を通じて、学生の就職支援を継続していきます。

(キャリアセンター)



会場外観



企業説明



留学生相談コーナー



情報交換会



公開模擬面接会



外国人留学生就職セミナー

タイリエゾンオフィス開所式及び大学交流デーを開催



タイリエゾンオフィス開所式集合写真



タイリエゾンオフィス

本学は平成29年5月にタイのカセサート大学カンペンセン校内にタイリエゾンオフィスを開設し、本学の広報や研究交流の拠点として運用を行ってきましたが、2月27日（火）にその開所式と北海道大学交流デーをタイのバンコク市内にあるミラクル・グランド・コンベンションホテルで開催しました。本学からは、横田 篤農学研究院長、川野辺創国際連携機構副機構長他、15名の教職員が参加しました。

午前中の開所式では、まずカセサート大学カンペンセン校農学部長 Pabhop SINCHAYAKUL先生、同大学バンケン校総長補佐 Soysuda NARANONG先生及び川野辺国際連携機構副機構長から挨拶がありました。続いて、在タイ日本国大使館の寺島史朗一等書記官から祝辞をいただいた後、本学アンバサダーのカセサート大学前農学部長 Seksom ATTAMANGKUNE先生とマヒドーン大学の Pairoj

LUANGPITUKSA先生から挨拶がありました。引き続き、横田農学研究院長から本学の紹介が、カセサート大学の Chamaipak TAYJASANANT先生から同大学の紹介が行われました。また、小林泰男農学研究院教授から本学農学院とカセサート大学農学部とのコチュテルプログラムについて説明した後、署名式が行われました。開所式には、タイ国内から、本学と大学間交流協定を締結しているアジア工科大学、マヒドーン大学、チュラロンコン大学、モンクット王工科大学トンブリ校、タマサート大学からも出席があったほか、ASEAN地域と北海道の架け橋となる人材育成に向け、本学及び北海道と覚書を締結する北洋銀行から、バンコク駐在員事務所の渡辺孝史所長が出席しました。

午後には、北海道大学交流デーが開催され、本学教員から獣医、環境、工学、水産学の分野についての研究紹介

を行った後、カセサート大学全体の教育及び研究紹介があり、その後、本学の波多野隆介農学研究院教授から、本学とタイヤインドネシアのパートナー校が協働して実施しているPAREプログラムの紹介が行われました。最後に、2名の本学留学経験者から挨拶及び留学時の体験についての紹介があり、井上 京国際食資源学院長から閉会の挨拶がありました。本大学交流デーにはカセサート大学の教職員、学生を中心に約120名の参加がありました。

今回の開所式及び大学交流デーの成果をもとに、タイリエゾンオフィスを活用した、本学とタイのさらなる交流の活性化が期待されます。

(国際部国際連携課、
農学院・農学研究院・農学部)

フィリピンリエゾンオフィス開所式及び大学交流デーを開催

本学は3月6日（火）にフィリピンのケソン市にあるフィリピン大学ディリマン校（UPD）内にフィリピンリエゾンオフィスを開設し、開所式及び大学交流デーを開催しました。本学とフィリピン大学とは2014年7月に大学間交流協定を締結しています。本学からは、網塚 浩理学院長、川野辺創国際連携機構副機構長他、21名の教職員が参加しました。

6日午前中から始まった開所式では、フィリピン大学のGil S. Jacinto副学長補佐、UPDのMichael L. Tan学長の挨拶の後、網塚理学院長から挨拶が

ありました。続いて、在フィリピン日本大使館の桑原 敦総領事兼総務公使から祝辞をいただきました。その後、双方の大学の国際部署から、各大学の国際戦略の取組が紹介され、本学からは川野辺国際連携機構副機構長が発表し、フィリピンリエゾンオフィスを代表して高橋幸弘理学研究院教授がオフィスについて紹介しました。また、本学のアンバサダーで元科学技術副大臣のDr. Amelia P. Guevaraと、本学パートナーで、UPDの学術担当副学長のDr. Evangeline C. Amorから祝辞をいただきました。

午後からは、北海道大学交流デーが開催され、理学、地球環境、情報科学、工学の分野にわかれて、双方の大学の教員が交流し、それぞれの研究紹介や共同研究の可能性があるテーマを中心に発表が行われました。

フィリピンリエゾンオフィスでは、今回の開所式及び大学交流デーの成果をもとに、本学の広報や研究交流の拠点として、本学とフィリピンのさらなる交流の活性化を推進していきます。

（国際部国際連携課、
理学院・理学研究院・理学部）



フィリピン大学ディリマン校



キャンパスツアーの様子



網塚理学院長挨拶

中国北京リエゾンオフィス開所式及び中国科学院大学丁仲礼 (テイ・チュウレイ) 学長北海道大学名誉学位記授与式の開催



中国科学院大学前にて集合写真

3月25日(日)、中国科学院大学玉泉路キャンパスにおいて、中国北京リエゾンオフィス開所式ならびに中国科学院大学丁仲礼(テイ・チュウレイ)学長への北海道大学名誉学位記授与式が執り行われました。本学からは、名和豊春総長、横田篤農学研究院長、王秀峰総長補佐、川野辺創国際連携機構副機構長他、2名の職員が参加しました。

開所式は、吴岳良中国科学院大学副学長の挨拶で始まり、続いて、丁学長、名和総長、科学技術振興機構米山春子中国総合研究センター参事役からの挨拶がありました。丁学長からは、「北海道大学との交流を通じて、中国と日本の友好、さらにはアジアをはじめとする国際社会の発展に貢献していきたい。」とお言葉がありました。その後、中国科学院大学の映像による大学紹介及び川野辺副機構長による北海道大学の紹介が行われました。

中国北京リエゾンオフィスは、丁学長の多大なお力添えがあったため、開設に至ることができました。同オフィスは、中国科学院大学の学長室と副学長室等の間にあり、同大学の中でも特に利便性の高い場所に位置しています。この素晴らしい環境を活かした、

今後のネットワーク構築、日中間の学術交流のより一層の発展が期待されます。

続いて、丁学長に対する名誉学位記授与式が執り行われました。これは、丁学長が、国際文化交流その他の活動を通じ、本学の教育・研究の進展に寄与した功績が特に顕著であるため、北海道大学名誉博士の授与を決定したことによるものです。

丁学長は、約45,000人の学生が在籍する中国の名門校である中国科学院大学の学長でありながら、中国民主同盟(CDL)中央委員会の第12代会長に任命される等、政治分野でも重要な役割を担っています。また、丁学長は過去20年間にわたり、約260万年前から現在に至る時代区分である「第四紀」の気候変動と、それに関連する強制力と応答メカニズムに焦点を当て、中国黄土高原におけるレス層序の土壌層位学的対比を系統的な観察に基づき実施し、中国におけるレス研究の基礎を築かれました。

丁学長と本学との関係は、2017年5月に上海で開催された日中大学フォーラムでの本学の名和総長との懇談等により深められました。2017年12月には、本学と中国科学院大学との間で、「学



挨拶をする丁学長



名和総長からの学位記授与後の様子

術交流に関する協定」と「学生交流に関する覚書」が締結されました。さらに、今回の中国北京リエゾンオフィスの開設など、短期間にこれだけの交流の進展ができたのは、丁学長のご尽力によるものです。

式には、北海道大学の同窓生や北海道大学と研究交流を進めている中国科学院の二つの研究所の代表者など60名を超える出席者があり、名和総長から丁学長に対し、学位記が授与されました。これに対し、丁学長は「大変名誉なこと。今後も両大学の交流推進に尽力したい。」と喜びのお言葉を述べられました。

今回の授与により、本学の名誉学位被授与者は40人となりました。

(国際部国際連携課)

平成29年度第2回HUCIフォーラム「HUCI構想の軌跡と大学のグローバル化・グローバル教育の将来像」を開催

3月5日（月）に、学术交流会館講堂において、平成29年度第2回HUCIフォーラム「HUCI構想の軌跡と大学のグローバル化・グローバル教育の将来像」を開催しました。本フォーラムでは、文部科学省「スーパーグローバル大学創成支援事業」の本学の採択構想『Hokkaidoユニバーサルキャンパス・イニシアチブ（HUCI）』について、取組の実績や進捗状況、今後の展望等を紹介するとともに、日本の高等教育機関が推進してきた“国際化”や“グローバル人材育成”の意義や成果、今後の方向性等について、学外の大学関係者も交えた議論が行われました。

フォーラムは、名和豊春総長の開会挨拶で始まり、続いて、文部科学省高等教育局高等教育企画課国際企画室長の進藤和澄氏に来賓挨拶をいただきました。第一部では、笠原正典理事・副学長によるHUCI構想の概要の説明の後、山口淳二副学長をはじめ7名の

教職員より、新渡戸カレッジやHokkaidoサマー・インスティテュート等のHUCI構想の主な取組について、報告が行われました。

第二部では、名和総長がコーディネーターとなり、文部科学省の進藤室長、藤女子大学学長のハンスユージェン・マルクス氏、広島大学名誉教授の二宮皓氏、九州大学副理事・留学生センター長の渡邊公一郎氏、本学の長谷川晃理事・副学長をパネリストとして、パネルディスカッションが行われました。グローバル人材の定義や日本人学生と外国人学生の共修環境の重要性、キャンパスの国際化、多言語化やダイバーシティの意義等をテーマに活発な議論が行われ、コミュニケーション力や異文化理解力、主体性や協調性等のグローバル人材に求められる能力、日本人学生と外国人学生の混住型宿舎の重要性、世界に対抗するための大学間連携、外国人学生・日本人学生・教員の協働による国際化の推進、

英語以外の言語の重要性等、「グローバル教育」や「大学の国際化」に関する多くの貴重な意見が交わされました。

最後に行われた質疑応答では、外国人学生に対する日本語教育や博士人材のキャリア教育に関する質問に対して、パネリストがそれぞれの立場から答えていました。

今回のフォーラムには、学内外から101名の方に参加いただき、HUCI構想の取組について全学的な理解を深めるとともに、大学のグローバル化やグローバル教育に関する最新の知見を得る大変有意義なフォーラムとなりました。

なお、本フォーラムは、文部科学省スーパーグローバル大学創成支援事業の支援により実施しました。

（国際部国際企画課）



名和総長による開会挨拶



進藤室長による来賓挨拶



パネルディスカッションの様子

北海道大学交流デー（ウメオ大学）を開催

本学では、共同教育・研究及び学生交流を更に促進するため、欧州ヘルシンキオフィスが中心となり2月28日（水）・3月1日（木）にウメオ大学において北海道大学交流デーを開催しました。

ウメオ大学は、スウェーデンのヴェステルボッテン県のウメオ市にあり、1965年に設立された学生約31,000人、教職員約4,300人が在籍する総合大学です。本学とは、2013年8月に大学間交流協定を締結しています。

初日には、ウメオ大学からはハンス・アドルフソン副学長の他、教職員、研究者等約20名と、本学からは長谷川晃理事・副学長をはじめ、各研究科等から合わせて18名が出席し、在スウェーデン日本国大使館の鈴木 顕書記官、エドヴァルド・フリートウッド 瑞日基金事務局長、吉原誉夫JSPSストックホルム研究連絡センター副所長にもご出席いただきました。

開会式では、まずウメオ大学アドルフソン副学長、本学の長谷川理事・副学長から挨拶と各大学の概要説明があった後、鈴木書記官、フリートウッド事務局長、吉原副所長からそれぞれ祝辞をいただきました。

開会式の後には、本学のアイヌ・先住民研究センターの加藤博文教授とウメオ大学サーミ研究センターのクリスティーナ・セリーン・マクネイル博士

から、それぞれの大学の先住民研究について、また、本学北極域研究センターの大塚夏彦教授、ウメオ大学北極域研究センターのガブリエラ・ノルディン博士から、それぞれの大学の北極域研究について紹介があったほか、両大学の研究支援や、スウェーデンと日本の高等教育機関が連携して実施するMIRAIプロジェクトの活動概要の紹介が行われました。

二日目には、全体会において、両大学の参加者がそれぞれの研究内容を発表したあと、「北極域における国際政治・経済活動」「先住民研究」「北極域

におけるサステナビリティと生物多様性」の3つのグループに分かれ、研究内容に関する議論や今後の交流方法に関する具体的な打合せが行われました。

今後もヘルシンキオフィスでは、欧州諸国の教育・研究機関等との連携拡大、教員や学生の相互交流の促進、卒業生ネットワークの構築を行い、学術面にとどまらない幅広い面での交流を強化していきます。

(国際部国際連携課)



ウメオ大学アドルフソン副学長による挨拶



長谷川理事・副学長による挨拶



加藤教授によるアイヌ・先住民研究センター紹介



2日目の研究者交流の様子

北海道大学交流デー（浙江大学）を開催



浙江大学集合写真



農学分野研究交流セミナーの様子

本学では、共同教育・研究及び学生交流を更に促進するため、3月27日（火）・28日（水）に中国杭州市の浙江大学において、北海道大学交流デーを開催しました。

浙江大学と本学は2002年に大学間交流協定を締結したのち交流を重ねてきており、2010年3月にも大学交流デーを開催しています。

本大学交流デーでは、27日の午前中に本学農学研究院と浙江大学農学院、本学法学研究科と浙江大学法学院、本学理学研究院と浙江大学神経科学研究所、本学工学研究院と浙江大学控制科

学与工程学院、本学工学研究院と浙江大学建築工程学院の5つの分科会に分かれて、研究交流セミナーを実施し、翌28日には、引き続き本学理学研究院と浙江大学神経科学研究所、本学理学研究院と浙江大学数学科学研究院が研究交流セミナーを実施しました。

27日の午後に実施した全体会には、浙江大学から呉朝暉学長をはじめ教職員24人が出席し、本学からは、名和豊春総長をはじめ46人の教職員及び学生が出席しました。

全体会では、呉学長の挨拶からはじまり、続いて、本学の名和総長の挨拶

の後、同日午前中に研究交流セミナーを行った、法学分野、農学分野、数学分野、工学分野、医学及び保健科学分野の本学と浙江大学双方の教員から、研究交流セミナーの内容について報告がありました。

今後も国際連携機構では、中国における教育・研究機関等との連携拡大、教員や学生の相互交流の促進、卒業生ネットワークの構築を行い、幅広い面での交流を強化していきます。

（国際部国際連携課）

名和総長が清華大学を訪問



記念講演会



講演する名和総長

3月26日（月）に名和豊春総長、横田篤農学研究院長、齋藤保健健康科学研究院長他5名が、清華大学（北京）を訪問しました。

清華大学と本学との連携は、2003年に清華大学化学系と本学触媒化学研究センターとの間での部局間交流協定が締結されたことから始まり、2008年6月には、これまでの交流実績を踏まえ、大学間交流協定へと発展させ、それ以降全学レベルでの緊密な関係を築いてきました。

今回の訪問は、2017年7月に北海道と清華大学との間で締結した覚書に基づき、北海道知事が本学関係者や道内日中関係者、経済関係者とともに清華大学を訪問し、今後の交流の方向性について清華大学学長と協議する目的で

実施されました。

26日（月）午前中には、中日友好協会を表敬訪問し、中日友好協会唐家璇会長らと会談を行いました。午後には、清華大学芸術博物館及びSchwarzman COLLEGEを視察した後、清華大学陳旭書記を表敬訪問しました。

夕方からは、同大学の講堂にて記念講演会が行われ、産学官連携の取組をテーマに、高橋はるみ北海道知事と名和総長が基調講演を行い、横田農学研究院長から農学研究院の紹介、齋藤保健健康科学研究院長から保健科学研究院の紹介がありました。本講演会には、清華大学の教職員及び学生等、約120人の参加がありました。

名和総長の基調講演では、本学が現

在取り組んでいる大学の国際化、中国との交流状況について紹介された他、産学官連携に関する取組が紹介されました。また、今後は他分野融合による新学術領域の創造も試み、気候変動、少子高齢化、資源枯渇問題などの人類共通の課題の解決に重点的に取り組んでいくことが述べられました。さらに、北海道の自然や食資源、北海道と中国との交流についても紹介され、北海道と中国の交流発展の期待も述べられました。

本学はこれからも、清華大学との学術・研究交流を推進していきます。

（国際部国際連携課）

高等教育研修センターにて研修会を開催

高等教育推進機構高等教育研修センターでは、3月に以下のとおり研修会を開催しました。

(高等教育推進機構)

英語プレゼンテーション研修（中級編） 参加者：4名

開催日：3月6日（火）～7日（水）

開催場所：情報教育館4階共用多目的教室（2）

開催概要：研究内容を英語で発表する機会が増えていることから、英語によるプレゼンテーションの技術を磨くことを目的として、株式会社アルクによる2日間の集中セミナーを開催。

少人数指導のもと、参加者自身の業務や研究に関係のあるものについて、プレゼンテーションを行った。



英語プレゼンテーション研修（中級編）

アカデミック・ライティング研修（中級編） 参加者：12名

開催日：3月14日（水）

開催場所：情報教育館4階共用多目的教室（2）

研修概要：英語論文を執筆したことのある方を対象として、英語論文執筆に必要なライティング力の基本を身につけることを目的とした研修を開催。参加者はアカデミックな接続詞の使い方、パラグラフの構成と書き方、パラフレーズのコツ等、英語論文に特有の表現を学んだ。



アカデミック・ライティング研修（中級編）

ワークショップ「FD・SD研修マネジメント」 参加者：17名

開催日：3月15日（木）

開催場所：情報教育館4階共用多目的教室（2）

開催概要：大学設置基準の改正によりSD（スタッフ・デベロップメント）が義務化され、「大学は、その教育研究活動等の適切かつ効果的な運営を図るため（事務職員だけでなく、教員や技術職員を含む）職員を対象とした、必要な知識及び技能を習得させ、並びにその能力及び資質を向上させるための研修の機会」を用意することとなった。

このことを背景に、各高等教育機関でFD・SD研修を企画する可能性がある教職員を対象に、研修の企画運営方法を学び、効率的で効果的な研修の企画体験を行うためのワークショップを開催した。



ワークショップ「FD・SD研修マネジメント」

ワークショップ「改めて教育の質保証を検討する」 参加者：17名

開催日：3月15日（木）

開催場所：情報教育館4階共用多目的教室（2）

開催概要：教育の質保証という課題に対し、大学組織全体として取り組む必要があるなか、各大学において、授業改善や学習支援、カリキュラム改革そして各種制度整備など、多面的な取り組みが展開されている。

本ワークショップは、他大学における取り組み体制や効果検証等について、参加者同士が共有し、改めて教育の質保証について検討することを目的として開催した。



ワークショップ「改めて教育の質保証を検討する」

「大学等における安全保障貿易管理勉強会」を開催

3月5日（月）、北海道経済産業局の主催で「大学等における安全保障貿易管理勉強会」が開催されました。

近年、国際的な人的交流の活発化、海外との共同研究の進展等に伴い、軍事的に転用されるおそれのある物及びその技術が、大量破壊兵器等の開発者やテロリスト集団などに渡ることを未然に防ぐために輸出等を管理する「安全保障輸出管理」の徹底が重要な課題となっております。

昨年の法令改正（外国為替及び外国貿易法）（以下、外為法という）による罰則の強化等に伴い、経済産業省による先端的な研究開発を行う大学や研究機関向けの安全保障貿易に係るガイダンスの改訂がなされるなど、安全保障輸出管理を一層適切に運用していくことが求められております。

本勉強会では、文部科学省高等教育局高等教育企画課進藤和澄国際企画室室長及び経済産業省貿易経済協力局貿易管理部黒田紀幸安全保障貿易管理課長による外為法の改正内容、ガイダンス概要、アドバイザー派遣事業や地域ネットワーク等に関する講演に引き続き、本学からは産学・地域協働推進機構大林明彦教授より、「大学における安全保障輸出管理の取組について」と題して、本学の安全保障輸出管理に係る事例等を中心とした講演を行いました。

講演後は、輸出に際して許可が必要になる物や技術に関する質疑や、研究者自身が該当の有無をチェックする意識が必要といった意見が寄せられなど、活発な意見交換がなされました。

本勉強会には、道内10大学から42名

の参加があり、これを契機に、北海道地区における安全保障輸出管理に関する大学間ネットワークの形成なども視野に入れた、さらなる体制整備の推進が期待されています。

（産学・地域協働推進機構）



「大学における安全保障輸出管理の取組」について講演する大林教授

北海道大学特別学生「onちゃん」が第2学年に進級決定

3月13日（火）、本学特別学生である北海道テレビ放送株式会社（以下、HTB）のマスコットキャラクター「onちゃん」の進級判定が行われ、第2学年への進級が認定されました。

onちゃんは平成29年4月に本学特別学生として入学し、「北海道大学を知る」を活動のテーマに掲げ、1年間様々な学び体験を行いました。

4月には北海道大学体育会主催の1年生のみで行われる大運動会「クラスマッチ」に参加し、新1年生とともに汗を流しました。また、学生が暮らす恵迪寮や総合博物館の見学など、本学の歴史や研究成果を学びました。6月の北大祭では、International Food Festival (IFF) で多くの留学生と触れあい、10月の金葉祭では学生団体と共に会場を盛り上げました。12月には理学研究院のキャリアセミナーで研究室や最先端の研究成果を学び、1月には海外留学を検討している学生を支援する「トビタテ！留学カフェ」で先輩の体験談を聞き、留学に関心を持ちました。

進級判定では、onちゃんがレポートとVTRにより1年間の活動を発表し、長谷川晃理事・副学長からこれら

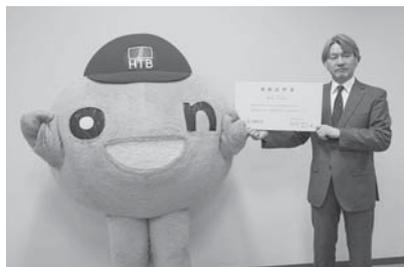
の活動が十分に認められ、進級証明書が手渡されました。

onちゃんのこうした活動は、本学とHTBの連携プログラム実施協定の一環として実施しており、「北海道を応援する」をテーマに、本学の教育・研究・地域貢献という役割と、HTBの地域メディア活動という役割を、両者の密接な産学連携活動を通じて一体

となって推進し、北海道の活性化に貢献することを目的としています。今後もonちゃんを通じて北海道と本学の魅力を道内外へ発信していきます。

（インスタグラム「onchan_campuslife」
https://www.instagram.com/onchan_campuslife/）

（産学・地域協働推進機構）



長谷川理事から進級証明書を手渡されたonちゃん



クラスマッチに参加したonちゃん(平成29年4月)



総合博物館で学ぶonちゃん(平成29年4月)



北大祭で留学生と触れ合ったonちゃん(平成29年6月)

本学入学式において産学連携の取り組みをアピール

4月6日（金）、札幌コンベンションセンターで行われた入学式に産学・地域協働推進機構のブースを初出展し、本学の産学連携の取り組みをプロモーションしました。本学が推進する組織型の共同研究である産業創出部門や、大学院水産科学研究所が開発した海藻栽培技術を利用して生産したガゴメコンブである「北大ガゴメ」の事例について、パネルを用いて紹介しました。

また、「北大ガゴメ」ブランドとし

て商品化した北大石鹸など、北大ブランドを活用した新商品を販売し、入学式や父母から人気を集めました。

北大石鹸は、4月から、北大構内の

エルムの森ショップで販売されています。

（産学・地域協働推進機構）



産学・地域協働推進機構ブースの様子



4月から販売されている北大石鹸

■ 部局ニュース

歯学研究院・歯学院がサッポロデンタルカレッジと部局間交流協定を締結

歯学研究院・歯学院は、2月27日（火）、サッポロデンタルカレッジと部局間交流協定を締結しました。

バンラデシュ・ダッカ市内で開催された調印式には、歯学研究院から横山敦郎研究院長、鄭漢忠教授、有馬太郎准教授ら5名が赴き、サッポロデンタルカレッジからはMohiuddin Ahmed学長をはじめ、在バンラデシュ日本国大使館、バンラデシュ政府高官及びダッカ大学医学部等の関係者が多数参加して行われました。

サッポロデンタルカレッジ（Sapporo Dental College, University of Dhaka）は、Mohiuddin Ahmed学長をはじめ、本学に留学し、学位を取得した口腔外科・保存・補綴・矯正・病理を専門とする同志により、バンラデシュの歯科医学・医療の発展と人材育成を目標に掲げ、2000年に設立されました。

調印式でMohiuddin Ahmed学長は、協定締結は新たな関係の始まりであり、両校のこれからの交流発展を願

う旨述べられました。今後は、本協定に基づき、国際共同研究の実施や教育研究における交流連携が一層推進されることが期待されます。

また、バンラデシュ訪問中には、在バンラデシュ日本国大使館大使公

邸に招かれ、泉裕泰特命全権大使等とのバンラデシュにおける教育・社会事情について情報交換が行われました。

（歯学院・歯学研究院・歯学部）



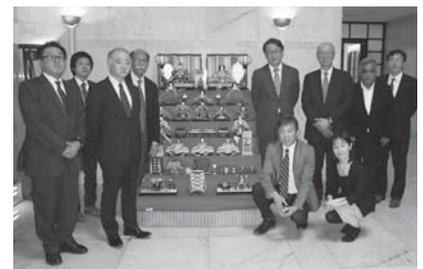
調印する横山研究院長（左）とAhmed学長



調印式参加者の集合写真



サッポロデンタルカレッジ視察の様子



在バンラデシュ大使館大使公邸にて

法学研究科・法学部優秀賞授与式を挙行

法学部では、3月22日（木）にエンレイソウにおいて、法学研究科・法学部優秀賞授与式を行いました。

この賞は研究・教育等に関し、顕著な功績等のあった学生又は同窓生を顕彰するため平成29年7月に新たに設けられたもので、今回が初の授与式となります。

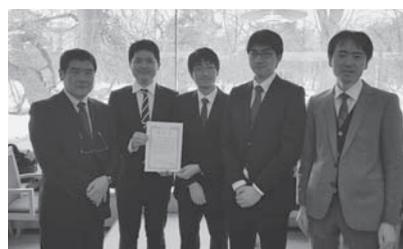
「2017Jessup国際法模擬裁判大会国内予選」において総合準優勝となったチーム5名及び「模擬国際商事仲裁大会 準備書面の部」で佳作となった8名、計13名が初の受賞者となり、卒業・修了祝賀会に参加した多くの学生、教職員が見守るなか、加藤智章研究科長から表彰状が授与されました。

今後もこの顕彰が、本研究科及び本学部学生の積極的な向学心の向上や社会貢献をより一層喚起するものとなることを期待しています。

（法学研究科・法学部）



賞状授与



受賞者、関係教員及び研究科長



北海道大学クラーク賞，函館市長賞及び水産科学院の各種表彰授賞式を挙

3月23日（金），フォーポイントバイシエラトン函館において，北海道大学クラーク賞，函館市長賞及び水産科学院の各種表彰の授賞式を学位記授与式に引き続き，執り行いました。

各賞について説明しますと，「北海道大学クラーク賞」は，本年本学を卒業する学部生の中から所属の学部にお

いて最も優秀な学生であると推薦された学生を表彰するものです。「函館市長賞」は，優秀な成績で学士課程を卒業する者に対し，函館市から贈られる賞です。「水産科学院表彰」は，学術上優れた研究成果を挙げた大学院学生に授与する水産科学院独自の表彰制度です。

授賞式では，北海道大学クラーク賞は総長から，その他の賞は安井 肇学院長からそれぞれに賞状が贈られ，お祝いの言葉が述べられました。

（水産科学院・水産科学研究院・水産学部）



授与式の様子



祝辞を述べる安井学院長

名 称	学 年	受 賞 者
北海道大学クラーク賞	水産学部4年	河村 眞美
函館市長賞	水産学部4年	渡邊 大輝 篠野 恵利香 田村 昂 豊嶋 彩香
水産科学院表彰 （伊藤一隆賞）	大学院水産科学院 博士後期課程3年	宮下 洋平 張 鐸
水産科学院表彰 （佐々茂雄賞）	大学院水産科学院 修士課程2年	各務 彰記 田中 桜花
水産科学院表彰 （ジョンカッター賞）	大学院水産科学院 修士課程2年	MD レアブル イスラム

水産学部キャンパス移行式及びくろしお賞授賞式を挙行

水産学部3年次の函館キャンパスへの移行に伴い、4月2日（月）、講義棟大講義室において、キャンパス移行式を行いました。

式には、木村暢夫研究院長のほか、川合祐史副研究院長、藤森康澄副研究院長、評議員、学科長、教務委員長、学生委員長、練習船船長及び学科担任が出席し、木村研究院長から195名の

移行者へ、函館キャンパスで新たに始まる学生生活に向けて激励がありました。

移行式終了後には、引き続き、水産学部くろしお賞の授賞式を行いました。

本表彰は、優れた学業成績により水産学部第3年次に進級し、函館キャンパスに移行した学生を表彰する水産学

部独自の表彰制度です。

受賞者である海洋生物科学科3年の山本碧都さんには、木村研究院長から賞状が授与され、お祝いの言葉が述べられました。

（水産科学院・水産科学研究院・水産学部）



移行生を激励する木村研究院長



授賞式の様子

物質科学リーディングプログラム（ALP）パイロット生の修了式を挙

3月16日（金）、事務局2号館の大会議室にて物質科学リーディングプログラム（ALP）のパイロット生の修了式が行われました。ALPは、文部科学省博士課程教育リーディングプログラム事業の支援により、平成25年に発足しました。同年にプログラム生として初めて採用されたのが、この度プログラムを終了したパイロット生たちです。

修了式では開式の辞に続いて、プログラム責任者である長谷川晃理事・副学長より修了生一人ひとりに対して修了証書が授与されました。続いて長谷川理事・副学長により式辞、当プログラムのプログラムオフィサーである原口和敏日本大学教授より祝辞がそれぞれ読み上げられました。その後、修了生9人が一人ずつ挨拶を行い、プログラムでの成果や獲得した力について振り返りました。最後にプログラムコーディネーターである石森浩一郎理学研究院長よりお祝いの言葉が述べられ、

修了式は終了しました。

パイロット生は、それぞれが所属する研究院での研究活動に加え、数理連携科目、サイエンスコミュニケーション科目、産学連携・キャリア教育科目など、ALP独自のアクティブラーニング科目を履修しました。さらに、異分野ラボビジットや企業あるいは海外でのインターンシップ、海外サマーカーン、国際シンポジウム運営など、実践力を高めるためのイベントを経験した他、2回のQE（Qualifying Examination）を通過しました。平成27年には第3回全国博士課程教育リーディングプログラム学生会議を北大で開催し、170名規模のイベントを成功へと導きました。博士課程3年次の最後の1年間は独立研究や先端共同研究に従事し、その成果は多くの査読付き原著論文として公開されています。

修了生たちは今後、企業の研究所の社員あるいは大学の教員としてそれぞれの道を歩むこととなりますが、本

プログラムでの活動を通して得た経験や、他大学を含むリーディングプログラム修了生同士のネットワークを最大限活用し、未来を切り拓くグローバルリーダーとして、今後さらなる飛躍をすることが期待されます。

注）ALPは、文部科学省博士課程教育リーディングプログラム事業の支援を受けて平成25年度よりスタートした5年一貫の大学院教育プログラムです。ALPは産業界や学術・研究機関など、さまざまな領域で幅広く活躍可能なグローバルリーダーを養成することを目的としています。そのために、「圧倒的専門力」、「俯瞰力」、「フロンティア開拓力」、「国際的実践力」、「内省的知力」と名付けた5つの力を獲得することを目標としたカリキュラムと、充実した経済支援をプログラム生に提供しています。

（総合化学院）



修了証書を手渡す長谷川プログラム責任者



式辞を読み上げる長谷川プログラム責任者



祝辞を読み上げる原口プログラムオフィサー



挨拶を行う修了生



お祝いの言葉を述べる石森プログラムコーディネーター



終了証書を手にするパイロット生

タイ王国司法裁判所研修団が法学研究科で特別講義を受講



タイ王国司法裁判所研修団との記念撮影

3月2日（金）、タイ王国最高裁判所のSomchai Teekautamakorn判事を代表とする38名のタイ司法裁判所裁判官が法学研究科を訪れました。一行の今回の来学における最大の目的は、タイ司法裁判所事務局が主導する判事研修の一環として、同国の地方裁判所及び少年・家庭裁判所の若手判事が本研究科で提供される特別講義を受講することです。

特別講義が始まる前に、加藤智章法学研究科長が、「今回の特別講義が司法実務に携わられる皆様の研修にとって有益なものとなることを望む」との意向を述べ、本研究科職員とともに研修団の来訪を歓迎し、団長を務められ

るSomchai判事と記念品の交換を行いました。

特別講義の前半では、本研究科刑事法講座の小名木明宏教授が講師を務め、“Introduction to Japanese Law and Law System: Specialized from the Historical Viewpoints”と題するプレゼンテーション、後半では、民法講座の町村泰貴教授が“The Reform on Judicial System in Japan and Its Evaluation”をテーマとしたプレゼンテーションをそれぞれ英語で行いました。本研究科国際協力委員会世話人の城下裕二教授による司会進行のもと、そして研修団の一人であるNanthanuj Sirathranont判事に英語・

タイ語間の通訳を務めていただいた中で講義がスムーズに行われました。講義の最後の質疑応答で各講師は丁寧な説明をしていたほか、研修団からはタイの司法裁判所における裁判手続のIT化の状況についてご紹介いただき、有意義な情報交換ができました。

本研究科では、タイ司法裁判所裁判官を対象に日本の法制度の概観についての特別講義を提供するのは、2015年に続き2回目です。今後もタイ司法裁判所事務局をはじめ、海外の司法機関や法曹団体との更なる交流を進めていきたいと考えています。

（法学研究科・法学部）



記念品を交わすSomchai判事と加藤研究科長(右)

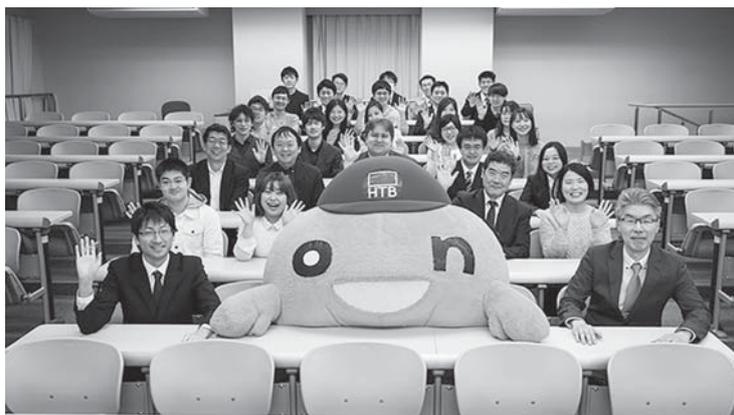


小名木教授による講義の様子



町村教授による講義の様子

特別学部学生onちゃんが法学部を訪問



集合写真

本学特別学部学生のonちゃんが、法学部での履修希望があるとのことで、3月13日（火）に法学部を訪問してくれました。

onちゃんから、法学部についてたくさんの質問を受けた加藤智章学部長は、法学部で学べる科目などについて丁寧に説明を行いました。

学部長から、法学部での履修環境を実感できるよう、法廷教室での模擬裁判学習を体験してみてもどうかとの提案があり、onちゃんは本学部学生と共に、積極的に模擬裁判に参加してくれました。

模擬裁判を通じ、本学部学生と交流した後は、本学部教員から法学部での

履修について具体的な説明を受け、onちゃんの訪問は終了となりました。

本学部にとっても楽しいひとときとなったこの訪問をきっかけに、onちゃんが、本学部の科目を履修登録してくれることを期待しています。

（法学研究科・法学部）



法廷教室にて模擬裁判体験



小浜先生から法学部履修について説明をうけるonちゃん



ハズハ先生に勉強方法を相談するonちゃん

経済学研究院で研究会「デジタル化時代の日本のものづくり」を開催

経済学研究院では、3月6日（火）に経済学研究棟3階会議室において、ものづくり経営に関する第一人者である、東京大学大学院経済学研究科教授で同大ものづくり経営研究センター長の藤本隆宏氏による「デジタル化時代の日本のものづくり」と題した研究会を地域経済経営ネットワーク研究センターとの共催で開催しました。

講演では、まず、藤本教授が前日に訪問して工場見学と講演を行った室蘭市で、鉄鋼業という韓国や中国の追い上げが厳しい産業でも他国に真似のできない特殊な高付加価値の製品を作れる企業は生き残っていること、同様の例が北陸の繊維産業など日本各地の中小企業でも見られることを紹介されました。

次に、過去20～30年にわたる日本の製造業が直面してきた厳しい環境をグローバル化とデジタル化に分け、前者は冷戦の終焉で突如現れた（主に中国の）膨大な数の日本の20分の1の低賃金の労働者によって、数倍の生産性向上では競争にならない状況、後者はアップル、グーグル、アマゾンなどICT（情報通信技術）の世界でリー

ダー企業がネットワーク効果で市場を囲い込み業界標準となり、その他の企業はそれを利用せざるを得なくなる状況と整理されました。前者については最近の新興国の賃金は日本の3～5分の1まで上昇しているため、地道に生産性向上に取り組んできた企業はコスト競争力で逆転するケースもある、しかし、後者についてはもう逆転は期待できないことを説明されました。

最後に、こうした厳しい環境にも拘らず高い利益率を実現している上述の企業など、日本の製造業で勝ち残っている様々な企業の成功の理由を分析し、従来からの日本の強みである地道なものづくり能力構築の継続という現場の努力と（広義の）イノベーションによる新たな市場獲得や的確な製品戦

略（ICTという「上空」レベルではなく「低空」レベルでの技術力を活かした業界標準の地位、あるいは圧倒的な生産性の高さを生かした汎用品での競争優位、など）を立案・実行できる本社の能力の両方が必要だと提言されました。

長年かけて観察されてきた何千という現場の情報やインタビューに基づく緻密な分析と、深く論理的な洞察から導き出された説得力のあるお話に、予定時間を30分程超過したにもかかわらず、本学の教職員、学生、一般の参加者、合わせて20名の参加者全員が熱心に聞き入っていました。

（経済学院・経済学研究院・経済学部）



講演する東京大学藤本隆宏教授



講演を熱心に聞き入る参加者

経済学部でメンタルヘルス講演会を開催

経済学部では、4月5日（木）に人文・社会科学総合教育研究棟W103教室において、メンタルヘルス講演会を開催しました。本講演会は、新入生オリエンテーションの一環として、経済学部1年生と総合入試から経済学部に進級した2年生を対象としたもので、保健センター講師の齋藤暢一朗氏を講師にお迎えし、ストレスとその対処法等について、わかりやすく講演していただきました。

当日は約200名の学生及び教職員が

参加し、熱心に講演に聴き入っていました。また、参加者に対して講演終了後に実施したアンケートでは「大変参考になった」「不眠・ストレス対処法

をぜひ実践したい」等の感想が多く寄せられました。

（経済学院・経済学研究院・経済学部）



講演する齋藤講師



熱心に講演を聴く学生

医学研究院寄附分野「総合女性医療システム学分野」 感謝状贈呈式及び記念シンポジウムの開催

総合女性医療システム学分野は平成20年6月に開設されました。2期10年を経て本年3月末にその役割を完了することになりました。この10年を記念しての感謝状贈呈式と記念シンポジウムを2月24日（土）に開催しました。

臨床系教室においては研究と診療は不可分の関係にあり、バランスのとれた発展が求められます。本分野は女性のトータルな健康管理を担う産婦人科医を育成し、周産期・生殖医療・婦人科がん・女性ヘルスケアに関わる臨床研究・基礎研究を推進するシステムの一翼を担うことを目的としてできたものです。櫻木範明客員教授の他にのべ6名の教員が在籍して産婦人科学及び

産婦人科医療の発展のために尽力しました。多くの若手研究者を特任教員として雇用して研究者層を拡大することができました。彼らが産婦人科学教室の一員として専攻医の教育や大学院生の研究指導にあたり、リサーチマインドを備えた産婦人科専門医を育成してきたことは、この寄附分野の大きな成果であったと考えています。学問の国際化に関しても寄附分野教員が中心となって数々の国際シンポジウムを主催してきました。

今回の記念シンポジウムは、これまで交流のあった海外研究者も招聘し、北海道における産婦人科医療の将来を展望することで、本寄附分野の活動に

有終の美を飾るものとなりました。

本分野はこれで閉じますが、本分野から生まれた多くの業績と本分野で育成された人材は産婦人科学の進歩に貢献することと思います。今回、寄附者である北海道厚生農業協同組合連合会様（西一司代表理事会長）に名和豊春総長から感謝状が贈呈されました。北海道の産婦人科医療の向上をめざした分野開設にご理解をお示し下さり、その継続に絶大なるご支援を賜りました北海道厚生農業協同組合連合会様に改めて感謝申し上げます。

（医学院・医学研究院・医学部）



シンポジウム①



シンポジウム②



感謝状贈呈式記念写真

多様な色覚を持つ多くの人に配慮した理学部広報誌「Sci」第2号を発行

理学部では1月31日（水）に理学部広報誌「Sci」第2号を発行しました。

「Sci」は高校生や総合教育部1年生、およびその保護者に北大理学部の魅力を伝え、北大理学部を目指すきっかけの一つになることを目的に、平成29年3月発行の0号から約半年に1回発行しています。

今回、「Sci」第2号は新たな試みとしてCUD認証を取得し、表紙の右上に「CUD」と書かれたマークが表示されました。CUDとは「Color Universal Design」の略です。

多様な色覚を持つ多くの人に情報が正確に伝わるように配慮して制作され、認証機関での検査に合格した印刷物に対して与えられるものがCUD認証マークです。

「Sci」第2号ではCUD認証を受けるために、誌面のレイアウト、文字のフォント・サイズ・色、各学科（5学科・6学科目）を表すアイコンの色、図版の色を調整しています。

例えば、注目研究のページに掲載されている図は原図では赤、緑、青、紫などの色が使われています。この図の内容をより多くの人へ正確に伝えるために、配色のパターンを変えた数種類

の図を作成して審査を受け、合格した配色の図を誌面に掲載しました。他の図版では色を調整し、さらに色名を明記しました。

このような取り組みを行うことで、多くの人により正確に情報が伝わる北大理学部広報誌が完成しました。

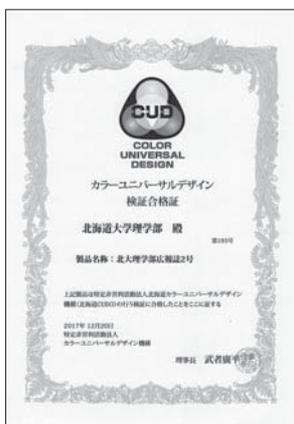
近年、行政でも独自にカラーユニバーサルデザインのガイドラインを制定している自治体が増えてきました。札幌市は2016年に「広報に関する色のガイドライン」を制定しています。この先、札幌市が発行する印刷物は、カラーユニバーサルデザイン対応の物し

か作成しない方向になるそうです。私たち理学部も所在する札幌市の取り組みに呼応し、社会とかわる一機関として、カラーユニバーサルデザインの取り組みに参加しました。

また、本学でのCUD認証取得は理学部広報誌「Sci」第2号が初の事例となりました。

今後もカラーユニバーサルデザインについて継続して取り組んでいく予定です。

（理学院・理学研究院・理学部）



理学部広報誌「Sci」第2号に発行されたCUD認定証



CUD認証マーク（右上）が表示されている表紙

工学系部局で平成29年度工学系企業研究セミナーを開催

3月1日（木）から3日間に渡って、「工学系企業研究セミナー」を工学部・工学院で開催しました。卒業生の就職先を含む132の企業がブースを構え、延べ700名を超える学生が来場しました。主に工学部の3年次、大学院工学院・情報科学研究科・総合化学院の修士課程1年次が参加しましたが、他学部・学院からも工学系企業に興味のある学生の参加があり、就職活動のはじまる学年を中心に、参加者の熱意がうかがえるイベントとなりました。

本セミナーは工学系の学生向けの就

職支援策の一環として教育・キャリア企画室が主催しているものです。進路を見据えた勉学意識を高められるようになること、及び学生が主体的に企業・業界研究を進めていけるようになることを目的に、例年、産業界で活躍する企業の方々から、さまざまな産業分野における業務内容やそこで求められる技術や専門性、具体的な仕事の内容についてお話しいただいています。

本セミナーと並行し、外国人留学生や工学部の各コース及び工学院の専攻の学生を対象としたイベントも開催されました。工学部・工学院では卒業生

とのつながりを生かし、技術者・研究者との実際の交流を通じた総合的な就職支援策を進めています。

（工学院・工学部、情報科学研究科、総合化学院）



セミナー会場の様子

薬学研究院が「第11回薬学研究院研究発表会」を開催

3月9日（金）に、薬学研究院臨床薬学講義室において、「第11回薬学研究院研究発表会」を開催しました。本発表会は、教員のプレゼンテーション能力の向上及び他分野の研究に関する理解を深めることによる共同研究の活性化等を目的として平成24年度に始まり、FD研修会を兼ねて年2回実施しているものです。

発表会は、佐藤美洋薬学研究院長による開会挨拶の後、生化学研究室の大野祐介助教による「皮膚バリア脂質アシルセラミドの生合成機構の解明」と題する発表及び、神経科学研究室の多留偉功准教授による「神経シナプスアクティブゾーン構築の分子機構」と題する2件の研究発表が行われました。

本発表会には教員48名が参加し、様々な分野の教員から発表者への質問があり、活発な討論が交わされました。また、参加者へのアンケートを実施することにより、発表に関する感想や改善点等のアドバイスを発表者へフィードバックすることでプレゼンテーション能力の向上に役立てています。



発表する多留准教授

す。教員の異分野への知見の拡大やプレゼンテーションの参考に、また共同研究の活性化に繋がる非常に良い機会であり、大変有意義な会となりました。

今回は8月に開催予定です。

（薬学研究院・薬学部）



発表する大野助教

国際広報メディア・観光学院が上海と北京で留学説明会及び同窓会を開催

国際広報メディア・観光学院では、3月2日（金）に上海、10日（土）に北京で、学院留学説明会を行いました。上海では4回目の説明会、北京では9回目と回数を重ねています。上海では、名古屋大学中国交流センター、北京では国際交流基金北京日本文化センターをお借りしての開催となりましたが、上海、北京ともに盛況で、上海会場は満員、北京も追加の座席を用意するほどとなりました。

説明会の進め方は、例年通り、学院・専攻の概要、研究生を経ての大学院入学に至るプロセス、研究生書類審査への応募時のアドバイス・注意点の説明という流れを辿りました。その後、上海・北京両会場ともに、在学生や修了生が留学体験を語る時間を設けました。最後に全体会での質疑、個別相談の時間を設けました。特に参加者と在学生や修了生との間では、自由闊達かつ親身なやりとりが交わされ、個

別相談では参加者が納得するまで丁寧に疑問に答えた点などがたいへんに好評でした。ここ数年の傾向として留学を希望する学生本人だけでなく、都合のつかない本人に代わって父兄が熱心にメモを取り、質問することが当然の光景となっています。参加者が閉会時間になっても質問を続ける姿があちこちに見られ、説明会としての手応えを強く感じた次第です。

また、2日の説明会終了後には上海在住の修了生2名と本学院の教育内容に関心をもった在上海の実業界関係者

も参加し、第4回上海同窓会を開催、10日の北京でも説明会後には11名の修了生の参加を得て、第7回北京同窓会を開催しました。それぞれ帰国後本国でメディアや企業などで活躍している修了生ですが、年齢の違いを乗り越え、親睦を深めるだけでなく、札幌や学院での思い出を語り合い、本学院と修了生との結びつきを強める素晴らしい機会になったと強く感じた次第です。

（国際広報メディア・観光学院）



修了生が語る北京会場



満席の上海会場

国際食資源学院 「ワンダーフォーゲル実習Ⅱ」 をミャンマーで実施



集合写真

国際食資源学院では、2月19日（月）から3月5日（月）までの日程で「ワンダーフォーゲル実習Ⅱ」を実施しました。この実習は本学院1年次の必修科目であり、また平成29年度ラーニング・サテライト事業にも採択されています。「ワンダーフォーゲル実習」とは、優れた教員を求めて各地の大学を渡り歩いた中世ヨーロッパの「遍歴学生」に憧れ、19世紀末にドイツ青年の間で始まった活動を指す「ワンダーフォーゲル（ドイツ語で“渡り鳥”の意）」から名付けられたフィールドワーク科目で、本学院独自のカリキュラムの一つです。

昨年6月にデンマークで行われた

「ワンダーフォーゲル実習Ⅰ」では、先進国の農業生産と環境との調和について学びましたが、今回の「ワンダーフォーゲル実習Ⅱ」では、「途上国における食資源問題への挑戦 -ミャンマーにおけるフィールド調査-」をテーマに、在籍する修士課程1年生全員（17名）がミャンマーを訪問し、発展途上国における食資源問題における課題の発見と解決に向けて道筋を考える研修が行われました。

まず、バゴー州ピイ市にあるJICAによる灌漑プロジェクトサイトを訪問し、日本の開発援助の現場を知る機会となりました。続いてアイヤワディー州のパテイン市に拠点を移動し、本学

の協定校であるパテイン大学の大学院生8名と合流し、現地ミャウンミヤ農業学校での栽培圃場と精米所の見学、ミョウハウ村での1泊2日の農村滞在を行い、ミャンマーの農業事情、開発援助の可能性、文化的背景も含めた農村社会の理解といった様々な視点からミャンマーの農村社会に触れた上で、最後に、事前学習で学生自身が定めた学生グループごとのテーマについて2日間のフィールド調査を行いました。3月2日（金）にはパテイン大学にて、現地学生や教員の前で各グループの調査内容の発表会を行いました。

特に農村滞在与フィールド調査は「ワンダーフォーゲル実習Ⅰ」にはない体験となりましたが、学生にとっては、文化交流も去ることながら途上国が抱える食資源問題を身近に経験する機会となりました。その一方で、ともに滞在・調査活動したパテイン大学の学生との交流は密なものとなり、国際協力の重要性と、英語のコミュニケーション能力の向上も実感できました。

帰国後も本学院の学生は事後学習と議論を深め、4月3日（火）、国際食資源学院入学式後に教員、新入生の前で事後報告会を行いました。

（国際食資源学院）



水サンプリング



発表会



聞き取り調査風景

北方生物圏フィールド科学センターで「公開水産科学実習」を開催

北方生物圏フィールド科学センター水圏ステーション・白尻水産実験所、七飯淡水実験所および忍路臨海実験所は、文部科学省教育関係共同利用拠点（「食糧基地、北海道の水圏環境を学ぶ体験型教育共同利用拠点」）に認定されています。その取り組みの一環として、他大学の学生が参加できる公開水産科学実習「応用発生工学実習」「海棲哺乳類実習」「北海道の沿岸生物の増養殖実習」を、それぞれ2月26日（月）～3月2日（金）、3月5日（月）～8日（木）、3月12日（月）～16日（金）に開催しました。

以下に、今回実施された3件の実習を紹介します。これらの実習は来年も開催を予定していますので、興味のある方は当事業のホームページをご覧ください。

◆ <http://www.fsc.hokudai.ac.jp/suisan-kyoten/index.html>

（北方生物圏フィールド科学センター）

応用発生工学実習—亜寒帯魚類を対象とした増養殖実習—

北方生物圏フィールド科学センター七飯淡水実験所で開催し、全国から7名の学生が参加しました。実習では、サケマス類からの採卵など従来の実習に加えて、顕微注入を含む発生工学など先端的な手法も体験し、水産生物の育種技術における未来への方向性に対する視座を与えることを目的としました。魚類の胚を操作するために使う操作器具などを実際に実習生が作成することから始まり、魚類の正常発生の観察、染色体の操作、遺伝子資源の保存、また、魚類の発生に関する講義な

どが行われました。加えて、本学と水産海洋実践教育ネットワーク連携プログラムを提携している長崎大学の征矢野清教授も本実習に参加し、北海道と異なる海域の増養殖技術の現状や取り組みなどについても講義・実習を行いました。

実習生のアンケートには、「実験・観察での考察の仕方や順序を自分なりに工夫するということを学べた」「所属大学の実験では行えないことだらけで非常に勉強となった」「新たな技術を学んだ時の喜びは初めての経験で忘

れられないものとなった」「他大学の人との交流も本当に良い刺激となった」「同じ水産学に身を置く同年齢のつながりができた」など、好意的な回答が数多く寄せられました。

なお、本実習は長崎大学の「水産海洋環境学実習Ⅰ（B）：産卵親魚を用いて、卵子や精子形成を理解するための実習」を合わせて受講することで、より高い学習効果をあげられるような連携プログラムを構築しています。



飼育サケマスの種類と特性の説明



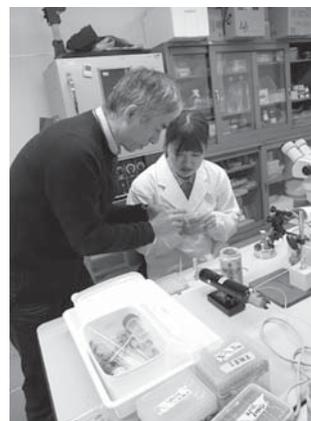
飼育によるサケマス形態異常の説明



征矢野教授による卵巣細胞の解析実験



参加者とスタッフ



ガラス器具作成の様子

海棲哺乳類実習

北方生物圏フィールド科学センター 忍路臨海実験所で開催し、全国から10名の学生が参加しました。実習では、近年北海道沿岸で課題になっている漁業と海棲哺乳類の共存について学ぶことを目的としました。3泊4日の日程で実施し、内容は講義、おたる水族館での行動観察と鳴音記録、ディベート、データ解析（バイオリギング、鳴音、形態測定、個体識別）、そして、

水族館で取ったデータについてのグループ発表と盛りだくさんで、夕食後もディベート準備やデータ解析を行いました。本年度は、国立科学博物館の動物研究部にて研究主幹を務める田島木綿子博士を招待しての講義も開催しました。

参加学生のアンケートには、「所属大学では学べない専門的な内容の講義でとても面白かった」「たった数日で

日常の何百何千倍もよい経験が得られた」「ディベートやプレゼンを通して、自分の考えを人に伝えるための方法を学べた」など好意的な回答が数多く寄せられ、実習は盛況のうちに終了しました。



田島博士による講義



観察対象のアゴヒゲアザラシ



講義の様子



アザラシの行動観察



ディベートの様子



おたる水族館での集合写真

北海道の沿岸生物の増養殖実習

北方生物圏フィールド科学センター 忍路水産実験所・洞爺臨湖実験所・白尻水産実験所の道央から道南にかけて3ヶ所にまたがる実験所で開催され、全国から6名の学生が参加しました。実習の前半では、磯焼け地帯のコンブ藻場のフィールド調査を通して藻場の役割や環境整備の重要性について理解

を深めました。なお、磯焼け海域で目立って出現するサンゴモについては、それらの分類に詳しい広島大学の加藤亜記先生に解説をお願いしました。更に、コンブ類の遺伝的多様性の検出を行い、形態と遺伝の両面から多様性の実態について理解しました。実習の後半では、回遊する亜寒帯性の魚類であ

るホテイウオ（地方名：ゴッコ）の人工授精の実験を行いました。また、潜水によりホテイウオを直接観察するとともにホテイウオが生息する冬の北海道の海を実習生自身が体験し、その生態の理解を深めました。

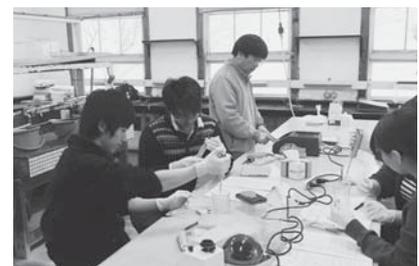
実習生のアンケートには、「直接目で見て、講義を通して、海藻の役割や



コンブ藻場の調査



採集海藻の標本作成



コンブの遺伝子抽出

現状の認識をすることで、海藻の分野の面白さを知ることができた」「他大の学生がいたこともあり様々な情報を交換できた」「シュノーケリングがと

ても楽しかった」など好意的な回答が寄せられ、実習は盛況のうちに終了しました。



潜水実習の様子



集合写真



臼尻の施設紹介

国立東華大学（台湾）との国際合同実習「2018 Joint International Training Course on Ecological and Environmental Research in Taiwan」を開催

本学と台湾の国立東華大学との大学間交流協定（2017年6月締結）による交流事業の一環として、大学院生（修士）を対象とした合同実習を3月5日（月）～9日（金）に台湾で開催しました。両大学より計14名（うち本学から5名）の大学院生が参加し、両大学の教員が合同で企画、指導にあたりました。本学の教員からは北方生物圏フィールド科学センター／環境科学院の柴田英昭教授、福澤加里部准教授、地球環境科学研究院／環境科学院の甲山隆司教授、渡邊悌二教授が参加しました。実習フィールドである台湾東部に位置する花蓮市郊外の大農大富地域は、かつて日本統治時代にサトウキビ栽培が行われ、現在は森林公園として利用されています。本実習ではそれらの地域における歴史的な土地利用変化の背景について学ぶための講義と共に、フィールドでの野生動物モニタリ

ング、生態系の炭素循環、水質等の環境計測、生態系構造・機能に関する講義、現地実習、グループ・ミニプロジェクト、成果発表などを英語で実施しました。両大学から留学生を含む8か国（日本、台湾、中国、ベトナム、米国、インドネシア、ナイジェリア、インド）の大学院生が積極的に受講、意見交換し、相互交流する姿が見受け

られました。また、本学に設置されているGlobal Land Programme (GLP) Japan Officeとも協力して実施しました。なお、本実習は環境科学院「フィールド科学特別実習Ⅰ」の一環として行いました。

（環境科学院・地球環境科学研究院、北方生物圏フィールド科学センター）



環境保全型有機農業について現地の農家から説明を受けている様子

観光学高等研究センターが「第6回 CATS観光創造研究会」を開催



参加者による記念撮影



研究発表の様子

観光学高等研究センター（CATS=Center for Advanced Tourism Studies）では、本センター主催による第6回CATS観光創造研究会を「歩く滞在交流型観光の新展開」をテーマとして、3月17日（土）・18日（日）に学术交流会館第一会議室において、約70名の参加者を得て開催しました。この観光創造研究会は、観光学高等研究センターが主体となり、毎回、設定するテーマに関連する分野の研究者と実務者、さらに学生が集まり、2日間にわたって研究発表と事例報告に基づき議論を行い、観光創造に関する研究の推進を図るとともに、観光地域における実践活動に結びつけてゆくものです。

研究会のテーマは、国内外の各地において、まち歩き、フットパス、ロングトレイル、聖地巡礼といった歩く旅の人气が徐々に高まりつつある現在、歩く旅のあり方を軸として、地域の自律的、持続的な発展を目指す滞在交流型観光とCBT（コミュニティ・ペー

スト・ツーリズム）の今後の展開について、国内外のオルレ、フットパス、ロングトレイル、聖地巡礼に関する民産官学の専門家による議論を深め、歩く滞在交流型観光の新たな可能性を明らかにすることでした。

西山徳明教授の司会により、1日目は、下休場千秋教授の「趣旨説明と問題提起」、木村 宏特任教授の「ロングトレイルと滞在交流型観光-体制づくりの現状と課題」、志賀壮史氏の「九州自然歩道フォーラムの取り組み」、安殷周氏の「済州オルレを通じたコミュニティビジネス」、李唯美氏の「日本におけるオルレの推進について」といった発表と報告がなされました。2日目は、塩路有子教授の「英国のフットパスと地域活性化-Walkers are Welcomeタウンの活動-」、神谷由紀子氏の「日本におけるフットパスの展開とまちづくり」、小川浩一郎氏の「北海道におけるフットパス活動」、岡本亮輔准教授の「聖地巡礼のプロセ

スと真正性-サンティアゴ巡礼と四国遍路の事例を中心に」、多田稔子氏の「熊野古道に外国人観光客を呼び込む着地型観光-世界に開かれた持続可能な観光地を目指して-」、高山美佳氏の「九州の着地型観光における歩く観光のブランディング」の研究発表と事例報告が行われ、最後に、下村彰男教授による「総合討論」がなされ、石森秀三特別招聘教授による総括で幕が閉じられました。

今回の研究会を通して、歩く滞在交流型観光が地域活性化と観光創造にとって大きな可能性を有していることが参加者によって確認できました。今後、各地において、歩く滞在交流型観光が実践され、展開してゆくことが期待されます。

観光学高等研究センターでは、これからも、観光創造研究会を開催してゆく予定です。

（観光学高等研究センター）

「2017 SAGE-Hokkaido Award for Best Journal Article in Social Sciences (2017年度 SAGE-北大 社会科学国際優秀論文賞)」授与式を挙

3月23日(金)、文学研究科小会議室において「2017 SAGE-Hokkaido Award for Best Journal Article in Social Sciences (2017年度 SAGE-北大 社会科学国際優秀論文賞)」授与式を執り行い、関係者列席のもと、結城雅樹社会科学実験研究センター長から伊藤資浩氏(北海道大学文学研究科博士後期課程人間システム科学専攻・日

本学術振興会特別研究員(DC1))に、賞状および副賞(目録)が授与されました。

本賞は、SAGE Publications Asia-Pacific Pte Ltdと北海道大学社会科学実験研究センターの共催により、本学大学院生の英文学術誌への掲載論文を表彰することで、北海道大学が掲げる基本理念のうち、特に「フロンティア

精神」、「国際性の涵養」のもとに、人間と社会の関係をめぐる社会科学研究諸領域において将来国際的に活躍できる人材育成に寄与することを目的として平成27年度に設立されたものです。

受賞論文の詳細および受賞理由は以下の通りです。

(北海道大学社会科学実験研究センター)

受賞者：伊藤資浩氏

(北海道大学 文学研究科 博士後期課程 人間システム科学専攻・日本学術振興会特別研究員(DC1))

標 題：Effect of the Presence of a Mobile Phone during a Spatial Visual Search.

(タイトル和訳：携帯電話が単に置いてあることが空間的視覚探索に及ぼす影響)

著 者：Ito, M., & Kawahara, J.

(著者名和訳：伊藤 資浩・河原純一郎)

掲 載 誌：Japanese Psychological Research, 59 (2), 188-198.

受賞理由：本論文は、携帯電話によって生じる不注意という極めて今日的なテーマに対し、空間的注意の心理物理実験を使って厳密に検証したものである点が高く評価できる。ただし日常的なテーマを扱っているといっても、決して安直な思いつきで計画されたものではなく、空間的注意の先行研究を適切に踏まえた上で実施されている点が論文から十分に伺え、基礎心理学の社会応用というインパクトの点でも着目に値する。さらに、「ながらスマホ」による事故の責任といった法学にとっても切実な現代的問題に関わっており、社会科学の広範な領域への波及効果も大きい。以上を踏まえ、本論文を2017 SAGE-Hokkaido Award for Best Journal Article in Social Sciences (2017年度 SAGE-北大 社会科学国際優秀論文賞)の受賞論文に選定した。



結城雅樹センター長、受賞者の伊藤資浩氏、伊藤氏の指導教員である河原純一郎准教授。

環境健康科学研究教育センターが平成29年度後期「社会と健康」ディプロマ授与式を開催

3月19日（月）、午後1時から中央キャンパス総合研究棟1号館環境健康科学研究教育センターにおいて、平成29年度後期「社会と健康」ディプロマ授与式を開催しました。今回は2名（教育学院：岩佐ゆかり、田中真一郎）のプログラム修了生に対して、小笠原克彦環境健康科学研究教育センター長からディプロマが授与されました。

本プログラムは、北海道大学大学院のすべての専攻/学院/研究科に在籍する大学院生に開かれたプログラムです。本プログラムでは、北海道大学大学院共通授業「社会と健康」から5領域20単位以上（うち、必修科目11単位以上）を体系的に学ぶカリキュラムを編成しています。また、大学院共通授業「社会と健康」に加えて、これまでに各学院・研究科が提供する科目及び大学院共通授業科目から61科目が、ディプロマプログラムへの振替科目と

して認められています（平成30年2月7日現在）。「社会と健康」領域において、環境要因と健康・予防に関する知識、研究技法を学ぶ意欲がある大学院生に対して、豊かな人間性、高い倫理観及び国際的視野を備え、研究課題に必要なPublic Healthにかかわる知識を得るため、科目選択の指針を与えています。本プログラムの指針に沿って科目を履習し、単位が認められた学生に対して、「社会と健康」に関する知識と実践教育を受けたことを証明するディプロマを授与します。

「社会と健康」ディプロマは、平成27年3月に第1回目の授与を行いました。今回は第6回目、累計13名の方にディプロマを授与しました。参加大学院生の所属は医学院、教育学院、保健科学院、文学研究科、農学院、獣医学院、工学院など多岐にわたっており、研究分野の垣根を越えた文理融合型の人材育成となっています。留学生の参加も増え、今後ますます多様な人材の輩出が期待されます。

（環境健康科学研究教育センター）



授与式後の記念撮影



脳科学研究教育センター一発達脳科学専攻第14期修了生に修了証書授与

3月22日（木）の修士・専門職学位・博士学位記授与式後に、エンレイソウ第一会議室において、脳科学研究教育センターが設置する発達脳科学専攻教育プログラム修了生に対し、渡邊雅彦センター長から修了証書が授与されました。

今年度は第14期生として、修士課程7名（碁苺茗、楊惠翔：文学研究科、上林菜月、佐藤明日美、下久保早紀：医学研究科、佐藤和：生命科学院、田口真行：保健科学院）が所属学院・研究科の学位取得に加えて発達脳科学専攻の定める修了要件を満たし、修了が認定されました。

センターでは、脳科学に関する大学院共通授業科目の開設に加え、研究分野の垣根を越えた融合的研究指導の一環として、札幌近郊での合宿研修、脳

科学シンポジウムの開催、複数部局の基幹教員による修了論文の審査などを行っています。中でも、合宿研修や修了論文の公開発表会では、できるだけ専門用語を使わず、他専攻の院生・教員に自分の研究を分かりやすく紹介し、議論することを重視しています。

発達脳科学専攻は、文理融合型の脳科学研究のバーチャル専攻として、平成15年度に発足しました。現在は、学内10研究科（学院）にわたる大学院

生を対象として複雑な機能をもつ脳に関する分野融合的な教育プログラムを提供し、広い視野をもった次世代を担う人材の育成を進めています。これまでに修士課程88名及び博士（後期）課程23名、計111名の修了生を送り出しています。平成30年度からは、学部生対象の一般教育科目（フレッシュマンセミナー）の開設も予定しています。

（脳科学研究教育センター）



渡邊センター長から修了証書の授与



今年度の修了生と基幹教員

数理・データサイエンス教育研究センターが「公開シンポジウム：数理・データサイエンスの人材育成と社会応用」を開催

3月16日（金）に学术交流会館にて、我が国における数理・データサイエンス教育の現状について情報共有するとともに、これからの社会に必要なデータサイエンス人材の育成について議論するために、「公開シンポジウム：数理・データサイエンスの人材育成と社会応用」を開催しました。

シンポジウムは特別Sessionを含む3つのSessionで構成され、Session1では、本学を含む6つの拠点校のうち、東京大学、滋賀大学及び九州大学から、北川源一郎特任教授（東京大学／拠点校で形成される全国コンソーシアムの議長）をはじめとした講師の方々をお招きし、数理・データサイエンスの教育の取組についてご講演いただきました。活発に議論されている数理・データサイエンス教育強化の目指す形や、各大学で実施される教育の現状を知る貴重な機会となりました。特別Sessionでは、石川正俊教授（東京大学）をお招きし、数理・データサイエンスの最新研究と産業創出についてご講演いただきました。数理・データサイエンスにより新たに生み出される産業領域についてご紹介いただき、活発な質疑応答がなされました。Session2では、東京大学及びNEXCO東日本から講師の方々をお招きし、社会インフラ分野の高度化に向けた数

理・データサイエンスの社会応用と人材育成の取組についてご講演いただきました。数理・データサイエンスのニーズが顕在化した社会インフラ維持・管理の産業分野において、実際にデータ化を推進している講師の方々に、その取組内容をご紹介いただき、最新の取組内容を知ることができました。また、シンポジウムの最後には、文部科学省高等教育局専門教育課から、これからの数理・データサイエンス教育の取組についてもご紹介いただきました。

シンポジウムは、年度末の実施にも関わらず70名以上の方々にご出席いただき、盛会の内に終了いたしました。今後、このシンポジウムで得た知見が更なる数理・データサイエンスに関する教育の発展に繋がっていくことが期待されます。

当センターでは、今後もこのような場を設け、数理・データサイエンスに関する情報の発信を継続的に実施してまいります。

（数理・データサイエンス教育研究センター）



開催趣旨を説明する長谷山センター長



講演を行う北川特任教授



講演を行う石川教授



講演時の会場内の様子

総合博物館で第10回「卒論ポスター発表会」を開催

総合博物館では独自の教育プログラム「ミュージアムマイスター認定コース」の一環として、2008年度より「卒論ポスター発表会」を開催しています。学部4年生が卒業研究をA0サイズ1枚のポスターにまとめて、市民や観光客の方々、他分野の学生や教職員にわかりやすく発表し、質問に受け答えします。北大生の研究を広く社会に伝えるだけでなく、学生のコミュニケーション能力の向上や他分野の研究への関心の喚起を図ることを目的としています。

10回目を迎えた今年度は、昨年度に続き、リニューアル後の総合博物館に新設された「知の交差点」エリアで3月3日（土）・4日（日）に開催しました。

ポスターとホームページで発表者を募集した結果、農学部から3名、工学部から3名、文学部から1名、水産学部から1名の計8名が参加しました。専門分野外の方々に向けたポスターを完成させるまでに、当館の担当教職員の指導や他の発表者とのディスカッションを行う中間発表会に参加し、そこで得た意見を取り入れつつ、改訂を繰り返しました。さらに様々な来場者を想定し、それぞれに応じた説明のり

ハーサルを重ねて準備しました。発表会当日は、緊張しながらも来場者とのコミュニケーションを楽しみながら説明していました。

発表会の運営も例年どおり、学生が担いました。今年度は理学部から2名、農学部から1名、文学部から1名が参加しました。ポスターや会場で配布するプログラムの制作では、博物館の印象的な外観と、モノ・コト・ヒトから構成される博物館活動をイメージさせるデザインを考えました。また、発表会当日には司会や受付を担当した他、来館者賞投票を促す取り組みを新たに考えたり、来館者をスムーズに誘導して発表者をサポートしました。

発表会の最後には、2日間の来場者の投票による「来館者賞」、市民5名と本学教職員5名から成る審査員の評価による「最優秀賞」「優秀コミュニケーション賞」「優秀デザイン賞」、そして今年度から新設された大学院在学中のミュージアムマイスター5名が選定する「ミュージアムマイスター賞」が決定し、総合博物館の高橋英樹特任教授から賞状と記念品が授与されました。受賞者と発表タイトルは次のとおりです。

*最優秀賞および優秀デザイン賞：農学部 塩谷悠希さん
「絶滅危惧植物ヤチカンバは北海道固有か？自生地で遺伝子汚染されているか？」

*優秀コミュニケーション賞：農学部 清水祐希さん
「トウモロコシペプチドから糖尿病薬を作れたら…」

*来館者賞：水産学部 雲中慧さん
「博物館における「交流」機能の検討—豊海おさかなミュージアムを例にして—」

*ミュージアムマイスター賞：農学部 杉浦滯さん
「台風による森林攪乱後の処理方法によって森林はどのように再生するか
～人の影響、シカの影響に注目して～」

発表会当日の様子や参加した学生の事後考察レポートは当館ホームページで公開しています。

<https://www.museum.hokudai.ac.jp/education/museummeister/list/13234/>

(総合博物館)



市民の方に説明する塩谷悠希さん



来場者でにぎわう「知の交差点」

小中学生向け科学体験イベント 「さっぽろサイエンスフェスタ in 北大」を開催



参加スタッフ

人材育成本部女性研究者支援室は小中学生向け科学体験イベント「さっぽろサイエンスフェスタ in 北大」を3月4日（日）に学术交流会館にて開催しました。このイベントは平成24年から開催されており、今回で6回目となります。本イベントは地域の子どもや保護者に大学の研究や科学の楽しさや幅広さに触れてもらうとともに、学生や研究者のアウトリーチ活動の場の一つとして、地域で科学イベント等を実施するNPO法人butukuraと共催で企画・運営を行っています。実際に研究を行っている学生や研究者による、来場者のレベルに合わせた科学的説明が特徴のイベントです。今年度は「女子中高生の理系進路選択支援プログラム」「北海道150年子ども未来・夢キャンパス」の事業として実施しました。

今回のイベントでは学内9部局から参加した学生や研究者の有志37名が「理系応援キャラバン隊」として10ブース、滝川市の高校生5名が1ブース、北大理系女子コミュニティ RinGSのメンバー11名による相談&科学体験ブースが1ブースの科学体験ブースが出展されました。「理系応援キャラバン隊」のブースは高度な研究内容を小

学校低学年でも楽しく体験出来るよう工夫されており、また高校生のブースは簡単な科学工作や体験が中心となっていて、どちらも小学校低学年から大人まで非常に興味深そうに体験していました。また、保護者向けに理系の進路やキャリアに関する講演も行われ、多くの保護者が聴講しました。

来場者数は子ども757名、大人599名

（人材育成本部）

と、過去最高だった昨年度をはるかに超える人数となりました。来場者数としては学术交流会館のキャパシティが限界ですが、非常に需要が高い内容のイベントであることから、今後もより良い実施形態を模索しながら継続していきたいと思います。



環境科学のブース



教育学部のブース



工学部のブース



混雑する会場

北海道大学病院で新規採用者多職種合同歓迎会を開催

4月3日（火）、北海道大学病院では医科臨床研修医・歯科臨床研修医・看護師・薬剤師・医療技術職員・事務職員の新規採用者を対象に、多職種合同歓迎会を開催しました。

この合同歓迎会は、病院全体で新規採用者へ歓迎の意を表するとともに、同日行われた多職種合同コミュニケーションスキル研修の一貫として企画したもので、新規採用者と病院各部署・職種間の相互の親睦を図ることで、優れたチーム医療体制作りを目指したものです。会場となった北部食堂には、新規採用者216名のほか、寶金清博病院長をはじめ病院執行部・各診療科長等93名が集まりました。

会の冒頭では、寶金病院長の開式挨拶、秋田弘俊副病院長の乾杯の発声が

あり、多職種混合グループの笑顔があふれる賑やかな雰囲気となりました。

会の途中には病院執行部より期待のこもった激励及び各職種の新規採用者紹介があった後、その期待に応えるように新規採用者代表6名より熱い抱負が述べられました。

最後に佐藤ひとみ看護部長から乾杯および閉式の言葉が述べられ、大盛況

の中、閉会しました。

職種の垣根を越えたシームレスな連携が重要性を増す医療現場において、本会がチーム医療実践の一助となることを期待します。

（北海道大学病院）



交流を深める新規採用者



寶金病院長との記念撮影

藤井純子関係資料を大学文書館で受贈

大学文書館では、藤井寛治氏から、2月14日（水）・23日（金）、4月5日（木）に、ご夫人の藤井純子氏（1936-1994、旧姓：四方）にまつわる資料3箱をご寄贈いただきました。

藤井純子氏は、1956（昭和31）年4月一般教養部理類に入学し、1960年3月農学部農芸化学科を卒業されました。卒業後は、農学部農芸化学第二講座助手に着任し、生化学や栄養学の研究を行いました。1961年には「家政学部」新設の計画に際し、「食品化学」研究を目的として、アメリカのマサチューセッツ大学に派遣されました。この計画は実現しませんでした。藤井純子氏は、光塩学園女子短期大学の教員として、また、医学部公衆衛生学講座の研究生として、その後も研究・教育活動に従事されました。

この度、受贈した資料には、幼少期からの写真画像、農学部学生時代の受講ノートや助手時代のゼミ用ノート、アメリカ派遣中に収受した各種資料・

写真画像・受講ノート・日記、光塩学園女子短期大学勤務時の日中科学技術交流の報告・研究資料、「北大女子学生の会」に関する資料等があります。

アメリカ派遣中の日記には、現地での教授や学生との交流のほか、化学研究への熱意が述べられる一方で、当時の女性研究者をとりまく厳しい実状なども綴られています。

また、新制大学初期の女子学生たちの組織「北大女子学生の会」に関する資料には、機関誌『根っこ』創刊号（1960年）や『女性に関する解析Ⅳ』などがあり、1950～60年代における女

子学生の学生生活を読み取ることができます。これらの資料は、大学史・教育史・女性史における大変貴重な史料です。

今後、受贈資料は、大学文書館において整理・保管し、閲覧・展示などを通じて広く紹介してまいります。

（大学文書館）



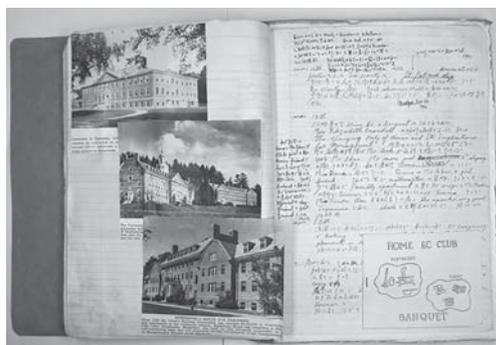
農芸化学実験室にて（1960年6月）



アメリカにて



「北大女子学生の会」の機関誌



マサチューセッツ大学派遣中の日記

保健センターで平成29年度第2回緊急対応研修を実施

3月14日（水）、保健センターにおいて平成29年度の第2回緊急対応研修が実施されました。保健センターでは平成26年度に緊急対応マニュアルを一から作成し、基本的に年2回（初年度は年3回）、緊急対応研修を実施する中でマニュアルの検証を行い、随時更新、充実を図っています。研修では、毎回新たな目的や意図を持ちながら実践を行っており、これまで何度か警察や総合防災システム会社など外部の方をお呼びしてレクチャーとアドバイスをいただいていたほか、全ての回において自分たちで工夫しながら色々なパターンでのシミュレーション研修を実施してきました。

9回目の研修となった今回は、まず保健センター長による救命救急のレクチャーと、AED操作および心臓マッサージの実践練習が行われました。次に、刃物を出された時にどのように対応したら良いかなど、配役や設定を決めた上で実際に動きながら一連の流れをシミュレートし、緊急時における車いすの学生や日本語の分からない留学生への関わり方についても練習しました。シミュレーション後には参加者それぞれの役割や立場で意見交換を行い、避難誘導の手順や情報共有の重要性などを改めて確認しています。その後、各自で防犯ブザーの点検などを行い、新入スタッフにはセンター内の設

備を見学して回るツアーを実施。そしてアンケートの記入をもって研修は終了となりました。

何度やっても忘れてしまいがちなことや、スタッフの入れ替わりもあることから、定期的な研修実施の要望は毎回出されており、その必要性が共有されています。今回は他部局からもボランティア参加のご協力をいただいております。今後も様々な角度から検証を続け、より良い緊急対応体制を整えていきたいと考えています。

（保健センター）



救急救命のレクチャー



AEDと心臓マッサージの実践練習



シミュレーション研修

■お知らせ

北海道大学病院 北海道で初の「臨床研究中核病院」として承認

北海道大学病院は、平成30年3月23日（金）、医療法上の「臨床研究中核病院」として北海道地区で初めて厚生労働省から承認されました。

「臨床研究中核病院」は、日本発の革新的医薬品・医療機器等の開発を推進するため、国際水準の臨床研究等の中心的役割を担う病院として、医療法上に位置づけられており、病院長を中心とした適正な臨床研究実施体制の確立、臨床研究の倫理審査、安全管理及び臨床研究支援に関する体制整備、医師主導治験を含めた臨床研究及びその論文の実績など厳しい要件を満たすことが必要とされています。

本院では病院長の管理の下、臨床研究開発センターや臨床研究監理部を設置し、適正な臨床研究の実施と新規医療技術開発の推進に力を入れてきましたが、この度、その実績が認められ臨床研究中核病院として承認されました。

今回の承認を受け、本院としては臨床研究をさらに推進し、国民の皆様がいち早く新しい医療技術をお届けできるよう努めていきます。

（北海道大学病院）

平成30年度 人間ドック・特定健康診査の実施について

文部科学省共済組合北海道大学支部では、文部科学省共済組合本部の指導の下、保健事業の一環として健康管理の推進を目的に人間ドック・特定健康診査を次のとおり実施しております（任意継続組合員を含む）。

なお、受付等については専門業者へ外部委託となり、組合員が直接文部科学省共済組合ホームページから申込みしていただくこととなりますが、今年度から委託業者が前年度より変更となっております。これに伴い、申込方法が、一部変更になりますので、ご注意ください。

1. 申込期間

平成30年4月2日（月）～平成31年1月10日（木）まで

2. 受診期限

平成31年1月31日（木）まで

3. 対象者

①人間ドック

平成30年4月1日現在満35歳以上となる組合員及びその被扶養配偶者、任意継続組合員本人及びその被扶養配偶者

②特定健診

平成31年3月31日までに40歳以上となる組合員の被扶養者、任意継続組合員本人及びその被扶養者

③生活習慣病予防健診

平成31年3月31日までに40歳以上となる組合員の被扶養者、任意継続組合員本人及びその被扶養者

※人間ドック、特定健診、生活習慣病予防健診は、受診期限内にいずれか1回受診できます。

※特定健診、生活習慣病予防健診は、組合員は受診できません。

（任意継続組合員は除く。）

4. 補助額

①人間ドック

共済組合が指定する健診機関での受診に限り、

組合員（任意継続を含む） 30,000円（上限。税込み。）

被扶養配偶者（任意継続を含む） 25,000円（上限。税込み。）

※補助額を超えた料金は、自己負担となります。

※オプション検査料は、ドック本体料金と合わせ、補助額を超過した分は自己負担になります。

※受診料の自己負担額は、当日医療機関で支払います。

②特定健診

共済組合が指定する健診機関での受診に限り、

全額補助（自己負担なし）

※オプション検査料金は、全額自己負担となります。

③生活習慣病予防健診

共済組合が指定する健診機関での受診に限り、

8,164円（上限。税込み。）

※補助額を超えた料金は、自己負担となります。

※オプション検査料は、全額自己負担となります。

※受診料の自己負担額は、当日医療機関で支払います。

5. 申込方法、健診機関

申込方法、健診機関につきましては、[文部科学省共済組合ホームページ](http://www.monkakyosai.or.jp/)でご確認願います。

なお、ホームページを閲覧できない方は、FAX、郵送での申込となりますので所属部局等の担当者へお尋ねください。

文部科学省共済組合ホームページアドレス

<http://www.monkakyosai.or.jp/>

お問い合わせ先

(株) ベネフィットワン・ヘルスケア健診予約受付センター

TEL 0800-8888-009（フリーコール）

03-6870-2796（有料）

受付時間：平日10～21時，土日祝10～18時

6. その他

平成20年度から健康保険組合に「特定健康診査」が義務づけられたことに伴い、今回実施する健康診断結果のうち、法定健診項目及び特定健診項目に関する診断内容及び問診結果等の個人情報については保有・利用させていただきます（目的外利用はいたしません）。

（文部科学省共済組合北海道大学支部）

博士學位記授与

3月22日(木)に本学大学院研究科等の所定の課程を修了した課程博士は292人、及び本学に学位論文を提出してその審査、試験等に合格した論文博士は14人でした。なお、被授与者の氏名と論文題目等は次のとおりです。

(学務部学務企画課)

課程博士

博士の専攻分野の名称	博士の学位を授与された者		博士論文名			
	氏名					
博士(文学)	オウ 王	ギョク 玉	日本近代児童文学における〈死と生命の表現〉の研究－『赤い鳥』童話作品を中心として－ 主査：教授 中村 三春			
	く 工	たか 藤	あき 隆	町衆と文芸－近世初期における堂上と地下との関係をめぐって－ 主査：教授 富田 康之		
	トーマス THOMAS ダニエル DANIEL	ダリン DALLYN		北海道方言のアクセント特徴に関する記述的研究 主査：准教授 李 連珠		
	チョ 趙	ヘ 恵	ジン 真	日韓漢語動詞における通時的対照研究 主査：准教授 李 連珠		
	リ 李	ナイ 乃	キ 琦	一切経音義全文データベース構築による平安時代古辞書についての実証的研究 主査：教授 池田 証壽		
	イスマ ISMA	ロシ ROSYIDA	ダ DA	Political Ecology of Tin Mining: A Study on Marginalization of Coastal Resource Dependent Communities in Indonesia (不採掘のポリティカル・エコロジー：インドネシアの沿岸資源に依存するコミュニティの周縁化に関する研究) 主査：准教授 笹岡 正俊		
	い 伊	とう 藤	ひろ 博	あき 晃	顔表情知覚における感情価特異性性別化効果の検討 主査：教授 田山 忠行	
	キム 金	ヘ 恵	リン 麟		集合知の心理・生態学的基盤を探る 主査：准教授 竹澤 正哲	
	キン 金	セイ 聖	アイ 愛		日常的物や空間における2色配色の調和と好ましさを反応時間、視線の動きなどの客観的行動指標を用いて－ 主査：教授 川端 康弘	
	まさ 佐	さき 々木	みく 三	こ 公子	色記憶の変容とその規則性－色に関する既存の知識体系の影響－ 主査：教授 川端 康弘	
	すず 鈴	き 木	たか 嵩	あき 彬	広域的に分布する外来哺乳類における外来種管理研究：アライグマ管理の担当者における課題と管理の進展に向けて 主査：教授 池田 透	
	タン TANJINUL	ジ JINUL	ヌル NUL	ホ HOQUE	モ MOLLAH	Geographical Study of Local NGO's Contribution to Rural Development: A Case on the Riverside of Jamuna, Bangladesh. (ローカルNGOによる農村開発に関する地理学的研究－バングラデシュ、ジャムナ川流域の事例－) 主査：准教授 仁平 尊明
	博士(法学)	ソン 孫	ユウ 友	ヨウ 容	自動公衆送信の日中比較研究－WIPO条約からの軌跡－ 主査：教授 田村 善之	
たか 高		はし 橋	しゅう 周	じ 史	社債管理者の利益相反問題－アメリカ信託証書法との比較を手がかりに 主査：教授 山本 哲生	
たち た		な 橘	ゆう 雄	すけ 介	特許権の間接侵害の理論 主査：教授 田村 善之	
チン 陳		シン 信	ジ 至		著作権法におけるスタンダード型規範の司法による法形成－権利制約メニューとしての引用規定、著作物性、類似性について 主査：教授 田村 善之	

博士の専攻分野の名称	博士の学位を授与された者		博 士 論 文 名
	氏 名		
博士（法学）	はし 橋もと しん 伸		利益吐き出しの理論的根拠の検討——ヒト由来物質の無断利用問題を一素材として—— 主査：教授 吉田 邦彦
	ふく 福しま たく や 哉		従属的、奉仕的行政手続観の諸相と限界 主査：教授 岸本 太樹
	Edward Kieran Boyle	エドワード キーラン ボイル	Ezo as relational territory: mapping and bordering Japan's north (相対的な領土としての「蝦夷」：日本北方領域の境界策定と地図作成に関する一考察) 主査：教授 眞壁 仁
博士（経済学）	きん 金 じん 仁 じょ 子		現代韓国における「貧困の女性化」 主査：教授 橋本 努
博士（経営学）	ちん 陳 ぶん 雯 くん 君		A Dynamic Model of Mergers and Acquisitions: Optimal Payment Methods (企業買収合併における最適支払戦略の動学モデル) 主査：教授 石井 利昌
博士（医学）	き 木 かわ こと み 美		子宮頸部細胞診陰性症例における高度子宮頸部病変のリスクの層別化に関するHPV16/18型判定の有用性に関する研究 主査：教授 荒戸 照世
	あ 安 びこ 彦 かがり		Studies on molecular imaging in traumatic brain injury with neurobehavioral disability (高次脳機能障害を呈した外傷性脳損傷における分子イメージングに関する研究) 主査：教授 寶金 清博
	あ 安 びこ さと し 史	安孫子 紗 史	ADH1B / ALDH2遺伝子型と飲酒習慣による食道癌内視鏡治療後の異時性扁平上皮癌の発症リスクに関する検討 主査：教授 本間 明宏
	あ 安 びこ 剛 ひろ 大	安孫子 剛 大	CHP-MAGE-A4 がんワクチン投与患者における治療効果予測のためのバイオマーカーの探索 - 血清中の抗原特異的IgGサブクラスとIgE値推移の臨床的意義についての検討 - 主査：教授 大滝 純司
	い 伊 し ゆき とも 友	伊 師 雪 友	神経膠腫における遺伝子解析：特に成人のBRAF V600E点変異に注目して 主査：教授 佐邊 壽孝
	い し だ な お こ 子	石 田 直 子	エストロゲン受容体陽性乳癌の生物学的特性と予後に関する研究 主査：教授 野口 昌幸
	い し づ か 石 塚 タンエルゲル		Involvement of (pro) renin receptor in the pathogenesis of inflammatory eye diseases (炎症性眼疾患における（プロ）レニン受容体の病態形成への関与) 主査：教授 久住 一郎
	い ず み た か あ き 章	出 水 孝 章	肝弾性度と肝脂肪量を組み合わせた慢性肝疾患患者の肝細胞癌発生リスク評価 主査：教授 平野 聡
	う づ き 月 ゆたか	卯 月 ゆたか	羊水中BNP濃度に影響する周産期因子についての検討 主査：教授 安齊 俊久
	え 橋もと しん 慎		新規化合物“NK026680”とDonor specific transfusionの併用による免疫抑制効果 主査：教授 清野 研一郎
	おお ぐち ゆ か 香	大 口 由 香	長島型掌蹠角化症の原因遺伝子SERPINB7におけるリードスルー作用およびmRNA分解についての研究 主査：准教授 矢部 一郎
	おお た ま さ ひろ 博	太 田 昌 博	慢性腎臓病による骨質異常と骨粗鬆症治療薬による治療効果および安全性に関する研究 主査：教授 山本 有平
	おお つか ゆうたろう	大 塚 勇太郎	癌悪性度進展の分子基盤の解明 主査：教授 近藤 亨
	おお もり ゆう こ 子	大 森 優 子	膀胱癌性腫瘍関連癌の発生機構の多様性に関する分子病理学的解析 主査：教授 篠原 信雄
	おがさわら れい き 起	小笠原 励 起	腸管リンパ管内皮細胞はR-Spondin3を産生する 主査：教授 有賀 正
かた やま しゅう た 太	片 山 翔 太	CRISPR/Cas9を活用したエピゲノム編集システムの開発 主査：准教授 伊藤 陽一	

博士の専攻分野の名称	博士の学位を授与された者		博 士 論 文 名
	氏 名		
博士（医学）	かとうのやす 加藤伸康		先天性心疾患における血流動態と自己心膜で再建された肺動脈変性の関連 主査：准教授 中村 幸志
	かまたるい 鎌田 塁		肥大心におけるβ-アドレナリン受容体刺激を介した不整脈基質:カルシウムカルモジュリン依存性タンパク質キナーゼを介したスモールコンダクタンスカルシウム感受性カリウムチャンネル活性化の役割 主査：教授 丸藤 哲
	かめだひろゆき 亀田浩之		7テスラMRIの多チャンネル送信システムにおける画像再現性および信号均一性の向上に関する検討 主査：教授 生駒 一憲
	きくちはじめ 菊池 創		肺癌の組織型によるNotch1/Numb発現とNumbの機能の違いに関する研究 主査：教授 秋田 弘俊
	きくちひろし 菊地 央		尿路上皮癌における抗がん剤治療がもたらす腫瘍血管の耐性獲得 主査：教授 田中 伸哉
	きたおなほゆき 北尾直之		短期高脂肪食負荷はグルコキナーゼおよびIRS-2非依存的経路を介して膵β細胞増殖を誘導する 主査：教授 山下 啓子
	きたがわかん 北川 寛		アクチグラフィを用いた双極性障害患者における概日リズムに関する研究 主査：教授 佐々木 秀直
	きのしたけんじ 木下賢治		潰瘍性大腸炎における腹部超音波検査の有用性を検討した研究 主査：准教授 神山 俊哉
	げつかまさゆき 月花正幸		新規人工酸素運搬体HemoActを用いた脳虚血再灌流障害治療開発に関する研究 主査：教授 田中 真樹
	サイテンゲツ 翟天玥		妊娠女性におけるポドサイト尿ならびにネフリン尿に関する研究 主査：教授 清水 伸一
	きたおともか 北尾友香		肺癌症例における ¹⁸ F-FDG-PETのmetabolic tumor volume (MTV)とtotal lesion glycolysis (TLG)の再現性と時間変化の検証を目的とした後向き研究 主査：教授 白土 博樹
	さかもとけいた 坂本圭太		肥大型心筋症患者におけるMRストレイン解析を用いた局所心筋収縮能不均一性の評価、及び心筋線維化との関連性についての研究 主査：教授 荒戸 照世
	さとうしょうき 佐藤彰記		細胞膜透過性ペプチドを応用した新規膵臓癌治療に関する研究 主査：教授 武富 紹信
	いみなおゆき 椎名伸行		3D-CTを用いた肺区域解剖の研究 主査：教授 松野 吉宏
	シャンフイフイ 項慧慧		生体内腫瘍形成における神経ペプチド受容体NK2Rの効果に関する研究 主査：教授 小林 弘一
	しょうじひろたか 正司裕隆		非アルコール性脂肪性肝疾患におけるマクロファージ関連肝線維化バイオマーカーの探索 主査：教授 坂本 直哉
	じょうとくぜんた 上徳善太		幼若個体の軟骨自然修復過程に発現するCCL21/CCR7の軟骨再生における機能解析 主査：教授 山本 有平
	すずかじゆん 鈴鹿 淳		膠芽腫の治療抵抗性に関与するがん幹細胞性の解析 主査：教授 神谷 温之
	すずきたかよし 鈴木崇祥		唾液腺導管癌における遺伝子発現解析と発症機序に関する検討 主査：教授 坂本 直哉
	すずきともき 鈴木智貴		計時の生理学的研究 主査：教授 岩崎 倫政
たかほししゅういちろう 高橋 秀一郎		ルキソリチニブ局所投与による皮膚移植片対宿主病の新規治療法の開発と皮膚組織幹細胞の保護効果の検討 主査：教授 橋野 聡	
たにかわさとし 谷川 聖		神経幹細胞の足場としての高分子ハイドロゲルの解析 主査：教授 佐々木 秀直	

博士の専攻分野の名称	博士の学位を授与された者		博 士 論 文 名
	氏 名		
博士 (医学)	つじもと たけむら 尊 辻本武尊		高純度硬化性ゲルによる無細胞移植椎間板組織自然再生誘導法の検討 主査：教授 石田 晋
	つじだ まさや 津田正哉		心不全における骨格筋ミトコンドリアタンパクのアセチル化修飾は脂肪酸酸化障害と運動耐容能低下に関わる 主査：教授 南須原 康行
	つじだ ももこ 津田桃子		電子レセプト分析による <i>Helicobacter pylori</i> 除菌と胃癌に関する正確な状況調査 主査：教授 渥美 達也
	とくだ ゆうすけ 徳田裕輔		心不全患者に対する適応補助換気療法の早期交感神経機能改善効果に関するC-11 Hydroxyephedrineポジトロン断層撮影と I-123 MIBGシングルフォトン断層撮影を用いた包括的評価 主査：教授 西村 正治
	なかじま たかゆき 中島孝之		冠動脈硬化は心臓周囲脂肪ミトコンドリア機能障害と関連する 主査：教授 岩永 敏彦
	なかむら ひろゆき 中村浩之		自己免疫疾患の難治性病態における新たな診断マーカーと治療ターゲットに関する研究 主査：教授 西浦 博
	にしかわ なおき 西川直樹		脳の特異血管における微小炎症は新たな神経回路を形成することで末梢臓器不全を引き起こす 主査：教授 石田 晋
	はつたんだ ふみひこ 八反田文彦		抗好中球細胞質抗体関連血管炎における抗好中球細胞外トラップ抗体の存在と病的意義に関する研究 主査：教授 村上 正晃
	バク ジョングン 朴 鐘建		子宮体部上皮性腫瘍ならびに膀胱癌細胞におけるPSFの発現 主査：教授 篠原 信雄
	ひ樋ぐち はるか 樋口 はるか		腎移植の慢性抗体関連拒絶における新規尿中診断バイオマーカー、治療ターゲットORM1についての研究 主査：准教授 北村 秀光
	ひさだ りょう 久田 良諒		抗リン脂質抗体症候群の病態解明の研究 主査：教授 豊嶋 崇徳
	ひろおか きりこ 廣岡季里子		フォクトー小柳-原田病におけるバイオマーカーとしての脈絡膜厚と血流 主査：教授 久住 一郎
	ふじた ひなづみ 藤田 宗純		ケロイドにおける炎症制御機構に関する検討 主査：教授 廣瀬 哲郎
	ほうまん けんたろう 宝満 健太郎		変形性関節症発症機序の解明に向けた軟骨変性制御機構における糖鎖機能解析 主査：教授 岩永 敏彦
	ほりうち こうせい 堀内 浩水		Ras-PI3K複合体の局在制御を介したIRS4によるエンドサイトーシスの制御機構に関する研究 主査：教授 渡邊 雅彦
	まえだ こうじろう 前田 浩次郎		患者数が特に少ない希少疾病用医薬品の開発における臨床有効性・安全性の評価及び非臨床薬効薬理の評価についての研究 主査：教授 佐藤 典宏
	まえだ たたく 前田 たく		外科的リンパ系再構築法を目指したリンパドレナージパターンおよびリンパ節局所免疫能に関する研究 主査：准教授 鬼丸 力也
	まきた けいし 牧田 啓史		皮膚虚血再灌流障害におけるNKG2Dシステムの役割に関する研究 主査：教授 有川 二郎
	まつばら しんじ 松原 新史		軟骨細胞の力学的ストレス応答におけるGlycosphingolipidsの機能解析 主査：教授 大場 雄介
	まつもと じゅんいち 松本 純一		心不全における骨格筋異常を標的とした脳由来神経栄養因子による新規治療法の開発 主査：教授 森本 裕二
みやした なおひろ 宮下 直洋		血小板凝集能異常を伴う遺伝性巨大血小板性血小板減少症をきたす新規遺伝子変異ITGB3 p.T720del変異の同定と機能解析 主査：教授 畠山 鎮次	

博士の専攻分野の名称	博士の学位を授与された者		博 士 論 文 名
	氏 名		
博士（医学）	やすかわ しんいちろう 安 川 真一郎		鼻副鼻腔内反性乳頭腫の悪性転化に関わる遺伝子変異の検討 主査：准教授 志賀 哲
	やまもと こうへい 山 本 浩 平		脂肪滴周囲蛋白Perilipin 1の機能解析 主査：教授 松居 喜郎
	よし いしん じに 吉 井 新 二		<i>Helicobacter pylori</i> 感染胃炎診断に関する内視鏡学および血清学的検討 主査：教授 渥美 達也
	よし だ みち はる 吉 田 道 春		悪性神経膠腫に対する220-kHz経頭蓋MRIガイド下集束超音波装置と5-アミノレプリン酸を用いた音響力学療法 主査：准教授 鬼丸 力也
博士（歯学）	かとう めい か 加 藤 結 香		間歇的な機械的刺激はRAW264.7細胞における破骨細胞分化を抑制する 主査：特任教授 飯田 順一郎
	たか いり ひと 高 井 理 人		医療的ケアを必要とする重症心身障害児に対する訪問歯科診療についての研究 主査：教授 八若 保孝
	たか だ さ り 高 田 紗 理		Facile Functionalization of Anodized Titanium Oxide with Carbon Nanohorns Enhancing Bone Formation (骨形成の促進を目的としたカーボンナノホーンによる陽極酸化チタンの表面修飾) 主査：教授 横山 敦郎
	たけ なわ とも ひろ 竹 縄 智 紘		Expression dynamics of podoplanin in the mineralization of cultured osteoblasts with mechanostress (機械的ストレスを負荷した培養骨芽細胞の石灰化におけるポドプラニンの発現動態) 主査：特任教授 飯田 順一郎
	ちや や たつ ひと 茶 谷 竜 仁		頭蓋骨3次元Computer Graphicsにおける立体マーカーを用いた基準平面と基準点の設定 主査：特任教授 飯田 順一郎
	なお え つばさ 直 江 翼		Development of the tissue conditioner containing CPC-Montmorillonite as a new antimicrobial agent. A pilot study on antimicrobial activity and biocompatibility. (新規抗菌材CPC-Montmorillonite含有粘膜調整材の抗菌性及び生体適合性) 主査：教授 横山 敦郎
	ばん どう よう すけ 坂 東 洋 祐		Electric Charge Dependence of Controlled Dye-Release Behavior in Glass Ionomer Cement Containing Nano-Porous Silica Particles (ナノ多孔質シリカ含有グラスアイオノマーセメントにおける電荷依存性の色素放出挙動) 主査：特任教授 飯田 順一郎
	サイケオピポップ Saikaew Pipop		The effect of dentine surface preparation and reduced application time of adhesive on bond strength (切削方法の違いと接着材処理時間の短縮が象牙質の接着強さに与える影響についての検討) 主査：教授 佐野 英彦
	せい とく え り 成 徳 英 理		2種類の象牙質接着システムのヒト・牛歯象牙質への接着性の検討 主査：教授 佐野 英彦
	ソン ケイ コウ 孫 継 皓		A new approach to micro-tensile bond strength: double-ended method (両端に試験片を設定した新しい微小引張り試験の検討) 主査：教授 佐野 英彦
	たて やま あき と 館 山 彰 人		Bone induction by α -tricalcium phosphate microparticle emulsion containing simvastatin (シンバスタチン添加 α -リン酸三カルシウム微粒子エマルジョンの骨形成効果) 主査：教授 網塚 憲生
	チョウウドリ CHOWDHURY アブファエム ABU FAEM モハムマド MOHAMMAD アルマス ALMAS		Does gradual dehydration affect the mechanical properties and bonding outcome of adhesives to dentin? (乾燥処理時間は象牙質の物性と接着性能に影響を与えるか?) 主査：教授 佐野 英彦
なが お けい し 長 尾 敬 志		The evaluation of dentin-coating ability and photothermal antibacterial effect of graphene oxide (象牙質の酸化グラフェンコーティングと近赤外線光による光熱抗菌効果) 主査：特任教授 柴田 健一郎	

博士の専攻分野の名称	博士の学位を授与された者		博士論文名
	氏名		
博士（歯学）	まえ だ なが こ子 前 田 良 子		高周波電流刺激による骨形成への対極とデューティ比の影響 主査：教授 網塚 憲生
	み 三 かがみ しょう 翔 三 上 翔		ビスホスホネートと2価金属イオンとの拮抗によるアルカリ性ホスファターゼ活性の阻害 主査：教授 山崎 裕
	い 井 しか かがい ま 眞 井 坂 一 眞		骨芽細胞様細胞（MC3T3-E1）のカルモジュリン依存性Ca-ATPase活性の性質 主査：特任教授 鈴木 邦明
	おお 太 た なが かつ 克 太 田 尚 克		口腔扁平苔癬の悪性化に関する免疫組織学的検討 主査：教授 北川 善政
	かな 金 やま じゅん いち 一 金 山 純 一		腫瘍溶解ウイルスと5-FUとの併用効果の検討 主査：教授 北川 善政
	こ 古 が みず し 之 古 賀 瑞 之		Na, K-ATPase活性の基質阻害に対するバルピツール酸系薬物の作用 主査：教授 藤澤 俊明
	し 清 みず りく か 花 清 水 六 花		Ewing 肉腫原因遺伝子EWS-FLI1のクロマチンリモデリング機能とFOXQ1との協調作用 主査：教授 北川 善政
	すぎ 杉 やま たか ひろ 博 杉 山 孝 博		薬剤関連顎骨壊死は制御型T細胞の減少によって生じる 主査：教授 北川 善政
	もと 元 かわ けんいちろう 賢一朗 元 川 賢一朗		在宅自立前期高齢者における摂食嚥下機能およびフレイルに関する研究 主査：教授 北川 善政
り 李 カ 加 李 加		ラット及びウサギ脳Na, K-ATPase活性に対するbufadienolidesの作用 主査：特任教授 鈴木 邦明	
博士（獣医学）	い 和 ずみ ゆう すけ 介 和 泉 雄 介		イヌの血管内皮細胞および腫瘍移植マウスを用いた血管破壊剤CA4Pの腫瘍血管選択的遮断機序の解明 主査：教授 滝口 満喜
	い 石 い ち ひろ 尋 石 井 千 尋		Evaluation of the lead exposure situation in wild birds and identification of novel avian renal biomarkers (国内に生息する鳥類における鉛汚染状況の解明と、鳥類種横断的に利用可能な新規腎障害マーカーの探索) 主査：教授 石塚 真由美
	かん 菅 の ち ひろ 裕 菅 野 智 裕		Evaluation of bovine semen quality based on sperm organelle functions and motility subpopulation structures (精子の細胞小器官機能および運動様式を指標にした牛精液品質評価法の検討) 主査：教授 片桐 成二
	さか 酒 い ゆ り 里 酒 井 友 里		NADPH oxidase 4が放射線によるストレス誘発性早期老化に伴う活性酸素種産生に与える影響およびその生理的役割に関する研究 主査：教授 稲波 修
	すず 鈴 き みず ほ 穂 鈴 木 瑞 穂		Study on the pandemic influenza vaccines prepared from avian influenza viruses (鳥インフルエンザウイルスを用いたパンデミックインフルエンザワクチンの研究) 主査：教授 迫田 義博
	H. M. Suranji スランジ ウイジェコーン Wijekoon		Pentosan polysulfate: an effective treatment for model of rheumatoid arthritis and a novel candidate for inhibition of cytokines-induced osteoclastogenesis (多硫酸ペントサン：関節リウマチの効果的な治療法およびサイトカイン誘導破骨細胞分化制御の新規薬剤としての検討) 主査：教授 奥村 正裕
	タピワ ルンドッ Tapiwa Lundu		Studies on the epidemiology of severe fever with thrombocytopenia syndrome virus infection and the role of glycoproteins in the intracellular transportation of viral structural proteins (重症熱性血小板減少症候群ウイルス感染の疫学およびウイルス構造タンパク質の細胞内輸送における糖蛋白質の役割に関する研究) 主査：教授 荻和 宏明
ひら 平 の みなと 港 平 野 みなと 港		Studies on the replication and pathogenic mechanisms of tick-borne encephalitis virus in neuron (ダニ媒介性脳炎ウイルスの神経細胞における複製および病原性発現機序の研究) 主査：教授 荻和 宏明	

博士の専攻分野の名称	博士の学位を授与された者	博 士 論 文 名
	氏 名	
博士（獣医学）	む とう め み 武 藤 芽 未	Studies on epidemiology and virus-host interaction in pathogenicity of Tick-borne encephalitis virus (ダニ媒介性脳炎ウイルスの疫学および病原性発現に関与する宿主因子の研究) 主査：教授 莉和 宏明
	もり た とも や 森 田 智 也	Application of the assessment of right ventricular function by echocardiography in dogs with heart disease (犬心疾患への心エコー図法を用いた右心室機能評価の応用) 主査：教授 滝口 満喜
	もり わき じゅん 森 脇 潤	捕殺個体を利用したエゾヒグマ (<i>Ursus arctos yeasoensis</i>) の繁殖および栄養状態評価に関する研究 主査：教授 坪田 敏男
	リ サ アンジェラ Lesa Angela トンプソン Thompson	Health risk assessment and molecular biological characteristics associated with organochlorine insecticides sprayed for control of pests and vector-borne diseases: One Health aspects (有機塩素系殺虫剤散布による病原性媒介生物および疾患のコントロールが及ぼす分子生物学的特徴と健康リスク評価に関する研究) 主査：教授 石塚 真由美
	わ だ ゆう じ 和 田 雄 治	Discovery of a novel antiviral agent for chikungunya virus (新規抗チクングニアウイルス化合物の探索と解析) 主査：教授 澤 洋文
	ワンラヤー Wallaya ボンベオウ Phongphaew	The valosin-containing protein is implicated in West Nile virus replication and an examination of the pathogenicity of novel WNV strain isolated in Zambia (ウエストナイルウイルスの複製に関与するバロシン含有タンパク質に関する研究とザンビアで単離されたウエストナイルウイルスの病原性の検索) 主査：教授 澤 洋文
博士（情報科学）	こう の かつ や 河 野 克 也	単板式デジタルカメラのための画質改善法に関する研究 主査：教授 田中 章
	ジェイ 翟 ホン 泓 ジェ 杰	Study on Discovery and Exploration Systems Considering User's Intention (ユーザの意図を考慮した発見・探索システムの研究) 主査：特任教授 原口 誠
	たか き たく や 高 木 拓 也	Studies on Efficient Index Construction for Multiple and Repetitive Texts (複数テキストと繰り返しテキストに対する効率の良い索引構築の研究) 主査：教授 有村 博紀
	なか むら まさ なり 中 村 将 成	音響信号を用いた屋内位置認識手法に関する研究 主査：教授 杉本 雅則
	ビョー テンダー Phyo Thandar Than	Multi-Objective Resource Optimization of Big Data Applications in Cloud Computing Infrastructure (クラウドコンピューティング基盤におけるビッグデータアプリケーションの多目的資源割当最適化) 主査：教授 棟朝 雅晴
	わた なべ りょう 渡 邊 僚	Analysis of Policies for Budgeted Multi-Armed Bandit Problem and Matching-Selection Bandit Problem (予算制約付き多腕バンディット問題およびマッチング選択バンディット問題に対する方策の解析) 主査：准教授 中村 篤祥
	みの だ れ お な 蓑 田 玲 緒 奈	Scenario Verification for Proximity-Based Federation of Smart Objects Using Model Checking (モデル検査によるスマートオブジェクトの近接連携シナリオの形式検証) 主査：教授 湊 真一
	こ とう ゆう た 後 藤 優 太	複素振幅制御を用いた仮想位相共役技術による光情報処理に関する研究 主査：教授 富田 章久

博士の専攻分野の名称	博士の学位を授与された者		博 士 論 文 名
	氏 名		
博士 (工学)	にし ぐち けん や 弥 西 口 賢 弥		Surface-related operation instabilities of GaN HEMTs and their control using Al2O3-based MOS structures (GaN HEMTにおける表面起因の動作不安定性とAl2O3 MOS構造による制御) 主査：教授 本久 順一
博士 (情報科学)	おさ ない ひさ ゆき 長 内 尚 之		微小コイル磁気刺激法の確立とその脳活動修飾への応用 主査：教授 館野 高
博士 (工学)	ナ ガ ビジャヤ Naga Vijaya ラ クシ ミ Lakshmi マン チ ナ セ ティ Manchinasetty		Preparation and characterization of calcium phosphate ceramics and polymer composites as potential bone substitutes (人工骨への応用を目指したリン酸カルシウムセラミックスと高分子の複合体の作製と評価) 主査：客員教授 菊池 正紀
博士 (情報科学)	いし ほん けん た 太 石 原 賢 太		胃X線画像を用いた機械学習に基づく胃がん発症リスクの自動分類に関する研究 主査：教授 長谷山 美紀
博士 (工学)	さ とう なが のり 憲 佐 藤 孝 憲		全光信号処理のための非線形フォトニック結晶光デバイスに関する研究 主査：教授 齊藤 晋聖
	みや むら たかし 崇 宮 村 崇		トラヒック変動を考慮した光ネットワークの設計制御手法の研究 主査：客員教授 可児 淳一
博士 (情報科学)	あら い わたる 航 荒 井 航		誤差を伴う多軸加工シミュレーションのための工具掃引体導出に関する研究 主査：准教授 田中 文基
	つち や よし お 央 土 谷 圭 央		腰部負荷推定のためのウェアラブルセンサシステム 主査：准教授 田中 孝之
博士 (水産科学)	し みづ たけ とし 俊 清 水 武 俊		かび臭を産生する有害藍藻 <i>Dolichospermum crassum</i> の細菌を用いた制御に関する研究 主査：教授 和田 哲
	すず き こう た 太 鈴 木 孝 太		噴火湾におけるアカガレイ卵・仔稚魚の時空間分布と生残率の年変動 主査：教授 綿貫 豊
	ふく い よう 洋 福 井 洋		船舶操縦性能に及ぼす横傾斜影響と4自由度操縦運動モデルの研究 主査：教授 高木 力
	みや した よう へい 平 宮 下 洋 平		浮葉植物ヒシ <i>Trapa japonica</i> を活用したアオコ防除に関する研究 主査：教授 今村 央
	よし やま たく 拓 芳 山 拓		北海道然別湖における遊漁管理－希少魚の保全と地域振興, 釣り人と共に－ 主査：教授 高津 哲也
	わ が ひさ とも 朋 和 賀 久 朋		Spatiotemporal variabilities in phytoplankton and benthic communities in the Pacific Arctic (太平洋側北極海における植物プランクトンおよびベントス群集の時空間変動) 主査：教授 綿貫 豊
	エムディー レアズル MD. REAZUL イスラム ISLAM		Chemical Studies on Tyrosinase Inhibitory and Antioxidant Activity of Bromophenols from Rhodomelaceae Algae (フジマツモ科海藻由来プロモフェノール類のチロシナーゼ阻害及び抗酸化活性に関する化学的研究) 主査：教授 関 秀司
	かわ さき たく ま 真 川 崎 琢 真		クロソイ人為繁殖および新規貝類養殖技術開発に関する研究 主査：教授 都木 靖彰
	コウ 高 ホウ 峰 高 峰		Genome analysis of the alginate degrading marine bacterium <i>Vibrio haliotocoli</i> (<i>Vibrio haliotocoli</i> のゲノム解析) 主査：教授 尾島 孝男
	チョウ 張 タク 鐸 張 鐸		Chemical Studies on β -Glucuronidase Inhibition of Compounds Derived from Marine Algae (海藻由来化合物の β -グルクロニダーゼ阻害に関する化学的研究) 主査：教授 岸村 栄毅
ノ ア ユスリダ NOOR YUSLIDA ビンティ ハザハリ BINTI HAZAHARI		Study on the Characteristic Oxidative Stability of Plant and Seaweed Lipids: Application to Halal Alternative Ingredients (植物および海藻脂質の特徴的な安定性に関する研究：ハラル食品素材の開発を目指して) 主査：教授 細川 雅史	

博士の専攻分野の名称	博士の学位を授与された者	博 士 論 文 名
	氏 名	
博士（水産科学）	まつむらゆうた 松村 佑太	Hydrogen-producing ability and its ecophysiological roles in vibrios (ビブリオ属細菌の水素生産能とその生理生態学的役割) 主査：教授 尾島 孝男
	ベチーボア PETITBOIS ジュリー ガブリエーリ Julie Gabrielle	Antifouling compounds isolated from two Red Sea organisms: a <i>Hyrtios</i> sp. sponge and an <i>Okeania</i> sp. Cyanobacterium (紅海由来の海綿 <i>Hyrtios</i> sp.およびラン藻 <i>Okeania</i> sp.から得られた付着阻害物質) 主査：教授 沖野 龍文
	アラファン ARAFAN トラオレ TRAORE	Studies on urban growth in Conakry, Guinea, using geo-spatial data (地理空間データを用いたギニア、コナクリの都市拡大に関する研究) 主査：教授 渡邊 悌二
	たきざわゆうこ 滝沢 侑子	Compound- and position-specific stable isotope methods for measuring the consumption of storage protein and lipids in plant physiology : implications for studies in ecology and geochemistry (植物の貯蔵アミノ酸・脂質の消費に伴う分子レベル／分子内安定同位体分別：生態学・地球化学研究への応用を目指して) 主査：教授 力石 嘉人
	ミュラー アストリッド Mueller Astrid	Studies on the effects of cold terrestrial biogenic emissions of organics on the cloud forming potential of atmospheric aerosols (寒冷陸域植生から放出される有機物が大気エアロゾルの雲生成ポテンシャルに及ぼす影響に関する研究) 主査：教授 渡辺 力
	りしほふん 李 勃 丰	A high-resolution mapping of oceanic carbon species in the high latitude North Pacific (北太平洋高緯度海域における海洋炭酸物質の高解像度マッピング) 主査：准教授 渡辺 豊
	おおはしよしひこ 大橋 良彦	Glacial meltwater distribution and its variability in the northwestern Greenlandic fjord (グリーンランド北西フィヨルドにおける氷河流出水の分布とその変動特性) 主査：准教授 青木 茂
博士（環境科学）	うめざわかずひろ 梅 澤 和 寛	Genomic and proteomic study of dissimilatory sulfur metabolism (ゲノミクスおよびプロテオミクスによる異化的硫黄代謝の研究) 主査：教授 福井 学
	チェン 陳	Dynamics of different branching units in crowns of Sakhalin spruce, <i>Picea glehnii</i> (F.Schmidt) Mast. (アカエゾマツ <i>Picea glehnii</i> (F. Schmidt) Mast.の樹冠における異なる分枝ユニットの動態) 主査：准教授 隅田 明洋
	おおはらたかゆき 大原 隆之	Mathematical models of the plant circadian clock: impact of phase regulation by sugar on plant growth (植物概日時計の数理モデル：糖による位相応答が成長に及ぼす影響) 主査：教授 甲山 隆司
	いわさきあいこ 岩崎 藍子	Quantifying intensity and severity of natural disturbances: a case study of the impact of the 2011 Tohoku Earthquake Tsunami on rocky intertidal community (自然攪乱の強度と影響度の定量：東北地方太平洋沖地震による津波が岩礁潮間帯生物群集に及ぼしたインパクトについての事例研究) 主査：教授 野田 隆史
	かなもりゆき 金 森 由 妃	Spatial variation in community dynamics in intertidal sessile assemblages (岩礁潮間帯固着生物群集における群集動態の空間変異) 主査：教授 野田 隆史
	とみやすまこと 富 安 信	バイオロギングシステムを用いた太平洋ニシンの産卵回遊に関する研究 主査：教授 宮下 和士
	やましたあやの 山下 綾乃	Studies on electrochemical immobilization of Prussian blue on carbon fiber and the adsorption behavior of cesium ions on the adsorbent (プルシアンブルーのカーボンファイバー上への電気化学的固定化およびセシウムイオンの吸着挙動に関する研究) 主査：特任教授 田中 俊逸

博士の専攻分野の名称	博士の学位を授与された者	博士論文名
	氏名	
博士（環境科学）	すぎ うち みず ほ穂 杉 内 瑞 穂	分子性金クラスターの特異な光学物性と応答機能 主査：教授 小西 克明
	や じま りょう じ次 矢 嶋 亮 次	エチレンのオゾン分解から生成する安定化クリーパー中間体とカルボン酸および水蒸気との反応性に関する研究 主査：准教授 廣川 淳
	おう 王 王 壱	Titania photocatalysis: New insights in the photocatalytic mechanism and exemplary applications (酸化チタン系光触媒反応：光触媒反応機構と典型的応用における新しい視点) 主査：准教授 KOWALSKA EWA KATARZYNA
	なけ うち しゅう こと 竹 内 脩 悟	Studies on multielectron-transfer mechanism in heterogeneous photocatalytic oxygen evolution (光触媒酸素生成反応における多電子移動機構に関する研究) 主査：教授 大谷 文章
	にっ た あき お央 新 田 明 央	Energy-resolved density of electron traps as a novel structural index for identification and characterization of metal-oxide powders (金属酸化物粉末の同定と評価のための新規構造指標としての電子トラップ密度のエネルギー分布に関する研究) 主査：教授 大谷 文章
博士（理学）	さい とう はや と人 齋 藤 逸 人	On Moduli Spaces of Quasi-Maps and Gromov-Witten Invariants (擬写像のモジュライ空間とグロモフ・ウィッテン不変量に関する研究) 主査：准教授 秦泉寺 雅夫
	なか むら みみ ひこ彦 中 村 文 彦	Asymptotic behavior of random dynamical systems arising from a single neuron model (単一の神経細胞モデルから派生するランダム力学系の漸近的挙動) 主査：教授 由利 美智子
	ほん だ しゅん いち一 本 多 俊 一	Flat surfaces associated with framed base curves (枠付け可能曲線に付随する平坦な曲面) 主査：特任教授 泉屋 周一
	あが つま とも あき明 我 妻 友 明	A mechanism of high-temperature superconductivity from orbital nematic fluctuations and its possibility in iron pnictides and chalcogenides (軌道ネマチック揺らぎによる高温超伝導機構と鉄ニクタイト・カルコゲナイドにおけるその可能性) 主査：客員教授 山瀬 博之
	こ ばやし たく や矢 小 林 拓 矢	Microscopic Study of Organic Superconductors near Antiferromagnetic Insulating Phase by ¹³ C NMR Spectroscopy (¹³ C NMR法による反強磁性絶縁相に隣接した有機超伝導体の微視的な研究) 主査：教授 河本 充司
	さい とう ひらく開 齋 藤 開	Crystal Growth and Experimental Tests for New Magnetoelectric Effects in Metallic Antiferromagnets (金属反強磁性体における新しい電気磁気効果の実験的検証及び結晶育成) 主査：教授 網塚 浩
	さい とう よう へい平 齋 藤 洋 平	NMR studies of insulating phase adjacent to superconducting phase in quasi-two-dimensional organic conductors (擬二次元有機伝導体の超伝導隣接絶縁相のNMRによる研究) 主査：教授 河本 充司
	のり き ゆう さく作 乗 木 優 作	Spin-Wave Theory of Thermal Excitations and Inelastic Scattering in Heisenberg Magnets: New Developments in Compactification and Renormalization (Heisenberg 磁性体における熱励起と非弾性散乱のスピン波理論：コンパクト化と繰り込みの新しい展開) 主査：教授 山本 昌司

博士の専攻分野の名称	博士の学位を授与された者		博 士 論 文 名
	氏 名		
博士（理学）	いま い ま さ たか 今 井 正 堯		Study of planetary-scale waves in the Venus cloud top layer based on long-term observation with ground-based telescopes and AKATSUKI/UVI (地上望遠鏡及びあかつき搭載紫外線カメラによる金星雲頂部の長期観測に基づいた惑星大気波動の研究) 主査：教授 高橋 幸弘
	しま 島 かず ひろ 島 和 宏		The effect of photoionisation feedback on star formation in giant molecular clouds (分子雲における輻射が星形成に与える影響) 主査：客員准教授 エリザベス・タスカー
	たか はし やす と 高 橋 康 人		木星対流圏の放射エネルギー収支に関する数値的研究 主査：教授 倉本 圭
	わた なべ けん すけ 渡 辺 健 介		TRAPPIST-1系地球型惑星における水蒸気大気の流体力学的散逸とその観測可能性 主査：教授 倉本 圭
	あき やま たく や 秋 山 拓 哉		Studies on genetic diversity of the endangered red-crowned cranes (<i>Grus japonensis</i>) on Hokkaido Island, Japan (北海道に生息するタンチョウ集団の遺伝的多様性に関する研究) 主査：教授 増田 隆一
	いい しま まさ や 飯 島 正 也		Evolution of Ecology in Crocodylians: Morphometric and Phylogenetic Approach (ワニ類の生態進化史の復元：形態計測・系統学的アプローチ) 主査：准教授 小林 快次
	いち かわ ゆい こ 市 川 悠衣子		Evaluation methods of prediction skill and predictability in the Madden-Julian oscillation phase space (マッデン・ジュリアン振動相空間における予報精度と予測可能性の評価手法) 主査：教授 稲津 将
	ウー サウ ピン Woo Sau Pinn		Systematic Studies on Sea Cucumbers of the Family Stichopodidae (Echinodermata: Holothuroidea) (シカクナマコ科(棘皮動物：海鼠類)の体系学的研究) 主査：准教授 柁原 宏
	ウィルフレッド ジョン Wilfred John エリヤ サンティアゴ Eria Santiañez		Taxonomic and molecular phylogenetic studies in the Scytosiphonaceae (Ectocarpales, Phaeophyceae) (カヤモノリ科(褐藻綱シオミドロ目)の分類学および分子系統学的研究) 主査：教授 小亀 一弘
	お ぎき ゆう き 尾 崎 有 紀		速度考を中心としたパークリー哲学の再解釈 主査：教授 松王 政浩
なか しま ゆう き 中 島 悠 貴		Multi-sensor study of dynamics of atmospheric waves induced by volcanic eruptions (複数センサーで探る火山噴火に伴う大気波動のダイナミクス) 主査：教授 日置 幸介	
はぎ の 野 わたる 航 萩 野 航		Taxonomic studies on oribatid mites of the genera <i>Neoribates</i> , <i>Trichogalumna</i> and <i>Cosmogalumna</i> (Acari: Oribatida: Galumnoidea) in Japan (日本産フクロフリソデダニ属, チビゲフリソデダニ属, カザリフリソデダニ属(ダニ目：ササラダニ亜目：フリソデダニ上科)の分類学的研究) 主査：准教授 柁原 宏	
博士（農学）	アンドレ オハラ Andre Ohara		Analysis of the DNA damage signal transducer ortholog <i>Mop53BP1</i> in <i>Pyricularia oryzae</i> (イネいもち病菌のDNA損傷トランスデューサーオーソログMop53BP1の解析) 主査：教授 曾根 輝雄
	イ 李 ジョン ヒョン 李 廷 絢		Development of Maillard reaction based time temperature indicator/integrator for application of agricultural and food process engineering (農業および食品プロセス工学のためのメイラード反応に基づく積算温度インジケータの開発) 主査：准教授 小関 成樹
	イン 殷 スイ 帥		Study on the effects of anthropogenic activities and climate change on atmospheric environment by remote sensing technology (リモートセンシング手法を用いた人間活動と気候変動が大気環境に及ぼす影響に関する研究) 主査：准教授 王 秀峰

博士の専攻分野の名称	博士の学位を授与された者	博 士 論 文 名
	氏 名	
博士（農学）	ヘリ サントソ Heri Santoso マリムン Marimun	Assessing oil palm growth condition in Indonesia using remote sensing techniques (リモートセンシング技術を用いたインドネシアにおけるアブラヤシの生育状態の評価) 主査：准教授 谷 宏
	むら した すぐる 村 下 卓	Development of non-thermal microbial inactivation techniques: application of ohmic heating and irradiation of UVC by light-emitting diode (非熱的殺菌技術の開発：通電加熱と発光ダイオードによるUVC照射) 主査：准教授 小関 成樹
	もう り やす ひろ 毛 利 泰 大	経済インセンティブを用いた灌漑管理制度に関する研究—インドネシア・ジャワ島の水利組合の事例— 主査：教授 近藤 巧
	もり おか まさ こ子 森 岡 昌 子	ネパールにおける労働力移動が農家世帯の消費及び投資に与える影響 主査：教授 近藤 巧
	わた なべ こう へい 渡 辺 康 平	生産者との提携的關係に基づく青果物流通企業の機能に関する研究 主査：准教授 小林 国之
	トゥン ミイン Htun Myint	Functional evaluation of bean husk as a new feed ingredient for monogastric animals (単胃動物のための新規飼料素材としてのマメ外皮の機能評価) 主査：教授 小林 泰男
	にし づか ひろ あき 西 塚 紘 明	窒素固定性シアノバクテリア <i>Nostoc sp.</i> に対するホルモゴニア分化誘導因子の探索およびそれらの構造活性相関に関する研究 主査：教授 橋床 泰之
	アリ ロシャニアンワレド Ali Roshanianfard	Development of a Harvesting Robot for Heavy-weight Crop (重量作物のための収穫ロボットの開発) 主査：教授 野口 伸
	いわ ぎき しん や 岩 崎 真 也	Factors controlling change in soil organic carbon stock in various land uses on different soil types under different climate (異なる気候、土壌のさまざまな土地利用における土壌有機態炭素ストック変化の支配要因) 主査：教授 波多野 隆介
	エデニオ オリバレス Edenio Olivares ディアス Diaz	Physical and Chemical Properties of Multiple Varieties of NERICA, Indica and Japonica Types of Rice for Assessing and Enhancing Quality (米の品質評価と品質向上のためのネリカ米インディカ米ジャポニカ米の複数の品種の物理化学特性) 主査：特任教授 川村 周三
	シテイヌール シヤファ Sitty Nur Syafa ピンティ バクリ Binti Bakri	Torrefaction of high moisture content biomass using fresh dairy manure (乳牛ふんを用いた高含水率バイオマスの半炭化) 主査：教授 岩淵 和則
	しぶ い ひろ み 渡 井 宏 美	カバノキ属樹木の外樹皮の解剖学的特徴と力学的性質に関する研究 主査：教授 佐野 雄三
	ト 杜 モウ モウ 杜 蒙 蒙	Agricultural Remote Sensing by Multiple Sensors Mounted on an Unmanned Aerial Vehicle (無人飛行機に搭載した複数センサによる農業リモートセンシング) 主査：教授 野口 伸
	みず もと ひろ き 水 本 寛 基	Understanding the current distribution and biomass of an endangered salmonid species, Sakhalin taimen, by using environmental DNA (環境DNAを用いた絶滅危惧種イトウの分布域・生物量の解明) 主査：教授 荒木 仁志
モハメド モスタフィザル Md. Mostafizar ラーマン Rahman	Studies on tracked dynamic model and optimum harvesting area for path planning of robot combine harvester (ロボットコンバインのダイナミックモデル構築と走行経路生成のための収穫領域最適化に関する研究) 主査：准教授 石井 一暢	

博士の専攻分野の名称	博士の学位を授与された者		博 士 論 文 名
	氏 名		
博士（農学）	わた なべ さ おり 渡 邊 紗 織		The mechanism for the maintenance of a color polymorphism in the myrmecophilous aphid, <i>Macrosiphoniella yomogicola</i> . (アリ随伴型アブラムシである、ヨモギヒゲナガアブラムシにおける色彩多型維持メカニズムの解明) 主査：准教授 長谷川 英祐
博士（生命科学）	たか はし りく 高 橋 陸		Design and Fabrication of Functional Hydrogel Composites: from Micro-scale to Macro-scale (機能性ハイドロゲル複合材料のデザインと創製：マイクロからマクロまで) 主査：教授 龔 劍萍
	ほん げん たか ひろ 本 元 貴 大		Structural Analyses of Helices of Poly-Oligo (lactic acid) in Solution-State (液相中ポリ・オリゴ乳酸のらせん構造解析) 主査：教授 門出 健次
	マ ハ デ バ Mahadeva ス ワ ミ イ Swamy マカナハリマデゴウダ M.M		Discovery of Naturally Occurring Sphingomyelin Synthase Inhibitors: Structural Activity Relationship Validation and Inspiring Sphingo-mimic Studies (スフィンゴ脂質代謝を制御する天然有機化合物の探索とその機能解明に関する研究) 主査：教授 門出 健次
	ム ハ マ ド MUHAMMAD イ リ ヤ ス ILYAS		Synthesis of Large Area Bilayer-hybrid Gels and Exploration of Novel Functions (大面積二分子膜ハイブリッドゲルの合成とその新機能探索) 主査：教授 龔 劍萍
	や はら まさ お 矢 原 真 郎		The study on mechanism of neuronal cell death in amyotrophic lateral sclerosis regarding U6 snRNA expression change. (U6 snRNAの発現量変動に着目した筋萎縮性側索硬化症における神経細胞死機構に関する研究) 主査：教授 金城 政孝
	あお やま しょう き 青 山 翔 紀		Studies on the regulation of flowering and senescence in response to carbon/nitrogen nutrient availability in Arabidopsis (シロイヌナズナにおけるC/N栄養条件に応じた花成・老化制御機構に関する研究) 主査：教授 山口 淳二
	さ とう とも あき 佐 藤 智 亮		クロロフィル分解に関するSGRとNYCIの協調的発現とその生理的役割 主査：教授 田中 歩
	さ とう ゆ い 佐 藤 優 衣		Studies on the mechanism of spermatocyte-specific gene activation by enhancer and long noncoding RNA during mouse spermatogenesis (マウス精子形成におけるエンハンサーとlong noncoding RNAによる精母細胞特異的遺伝子活性化メカニズムに関する研究) 主査：准教授 木村 敦
	たか はし なお み 高 橋 直 美		Analysis of four giant inhibitory neurons projecting to the input sites of mushroom body in the cockroach brain (ゴキブリ高次嗅覚中枢に入力する巨大抑制性ニューロンに関する研究) 主査：教授 水波 誠
	てら お かん た 寺 尾 勘 太		Behavioral and pharmacological evidence for the prediction error-based learning in crickets <i>Gryllus bimaculatus</i> (コオロギを用いた予測誤差に基づく学習の検証) 主査：教授 水波 誠
まる やま ゆう き 丸 山 優 樹		Studies on the role of prolyl oligopeptidase in mouse trophoblast stem cell differentiation (マウス胎盤幹細胞分化におけるプロリルオリゴペプチダーゼ機能に関する研究) 主査：准教授 木村 敦	
いし むら こう へい 石 村 航 平		活性配座解析を目的としたレズルビンE1誘導体の合成研究 主査：教授 周東 智	
博士（薬科学）	お ぐま たか ひろ 小 熊 高 広		消化管ナトリウム・グルコース共輸送体1 (SGLT1) のグルカゴン様ペプチド-1分泌における役割、及び2型糖尿病治療におけるSGLT1阻害の意義に関する研究 主査：教授 南 雅文
	かつ やま あきら 勝 山 彬		プラスバシンA ₃ の全合成と作用機序解明に向けた研究 主査：教授 市川 聡

博士の専攻分野の名称	博士の学位を授与された者		博 士 論 文 名
	氏 名		
博士（薬科学）	しら 白 木 柚 葉		カーゴ受容体APPとAlcadein <i>a</i> の機能解析 主査：教授 鈴木 利治
	そ 蘇 ぶ 武 けい 子		Kinesin-1カーゴ分子Alcadein <i>a</i> の神経軸索輸送機構の解析 主査：教授 鈴木 利治
	たか 高 橋 愛 実		The functional analysis of domain-deleted isoform of human leukocyte antigen (HLA)-G (ドメイン欠損型HLA-Gアイソフォームの機能解析) 主査：教授 前仲 勝実
	なか 仲 谷 岳 志		スファエリミシン類コア骨格の合成研究 主査：教授 市川 聡
	フ 胡	ハオ 漢	新規分子不斉化合物の合成と不斉触媒反応への応用 主査：教授 高橋 保
	み 三 浦 尚 也		KALAペプチド修飾ナノ粒子を基盤としたワクチン技術の開発とがん免疫療法への応用 主査：教授 原島 秀吉
	もと 本 館 利 佳		NMDA型グルタミン酸受容体の局在制御におけるX11とX11Lの役割 主査：教授 鈴木 利治
博士（生命科学）	わか 若 林 雅 人		脂質の組成／代謝変化による角化症モデルの病態解析 主査：教授 木原 章雄
博士（薬科学）	わ 和 だ 田 やす 康 ひろ 弘		心血管系の副作用を軽減した選択的β ₃ アドレナリン受容体アゴニストの創製研究 主査：教授 周東 智
博士（臨床薬学）	すえ 末 まさ 政 あき 亮 ひろ 大		GABAトランスポーターサブタイプ選択的阻害剤の創出を目的とするGABA配座制限誘導体の設計と合成 主査：教授 周東 智
	の 野 ぎさ 崎 れい 雄		山椒熱水抽出物により誘導されるオートファジー細胞死に関する研究 主査：教授 武田 宏司
	まえ 前 はら 原 おま 経		食道扁平上皮癌がん幹細胞におけるFGF-2の機能解析および新規治療法への展開 主査：教授 武田 宏司
博士（教育学）	たく 侘 美 しゅん 俊 すけ 輔		地域と生活に根差した高齢者の健康づくり活動の実証的研究～利尻島と東日本大震災被災地における聞き取り調査から～ 主査：教授 大塚 吉則
	ヤヴォロウィチ ジム ニ Jaworowicz- Zimny アレクサンドラ Aleksandra Wiktorja		Subcultures of war. Images of the Asia-Pacific War in Japanese youth and fan culture. (戦争のサブカルチャー. 若者とファンの文化における太平洋戦争のイメージ.) 主査：教授 シートン・フィリップ
博士(国際広報メディア)	バート ブリックリン BERT BRICKLIN ゼフ ZEFF		Pragmatic Teaching and Japanese EFL Learners' Use of Greeting Routines (語用論的指導と日本人EFL学習者の挨拶ルーティンの使用) 主査：教授 河合 靖
	みつ 三ツ木 ま 真 こと 実		認知言語学的アプローチによる多義語指導の実践と学習者の認知 主査：教授 河合 靖
博士（学術）	リュウ 劉 ア 亜 ヒ 菲		中国ネット世論形成におけるネットオピニオンリーダーの役割研究 主査：准教授 西 茹
博士（観光学）	よ 依 だ 田 ま 真 み 美		〈モビリティ〉社会におけるボランティア・ツーリズムの研究 主査：教授 山村 高淑
博士（保健科学）	うえ の 野 りょう 亮		着地動作における膝関節バイオメカニクスに対する下肢筋張力の影響 主査：教授 前島 洋
	キム 金 キョン 京 シル 室		短波長光への暴露がMotion sicknessの感受性に及ぼす影響 主査：教授 浅賀 忠義
	たけ 武 だ 田 けん 賢 た 太		足圧中心と体重心の同時フィードバックが静的姿勢制御に与える適応効果 主査：教授 前島 洋
	はせがわ 長谷川 なお 直 や 哉		視覚および聴覚のフィードバック練習による動的バランスの学習効果に関する研究 主査：教授 境 信哉

博士の専攻分野の名称	博士の学位を授与された者		博 士 論 文 名
	氏 名		
博士（保健科学）	ふじ 藤 原 けん 健 すけ 祐		北海道における放射線診療と急性期脳梗塞診療の地理的アクセシビリティ 主査：教授 佐伯 和子
	まつ 松 谷 ゆう 悠 すけ 祐		Investigation of Cell Responses under Protracted Exposure to Ionizing Radiation (長時間放射線照射下における細胞応答に関する研究) 主査：教授 神島 保
	むら 村 上 ゆい 優 い 衣		自閉症傾向が顔の選好判断および脳活動に与える影響：機能的磁気共鳴画像法（fMRI）を用いた検討 主査：教授 前島 洋
博士（工学）	いけ 池 谷 さとし 聡		異常な超伝導近接効果の数理構造 主査：准教授 浅野 泰寛
	あ 阿 部 けい 圭 すけ 祐		Study on Effective Utilization of Goethite-based Nanoporous Ore (ナノ多孔質ゲーサイト基鉱石の有効利用に関する研究) 主査：教授 秋山 友宏
	おお 大 谷 きょう 恭 へい 平		金属材料の水溶液腐食に及ぼす金属カチオンの影響 主査：准教授 坂入 正敏
	David Cempel		Use of Coated Electrode in Microwave-Induced Plasma-in-Liquid Process to Synthesize Metal Nanoparticles (金属ナノ粒子を合成するために用いられるマイクロ波液中プラズマ法におけるコート電極の利用に関する研究) 主査：教授 米澤 徹
	さい 齋 藤 ゆう 勇 じ 士		端面燃焼式ハイブリッドロケットの燃焼機構の解明 主査：教授 永田 晴紀
	よし 吉 中 みず 圭 よし 貴		放射光CTを用いたチタン合金の超高サイクル疲労に関する実験的研究 主査：教授 中村 孝
	Lionel Matias Sobehart		Control and Identification Framework for Modularized Robot Platforms (モジュール型ロボットプラットフォームの制御/同定フレームワーク) 主査：准教授 原田 宏幸
	とみ 富 沢 ゆう 祐 すけ 介		相変化材料（PCM）を用いたモバイルデバイスの熱および強度信頼性に関する研究 主査：教授 佐々木 克彦
	やなぎ 柳 沢 ゆう 祐 すけ 介		変態塑性及びクリープ変形を考慮した大型鍛鋼品の熱処理解析に関する研究 主査：教授 佐々木 克彦
	さかい 境 田 さと 悟 し 志		固体高分子形燃料電池のマイクロ水輸送現象と耐フラットニング性を有するGDL構造に関する研究 主査：特任教授 近久 武美
	いし 石 田 とし 倫 のり 教		中性子小角散乱装置iANSの開発と金属材料ナノ組織解析への応用 主査：特任教授 古坂 道弘
	うえ 上 田 ひで 英 あき 明		陽子線スポットスキヤニング治療システムにおける応答関数法を用いた照射ノズル設計技術の開発 主査：特任教授 古坂 道弘
	たか 高 堂 わたる 渉		磁場のソレノイダル条件が大型ヘリカル装置の電磁流体力学解析に与える影響 主査：教授 富岡 智
Pen Sytharith		Bed instability in suspended load-dominated environments (浮遊砂が支配的な環境における底面不安定性) 主査：教授 泉 典洋	
か 加 藤 てっ 哲 べい 平		道路ネットワークにおける移動時間の不確実性を考慮した便益推計に関する研究 主査：准教授 内田 賢悦	
かな 金 澤 さわ 澤 たける 健		凍結融解作用による損傷を有するRCはり部材の3次元非線形有限要素解析 主査：准教授 佐藤 靖彦	
はま 濱 口 ひろ 弘 き 樹		設計想定を超える地震動に対して高い耐震安全性を有する免震構造の研究 主査：教授 菊地 優	

博士の専攻分野の名称	博士の学位を授与された者	博 士 論 文 名
	氏 名	
博士（工学）	わた なべ のり ひろ 渡 部 典 大	積雪寒冷都市における北方型スマート街区による都市デザイン手法の構築 主査：教授 瀬戸口 剛
	こ はた ゆう じ 木 幡 悠 士	潜顕分離空調方式の効率向上と計画手法に関する研究 主査：教授 羽山 広文
	ヨウ 楊	Study on Vacuum Insulation Panels with Slim-thickness and Light-weight and Their Application Method for Retrofitting Insulation to Existing Buildings (既存建築の断熱改修に寄与する薄型・軽量の真空断熱材とその適用方法に関する研究) 主査：准教授 葛 隆生
	ザン 張	ENRICHMENT, GROWTH KINETICS AND ECOPHYSIOLOGY OF ANAMMOX BACTERIA (嫌気性アンモニア酸化細菌の集積培養法の確立および生理生態学的解析) 主査：教授 岡部 聡
	たけ だ こう や 竹 田 航 哉	廃棄物発電高効率化のためのボイラ過熱器管材料の高温腐食特性の解明および腐食抑制技術に関する研究 主査：教授 松藤 敏彦
	キー イム イン Khy Eam EANG	Geochemistry, Evolution, and Mixing Estimation of Groundwater for Identifying Zones Affecting the Stability of Rock Slopes (岩盤斜面の安定性に影響を及ぼす地層を同定するための地下水の化学, 進化, 混合) 主査：教授 五十嵐 敏文
	たか はたけ よう こ 高 島 容 子	過酷事故で発生した放射性汚染水からのSr除去 主査：教授 佐藤 努
	は せ はる こ 長 谷 東 子	層状複水酸化物の環境浄化への利用と生成後の変質挙動 主査：教授 佐藤 努
	バン タシ ット Banthasith フン フートン Vongphuthone	Factors affecting arsenic content of unconsolidated sediments and its mobilization (未固結堆積物中のヒ素含有量とその動態に及ぼす影響因子) 主査：教授 五十嵐 敏文
	まん ぶく ゆう ぞう 万 福 裕 造	除染土壌の減容化のための熱処理とその生成物の鉱物学的・化学的特性 主査：教授 佐藤 努
博士（総合化学）	オウ モン テイ WENG Mengting	Growth of MoS ₂ Nanowires by Catalytic Chemical Vapor Deposition (触媒を用いた化学気相成長法によるMoS ₂ ナノワイヤの成長) 主査：教授 忠永 清治
	グ エン ティ NGUYEN Thi キム ンガン Kim Ngan	Fabrication and Characterization of New Nanocomposite Materials Based on Transition Metal Cluster (遷移金属クラスター基新規ナノコンポジット材料の作製と評価) 主査：教授 忠永 清治
	やなぎ さわ けい 柳 澤 慧	Study on Luminescent Lanthanide Complexes with Seven-coordinate Structures (七配位構造を有する発光性ランタニド錯体に関する研究) 主査：教授 幅崎 浩樹
博士（理学）	あ べ たい き 阿 部 泰 樹	Development of Carbocycle-forming Methods via Cyclization of Nitriles (ニトリル誘導体の環化反応による炭素環構築法の開発) 主査：教授 及川 英秋
	い い だ りょう 飯 田 良	Control of Nanoparticle Self-Assembly in Water by Rational Surface Design (合理的な表面デザインによる水中でのナノ粒子自己集合化の制御) 主査：教授 佐田 和己
	い け がみ とも のり 池 上 智 則	定常光で駆動するアゾベンゼン誘導体含有結晶の機械的自励振動の創出 主査：教授 佐田 和己
	お がわ とも ひろ 小 川 知 弘	Studies on Anionic Platinum (II) Complexes: Phosphorescence Properties and Phase Control by Counter Cations (アニオン性白金錯体に関する研究：対カチオンによる相制御とりん光特性) 主査：特任教授 喜多村 昇

博士の専攻分野の名称	博士の学位を授与された者	博 士 論 文 名
	氏 名	
博士（理学）	こん どう ゆう すけ 近 藤 有 輔	Spin-Orbit Multiconfigurational Quantum Chemical Study on Nearly-Degenerate Low-Lying Electronic States of Heavy-Atom Contained Molecules (スピン軌道相互作用を考慮した多配置波動関数による重原子系分子擬縮退電子状態の量子化学研究) 主査：教授 前田 理
	さ とう わたる 佐 藤 航	Mechanism of Electron Transfer from Cytochrome <i>c</i> to Cytochrome <i>c</i> Oxidase Regulated by Hydrophobic Interaction (疎水性相互作用で制御されるシトクロム <i>c</i> -シトクロム <i>c</i> 酸化酵素間の電子伝達機構) 主査：教授 坂口 和靖
	すみ や よう すけ 住 谷 陽 輔	Kinetic Analysis for Complex Networks of Elementary Steps in Chemical Reactions (化学反応素過程の複雑ネットワークに対する速度解析) 主査：教授 武次 徹也
	しげ た やす ひろ 重 田 泰 宏	Studies on Vapochromic Behaviors of Supramolecular Pt (II) Complexes with Porous Structures (多孔性超分子白金 (II) 錯体のバイポクロミズムに関する研究) 主査：教授 佐田 和己
	と ぐち ゑう 戸 口 侑	Study on Inactivation of Tumor Suppressor Protein p53 Transcriptional Activity by Gene Mutation and Starvation Stress (遺伝子変異と飢餓ストレスによる癌抑制タンパク質p53の転写活性化能の不活性化に関する研究) 主査：教授 村上 洋太
	なか がわ あつ し 中 川 淳 史	Synthetic and Photophysical Studies on Bright and Long-Lived Phosphorescent Ruthenium (II) Complexes Based on Arylborane-Appended Ligands (アリールホウ素置換配位子に基づく強発光・長寿命りん光性ルテニウム (II) 錯体の合成および光物性に関する研究) 主査：教授 加藤 昌子
	なり た こう じ 成 田 興 司	合成生物学的アプローチによる糸状菌由来セスタテルベンのゲノムマイニング 主査：教授 谷野 主持
	ほう じょう けんたろう 北 條 健太郎	Construction of Quaternary Carbon Stereogenic Centers through Copper-Catalyzed Enantioselective Allylic Substitution Reactions (銅触媒エナント選択的アリル置換反応による第四級不斉炭素中心の構築) 主査：教授 谷野 主持
博士（工学）	いけ だ まさ ひろ 池 田 昌 弘	抗TROP-2抗体Pr1E11の生化学的特性解析と抗腫瘍活性の評価に関する研究 主査：教授 大利 徹
	おお まがり しゅん 大 曲 駿	Study on the Energy Transfer Processes in Polynuclear Lanthanide Complexes (多核希土類錯体におけるエネルギー移動過程に関する研究) 主査：教授 安住 和久
	お がつ ひろ ゆき 尾 形 浩 行	耐食性と溶接性を兼備した自動車燃料タンク用有機被覆Znめっき銅板の開発とタンク内面の防食機構に関する研究 主査：教授 安住 和久
	くら ち はる 倉 千 晴	Study on Mixed Ionic-Electronic Conductivity of Inorganic Thin Films Fabricated by Reactive Sputtering Process (反応性スパッタ法により作成した無機薄膜のイオン-電子混合伝導性に関する研究) 主査：教授 忠永 清治
	こ じま りょう と 小 島 遼 人	Development of Copper (I)-Catalyzed Synthesis of Functionalized Organofluorine and Organoboron Compounds (銅 (I) 触媒による官能基化有機フッ素化合物ならびに有機ホウ素化合物の合成法の開発) 主査：教授 大熊 毅

論文博士

博士の専攻分野の名称	博士の学位を授与された者	博 士 論 文 名
	氏 名	
博士（文学）	こし 越 野 剛	ドストエフスキーとロシアにおける病の文化史 主査：教授 大西 郁夫
	はせがわ 長谷川 征 史	マウス運動野における運動準備の神経メカニズムの研究 主査：教授 和田 博美
博士（法学）	しま 嶋 田 よし ひろ 佳 広	住宅保障法理の展開とドイツ・ハルツ改革 主査：教授 加藤 智章
博士（医学）	お 小 野 ゆう いち 雄 一	院外心肺停止患者の神経学的予後に影響する因子の研究 主査：教授 森本 裕二
	ば 馬 場 とし あき 俊 明	一般生活環境レベルの妊娠中PCBs曝露が妊婦と新生児の甲状腺機能および3歳児の行動、精神症状に及ぼす影響 - 芳香族炭化水素受容体遺伝子多型との関連において 主査：教授 西浦 博
博士（獣医学）	アッバス ABBAS ラグダ RAGHDA モハメド MOHAMED ファトヒアハメド FATHI AHMED	Verification of genetic loci responsible for the resistance/susceptibility to the Sendai virus infection using congenic mice (コンジェニックマウスを用いたセンダイウイルス感染抵抗性/感受性遺伝子座の証明) 主査：教授 安居院 高志
	やまもと 山本(伊藤)美加	Studies on the genetic recombinations in the enteric RNA viruses detected from cattle and pigs in Japan (日本の牛及び豚から検出された腸内RNAウイルスにおける遺伝子組換えに関する研究) 主査：教授 迫田 義博
博士（環境科学）	やま 山 崎 ち と せ 登 勢	ヤツメウナギの繁殖生態：乱婚におけるオスの造巣行動とメスの配偶者選択に着目して 主査：准教授 小泉 逸郎
博士（農学）	にし 西 村 かず し 和 志	外部飼料作組織における圃場分散問題に関する実証的研究 - コーディネーション・コストからのアプローチ 主査：教授 近藤 巧
	もり 森 田 やす ゆき 泰 之	組合員に対する農協の資金供給・決済システムの機能に関する研究 - システムの比較分析による組合員勘定制度の再評価 - 主査：教授 柳村 俊介
	やま 山 下 ま 亜 舞	チーズスターター乳酸菌 <i>Lactobacillus helveticus</i> SBT2171 の免疫制御作用に関する研究 主査：特任教授 原 博
	おの 小野寺 けん すけ 賢 介	北海道の森林における樹洞木と立枯れ木の動態及び機能に関する研究 主査：特任教授 小池 孝良
博士（生命科学）	すぎ 杉 田 りゅう すけ 竜 介	げっ歯類炎症モデルにおける選択的プロスタグランジンE ₂ 産生阻害剤の薬理作用に関する研究 主査：准教授 園山 慶
博士（学術）	くさ 草 津 ひで のり 津 英 律	現代市民社会の分裂と集合 - ジョン・アーリの脱組織論から見た現代社会 - 主査：准教授 金山 准

■同窓会との交流

函館同窓会「総会及び懇親会」

3月22日（木）に函館市のホテル法華クラブ函館において、北海道大学函館同窓会総会・懇親会が開催され、本学から名和豊春総長、長谷川晃理事・副学長、徳久治彦理事・事務局長が出席しました。当日の参加者は30名でし

た。懇親会では山根 繁会長の挨拶に始まり、名和総長、長谷川理事・副学長が「北大の現状」を交えた挨拶を行いました。安井 肇水産科学研究院長の発声による乾杯の後、参加者の懇親を深め、最後に参加者全員が輪になっ

て肩を組み寮歌「都ぞ弥生」を歌い、盛会の裡に終了しました。

（水産科学院・水産科学研究院・水産学部）



都ぞ弥生を同窓生と歌う名和総長（左から3人目）

■ 諸会議の開催状況

役員会（平成30年3月6日）

議案・共同プロジェクト拠点の評価と更新について

- ・クロスアポイントメントの適用について
- ・平成30年度以降の部局評価配分事業について
- ・職員給与規程等の一部改正について

協議事項・平成31年度設置の学院等について

- ・平成30年度年度計画について
- ・特任教授（退職教員活用型）制度について
- ・全学的な教育研究支援体制の強化（技術職員組織の一元化）について
- ・平成30年度に実施する会計専門職大学院認証評価の自己評価書について
- ・授業料未納者の退学に係る運用の見直しについて
- ・諸規則の制定、廃止及び一部改正について
- ・就業規則関連規程の一部改正について
- ・平成30年度機能強化経費（機能強化促進分等）事業別予算額について
- ・平成30年度予算について

報告事項・平成30年度運営費交付金等（予定額）及び重点支援に係る評価結果について

- ・入学定員の充足状況について
 - ・会計検査院会計実地検査の実施について
 - ・理事の任命について
-

教育研究評議会（平成30年3月14日）

議題・経営協議会の学外委員について

- ・名誉教授の選考について
- ・平成31年度設置の学院等について
- ・平成30年度年度計画について
- ・特任教員（退職教員活用型）制度について
- ・全学的な教育研究支援体制の強化（技術職員組織の一元化）について
- ・平成30年度に実施する会計専門職大学院認証評価の自己評価書について
- ・諸規則の制定、廃止及び一部改正について
- ・平成30年度予算について

報告事項・平成30年度運営費交付金等（予定額）及び重点支援に係る評価結果について

- ・共同プロジェクト拠点の評価と更新について
 - ・寄附分野の設置及び更新について
 - ・平成28事業年度決算剰余金の繰越承認について
 - ・理事の任命について
-

経営協議会（平成30年3月15日）

議題・平成30年度年度計画について

- ・平成30年度予算について

報告事項・平成30年度運営費交付金等（予定額）及び重点支援に係る評価結果について

- ・サステイナブルキャンパスマネジメント本部の設置について
- ・理事の任命について

意見交換・指定国立大学法人について

役員会（平成30年3月20日）

議案・平成31年度設置の学院等について

- ・平成30年度年度計画について
- ・特任教授（退職教員活用型）制度について
- ・全学的な教育研究支援体制の強化（技術職員組織の一元化）について

- ・平成30年度に実施する会計専門職大学院認証評価の自己評価書について
 - ・平成30年度予算について
 - ・諸規則の制定、廃止及び一部改正について
 - ・就業規則関連規程の一部改正について
 - ・キャンパスマスタープラン2018の策定について
- 協議事項・名誉学位の授与について
- ・授業料未納者の退学に係る運用の見直しについて

※規程の制定、改廃については、「学内規程」欄に掲載しています。

■ 学内規程

国立大学法人北海道大学組織規則の一部を改正する規則

(平成30年4月1日海大達第24号)

平成30年4月1日付けで、本学の組織の改組及び廃止を行うことに伴い、所要の改正を行ったものです。

北海道大学における講座等に関する規程の一部を改正する規程

(平成30年4月1日海大達第25号)

本年4月1日付けで、①環境科学院に置くコースを改めること、②生命科学院に新たな専攻を置くこと、③国際広報メディア・観光学院に新たな連携分野を置くこと、④総合化学院の連携分野を改めること、⑤工学研究院に置く分野の新設を行うこと、⑥医学研究院に置く分野の廃止及び新設を行うことに伴い、所要の改正を行ったものです。

国立大学法人北海道大学基金室規程を廃止する規程

(平成30年4月1日海大達第26号)

国立大学法人北海道大学フロンティア基金規程の一部を改正する規程

(平成30年4月1日海大達第59号)

本年4月1日付けで、本学の運営組織である基金室を廃止することに伴い、所要の定め及び改正を行ったものです。

国立大学法人北海道大学総長室規程の一部を改正する規程

(平成30年4月1日海大達第27号)

国立大学法人北海道大学内部監査規程等の一部を改正する規程

(平成30年4月1日海大達第28号)

本年4月1日付けで、本学の運営組織であるサステイナブルキャンパス推進本部を廃止し、新たにサステイナブルキャンパスマネジメント本部を設置することに伴い、所要の改正を行ったものです。

国立大学法人北海道大学創成研究機構規程の一部を改正する規程

(平成30年4月1日海大達第29号)

本年4月1日付けで、本学の運営組織である創成研究機構の組織を見直すことに伴い、所要の改正を行ったものです。

国立大学法人北海道大学サステイナブルキャンパスマネジメント本部規程

(平成30年4月1日海大達第30号)

本学の運営組織であるサステイナブルキャンパス推進本部を廃止し、新たにサステイナブルキャンパスマネジメント本部を設置することに伴い、マネジメント本部の組織及び運営について所要の定めを行ったものです。

国立大学法人北海道大学大学力強化推進本部規程の一部を改正する規程

(平成30年4月1日海大達第31号)

本年4月1日付けで、本学の運営組織である大学力強化推進本部の組織を見直すことに伴い、所要の改正を行ったものです。

国立大学法人北海道大学事務組織規程の一部を改正する規程

(平成30年4月1日海大達第32号)

本年4月1日付けで、①附属図書館事務部に置く課の名称を変更すること、②本学の運営組織であるサステイナブルキャンパス推進本部を廃止し、新たにサステイナブルキャンパスマネジメント本部を設置すること及び③WPI対策室が改組されることに伴い、所要の改正を行ったものです。

北海道大学大学院通則の一部を改正する規則

(平成30年4月1日海大達第33号)

北海道大学学位規程の一部を改正する規程

(平成30年4月1日海大達第34号)

本年4月1日付けで、生命科学院にソフトマター専攻を設置することに伴い、所要の改正を行ったものです。

教育職員免許状授与の所要資格の取得に関する規程の一部を改正する規程

(平成30年4月1日海大達第35号)

本年4月1日付けで、本学の文学部及び文学研究科において教育職員免許状の授与の所要資格を得させるための課程の認定の一部を取り下げることにともない、所要の改正を行ったものです。

北海道大学新渡戸カレッジ規程の一部を改正する規程

(平成30年4月1日海大達第36号)

本年4月1日付けで、本学新渡戸カレッジにおいて、より適切な教育効果を得るために授業科目の見直しを行うことに伴い、所要の改正を行ったものです。

北海道大学大学院特別教育プログラム新渡戸スクール規程の一部を改正する規程

(平成30年4月1日海大達第37号)

本年4月1日付けで、本学大学院特別教育プログラム新渡戸スクール（以下「新渡戸スクール」という。）において、より適切な教育効果を得るために教育課程の整備充実を図ることに伴い、所要の改正を行ったものです。

北海道大学大学院共通授業科目規程の一部を改正する規程

(平成30年4月1日海大達第38号)

大学院共通授業科目において、適切な教育効果を得るために教育課程の整備充実を図ることに伴い、所要の改正を行ったものです。

国立大学法人北海道大学共同研究取扱規程の一部を改正する規程

(平成30年4月1日海大達第39号)

国立大学法人北海道大学受託研究取扱規程の一部を改正する規程

(平成30年4月1日海大達第40号)

本年4月1日付けで、共同研究及び受託研究の受入れ組織に安全衛生本部を追加することに伴い、所要の改正を行ったものです。

北海道大学病的材料検査に関する規程の一部を改正する規程

(平成30年4月1日海大達第41号)

本学において行う病的材料に係る検査料について準拠していた「診療報酬の算定方法（平成20年厚生労働省令告示第59号）」が改正されることに伴い、所要の改正を行ったものです。

国立大学法人北海道大学産業創出講座等規程の一部を改正する規程

(平成30年4月1日海大達第42号)

産業創出講座等の兼務教員について、特任教員として再雇用された教員のうちからも置くことができることとするに伴い、所要の改正を行うとともに、併せて規定の整備を行ったものです。

国立大学法人北海道大学契約職員就業規則の一部を改正する規則

(平成30年4月1日海大達第43号)

①高等教育推進機構に勤務する職員について、授業準備対応業務のため、新たな勤務時間帯の区分を設けること、②工学系事務部教務課に勤務する職員について、窓口業務を行うため、新たな勤務時間帯の区分を設けること、③障害のある職員がその障害のために通院しやすい環境を整えるため、新たに特別休暇を設けることに伴い、所要の改正を行うとともに、併せて規定の整備を行ったものです。

国立大学法人北海道大学短時間勤務職員就業規則の一部を改正する規則

(平成30年4月1日海大達第44号)

国立大学法人北海道大学子どもの園保育園臨時職員就業規則の一部を改正する規則

(平成30年4月1日海大達第45号)

国立大学法人北海道大学嘱託職員就業規則の一部を改正する規則

(平成30年4月1日海大達第47号)

障害のある職員がその障害のために通院しやすい環境を整えるため、新たに特別休暇を設けることに伴い、所要の改正を行うとともに、併せて規定の整備を行ったものです。

国立大学法人北海道大学特任教員就業規則の一部を改正する規則

(平成30年4月1日海大達第46号)

豊富な知識及び経験を有する本学の退職教員を特任教授に採用し、総長が指定する全学的な事業に参画する部局の教育的負担を軽減させ、又は、全学的な業務を遂行させることで、本学の研究力、財務基盤その他大学力の強化に資することを目的として「特任教授（退職教員活用型）」の制度を新たに創設すること並びに文部科学省共済組合が実施する人間ドック事業による人間ドックの受診及び障害のある職員がその障害のために通院をしやすい環境を整えるため、新たに特別休暇を設けることに伴い、所要の改正を行うとともに、併せて規定の整備を行ったものです。

国立大学法人北海道大学における教員のクロスアポイントメントの適用に関する規程の一部を改正する規程

(平成30年4月1日海大達第48号)

国立大学法人北海道大学職員兼業規程の一部を改正する規程

(平成30年4月1日海大達第49号)

国立大学法人北海道大学宿舍貸与規則の一部を改正する規則

(平成30年4月1日海大達第82号)

北海道大学人獣共通感染症リサーチセンター協議員会規程の一部を改正する規程

(平成30年4月1日海大達第84号)

豊富な知識及び経験を有する本学の退職教員を特任教授に採用し、総長が指定する全学的な事業に参画する部局の教育的負担を軽減させ、又は、全学的な業務を遂行させることで、本学の研究力、財務基盤その他大学力の強化に資することを目的として「特任教授（退職教員活用型）」の制度を新たに創設することに伴い、規定の整備を行ったものです。

国立大学法人北海道大学における教員の任期に関する規程の一部を改正する規程

(平成30年4月1日海大達第46号)

本年4月1日付けで、創成研究機構研究支援室を廃止すること、北海道大学病院の講座、研究部門、附属施設等名に関する規定を整備すること、触媒科学研究所及び総合博物館に採用する助教について再任に関する事項を見直すこと並びに多様な財源による教員の雇用制度を導入することに伴い、所要の改正を行ったものです。

国立大学法人北海道大学利益相反マネジメント規程の一部を改正する規程

(平成30年4月1日海大達第51号)

サステイナブルキャンパス推進本部を廃止し、新たにサステイナブルキャンパスマネジメント本部を設置すること及び利益相反に係る所掌の分担を明示することに伴い、所要の改正を行ったものです。

国立大学法人北海道大学職員労働時間、休憩、休日及び休暇規程の一部を改正する規程

(平成30年4月1日海大達第52号)

①財務部調達課に勤務する職員について、納品検収センターの開館時間変更に伴い、勤務時間帯の区分を改めること、②学務部学生支援課及び保健センターに勤務する職員について、窓口業務及び診療・カウンセリング後の報告書作成業務のため、新たな勤務時間帯の区分を設けること、③工学系事務部教務課に勤務する職員について、窓口業務を行うため、新たな勤務時間帯の区分を設けることに伴い、所要の改正を行ったものです。

国立大学法人北海道大学遺伝子組換え実験等安全管理規程の一部を改正する規程

(平成30年4月1日海大達第53号)

国立大学法人北海道大学病原体等安全管理規程の一部を改正する規程

(平成30年4月1日海大達第54号)

健康管理の在り方について見直すことに伴い、所要の改正を行ったものです。

国立大学法人国立大学法人北海道大学有害廃液取扱規程の一部を改正する規程

(平成30年4月1日海大達第55号)

有害廃液のうち無機系廃液の処理を外部に委託したこと及び本年4月1日付けで、本学の運営組織であるサステイナブルキャンパス推進本部を廃止し、有害廃液処理に関する業務を施設部に移管することに伴い、所要の改正を行ったものです。

国立大学法人北海道大学における財務及び会計に関する職務権限規程の一部を改正する規程

(平成30年4月1日海大達第56号)

総務企画部に収入契約のうち受託研究の契約に関する権限を与えること、財務部資産運用管理課から現金収納に関する権限を取り消すこと、各部局等に発注（契約）権限が与えられている役務提供契約の内容を見直すこと及び研究に従事する職員（教員を除く）が本学が指定する取引先に対する発注（契約）ができる範囲に研究代表者から執行を認められた研究資金を含めることに伴い、所要の改正を行うとともに、併せて規定の整備を行ったものです。

国立大学法人北海道大学旅費規則の一部を改正する規則

(平成30年4月1日海大達第57号)

国内旅行の宿泊料並びに外国旅行の日当及び宿泊料の額並びに地域区分について、実態を踏まえて見直しを行うことに伴い、所要の改正を行ったものです。

国立大学法人北海道大学旅費規程の一部を改正する規程

(平成30年4月1日海大達第58号)

地域区分について、実態を踏まえて見直しを行うことに伴い、所要の改正を行ったものです。

国立大学法人北海道大学外国人研究者及び外国人留学生借上宿舍等規程の一部を改正する規程

(平成30年4月1日海大達第60号)

本年4月1日付けで、独立行政法人日本学生支援機構から借り上げていた借上寮が札幌市に譲渡され、当該借上寮の名称が変更されることに伴い、所要の改正を行ったものです。

国立大学法人北海道大学オープンファシリティ使用規程の一部を改正する規程

(平成30年4月1日海大達第61号)

本学のオープンファシリティについて、設備の追加及び削除を行うことに伴い、所要の改正を行うとともに、併せて規定の整備を行ったものです。

北海道大学教育学部規程の一部を改正する規程

(平成30年4月1日海大達第62号)

北海道大学理学部規程の一部を改正する規程

(平成30年4月1日海大達第63号)

北海道大学医学部規程の一部を改正する規程

(平成30年4月1日海大達第64号)

北海道大学工学部規程の一部を改正する規程

(平成30年4月1日海大達第65号)

北海道大学農学部規程の一部を改正する規程

(平成30年4月1日海大達第66号)

本学の学部において、より適切な教育効果を得るために教育課程の整備充実を図ることに伴い、所要の改正を行ったものです。

北海道大学水産学部附属練習船利用規程

(平成30年4月1日海大達第67号)

北海道大学水産学部附属練習船おしよろ丸共同利用規程の一部を改正する規程

(平成30年4月1日海大達第68号)

北海道大学水産学部附属練習船おしよろ丸及び練習船うしお丸の利用に関する事項について整備し、所要の定め及び改正を行ったものです。

北海道大学大学院法学研究科規程の一部を改正する規程

(平成30年4月1日海大達第69号)

北海道大学大学院水産科学院規程の一部を改正する規程

(平成30年4月1日海大達第70号)

北海道大学大学院理学院規程の一部を改正する規程

(平成30年4月1日海大達第71号)

北海道大学大学院国際広報メディア・観光学院規程の一部を改正する規程

(平成30年4月1日海大達第75号)

北海道大学大学院保健科学院規程の一部を改正する規程

(平成30年4月1日海大達第76号)

北海道大学大学院工学院規程の一部を改正する規程

(平成30年4月1日海大達第77号)

北海道大学大学院経済学院規程の一部を改正する規程

(平成30年4月1日海大達第79号)

本学大学院の課程において、より適切な教育効果を得るために教育課程の整備充実を図ることに伴い、所要の改正を行ったものです。

北海道大学大学院生命科学院規程の一部を改正する規程

(平成30年4月1日海大達第72号)

本年4月1日付で、本学大学院生命科学院にソフトマター専攻を設置すること及びより適切な教育効果を得るために教育課程の整備充実を図ることに伴い、所要の改正を行ったものです。

北海道大学大学院教育学院規程の一部を改正する規程

(平成30年4月1日海大達第73号)

本年4月1日付で、本学大学院教育学院において、臨床心理士及び公認心理師受験資格に対応した科目を開講するため、所要の改正を行ったものです。

北海道大学大学院教育学研究院附属子ども発達臨床研究センター規程の一部を改正する規程

(平成30年4月1日海大達第74号)

大学院教育学研究院附属子ども発達臨床研究センターにおける管理運営の観点から、大学院教育学研究院附属子ども発達臨床研究センター長の任期を改め、かつ、大学院教育学研究院長の任期の末日以前とすることに伴い、所要の改正を行ったものです。

北海道大学大学院工学研究院附属エネルギー・マテリアル融合領域研究センター規程の一部を改正する規程

(平成30年4月1日海大達第78号)

本年4月1日付けで、工学研究院附属エネルギー・マテリアル融合領域研究センターに研究室を置くことに伴い、所要の改正を行ったものです。

北海道大学大学院獣医学研究院附属動物病院規程の一部を改正する規程

(平成30年4月1日海大達第83号)

本年4月1日付けで、農業災害補償法施行規則（昭和22年農林省令第95号）が全部改正され、農業保険法施行規則（平成29年農林水産省令第63号）が施行されたことに伴い、所要の改正を行うものである。

北海道大学遺伝子病制御研究所附属感染癌研究センター規程の一部を改正する規程

(平成30年4月1日海大達第80号)

本年4月1日付けで、遺伝子病制御研究所附属感染癌研究センター長の任期を同研究所長の任期の末日以前とすることに伴い、所要の改正を行ったものです。

北海道大学人獣共通感染症リサーチセンター規程の一部を改正する規程

(平成30年4月1日海大達第81号)

本年4月1日付けで、人獣共通感染症リサーチセンターに産業創出部門「シオノギ 抗ウイルス薬研究部門」を設置することに伴い、所要の改正を行ったものです。

表敬訪問

海外

年月日	来訪者	来訪目的
30.3.23	エステルイェータランド県（スウェーデン）Elisabeth Nilsson 知事	両国の交流に関する懇談



エステルイェータランド県（スウェーデン）
Elisabeth Nilsson 知事（右側から4番目）

(国際部国際連携課)

人事

平成30年3月16日付発令

新職名（発令事項）	氏名	旧職名（現職名）
【教授】 大学院医学研究院教授	渡利英道	北海道大学病院准教授

平成30年3月25日付発令

新職名（発令事項）	氏名	旧職名（現職名）
【教授】 （辞職）	傳田健三	大学院保健科学研究院教授

平成30年3月30日付発令

新職名（発令事項）	氏名	旧職名（現職名）
【役員】 （転出） 文部科学省大臣官房付	徳久治彦	理事（事務局長）

平成30年3月31日付発令

新 職 名 (発令事項)	氏 名	旧 職 名 (現職名)
【教授】 (定年) (辞職)	藤 原 正 則 小 山 光 一 村 上 亮 川 端 潤 佐 伯 和 子 佐 川 正 山 中 正 紀 山 村 理 人 栗 山 敬 己 樽 本 英 樹 町 村 泰 貴 柴 田 洋 一 大 塚 吉 則	大学院法学研究科教授 大学院経済学研究院教授 大学院理学研究院附属地震火山研究観測センター教授 大学院農学研究院教授 大学院保健科学研究院教授 大学院保健科学研究院教授 大学院保健科学研究院教授 スラブ・ユーラシア研究センター教授 大学院文学研究科教授 大学院文学研究科教授 大学院法学研究科教授 大学院農学研究院教授 国際連携教育研究局・大学院教育学研究院教授
【准教授】 (定年)	中 谷 敏 邦 梶 原 善 之	大学院水産科学研究院准教授 水産学部附属練習船おしよろ丸准教授
【専門職 (学術)】 (定年)	山 口 茂 彦	産学・地域協働推進機構学術主任専門職
【部長】 (定年) (辞職)	佐々木 力 小 谷 正 雄 出 口 寿 久	施設部長 医学系事務部長 学務部長
【次長】 (定年)	浅 野 賢 二	総務企画部次長
【課長・事務長・室長】 (定年)	萩 原 俊 博 近 藤 俊 治 永 井 雅 彦 宮 内 政 幸 中 塚 英 俊	総務企画部総務課安全衛生室長 学務部学務企画課長 施設部施設企画課長 低温科学研究所事務長 事務局付
【補佐】 (定年)	藤 野 祐 一 加 福 千 明 水 野 範 善	学務部学生支援課課長補佐 学務部キャリア支援課課長補佐 北海道大学病院医事課課長補佐
【係長】 (定年)	猿 橋 キヨミ	附属図書館利用支援課付係長
【係員】 (定年)	守 谷 径 子 小 林 康 子	附属図書館利用支援課付 理学・生命科学事務部事務課
【技術職員等】 (定年)	中 瀬 健 一 玉 川 宏 山 根 長 日 出 高 木 真 弓 安 部 佳 子 大 野 稔 子 小 松 克 子 玉 山 深 雪 本 間 美 恵	大学院医学研究院技術専門員 水産学部附属練習船おしよろ丸司厨手 水産学部附属練習船うしお丸通信長 北海道大学病院看護部看護師長 北海道大学病院看護部副看護師長 北海道大学病院看護部副看護師長 北海道大学病院看護部副看護師長 北海道大学病院看護部副看護師長 北海道大学病院看護部副看護師長 北海道大学病院看護部副看護師長

新 職 名 (発令事項)	氏 名	旧 職 名 (現職名)
	村 上 康 子 中 嶋 栄 治 吉 村 康 良 折 戸 智恵子	北海道大学病院看護部看護師 北海道大学病院調理師 北海道大学病院調理師 保健センター看護師

平成30年4月1日付発令

新 職 名 (発令事項)	氏 名	旧 職 名 (現職名)
【役員】 理事 (事務局長) (期間：平成31年3月31日まで)	関 靖 直	文部科学省大臣官房付
【参与】 参与 (期間：平成31年3月31日まで)	多 谷 司	総長補佐
【経営協議会委員】 (期間：平成32年3月31日まで) (期間：平成32年3月31日まで) (期間：平成32年3月31日まで) (期間：平成32年3月31日まで) (期間：平成32年3月31日まで) (期間：平成32年3月31日まで) (期間：平成32年3月31日まで)	樋 口 達 夫 横 山 清 長 澤 秀 行 石 山 喬 松 谷 有希雄 五十嵐 智嘉子 松 沢 幸 一	大塚ホールディングス株式会社代表取締役社長兼CEO 株式会社アークス代表取締役社長、株式会社ラルズ代表取締役会長兼CEO 国立大学法人帯広畜産大学顧問、公益財団法人とかち財団理事長 北海道大学校友会エルク会長、日本軽金属ホールディングス株式会社相談役 国際医療福祉大学副学長、国立保健医療科学院名誉院長 一般社団法人北海道総合研究調査会理事長 株式会社明治屋代表取締役社長
【部局長・施設長等】 附属図書館北図書館長 (期間：平成31年3月31日まで) 大学院文学研究科長 文学部長 (期間：平成32年3月31日まで) 大学院法学研究科附属高等法政教育研究センター長 (期間：平成31年3月31日まで) 大学院情報科学研究科長 (期間：平成32年3月31日まで) 大学院水産科学研究院長 大学院水産科学院長 水産学部長 (期間：平成32年3月31日まで) 水産学部附属練習船おしよろ丸船長 (期間：平成32年3月31日まで) 大学院理学研究院附属原子核反応データベース研究開発センター長 (期間：平成32年3月31日まで) 大学院理学研究院附属地震火山研究観測センター長 (期間：平成32年3月31日まで) 薬学部附属薬用植物園長 (期間：平成32年3月31日まで) 大学院教育学研究院附属子ども発達臨床研究センター長 (期間：平成32年3月31日まで) 大学院教育学研究院長 大学院教育学院長 教育学部長 (期間：平成32年3月31日まで) 大学院保健科学研究院長 大学院保健科学院長 (期間：平成32年3月31日まで)	長谷川 晃 山 本 文 彦 尾 崎 一 郎 北 裕 幸 木 村 暢 夫 高 木 省 吾 木 村 真 明 高 橋 浩 晃 前 仲 勝 実 松 本 伊智朗 宮 崎 隆 志 齋 藤 健	理事 (副学長) 大学院文学研究科教授 大学院法学研究科附属高等法政教育研究センター教授 大学院情報科学研究科教授 大学院水産科学研究院教授 水産学部附属練習船おしよろ丸 大学院理学研究院准教授 大学院理学研究院附属地震火山研究観測センター教授 大学院薬学研究院教授 大学院教育学研究院教授 大学院教育学研究院教授 大学院保健科学研究院教授

新 職 名 (発令事項)	氏 名	旧 職 名 (現職名)
大学院工学研究院附属エネルギー・マテリアル融合領域研究センター長 (期間：平成31年 3月31日まで)	幅 崎 浩 樹	大学院工学研究院教授
大学院総合化学院長 (期間：平成32年 3月31日まで)	武 次 徹 也	大学院理学研究院教授
大学院経済学研究院長 大学院経済学院院长 経済学部長 (期間：平成32年 3月31日まで)	平 本 健 太	大学院経済学研究院教授
大学院歯学研究院長 大学院歯学院院长 歯学部長 (期間：平成32年 3月31日まで)	八 若 保 孝	大学院歯学研究院教授
大学院獣医学研究院附属動物病院長 (期間：平成32年 3月31日まで)	滝 口 満 喜	大学院獣医学研究院教授
低温科学研究所長 (期間：平成32年 3月31日まで)	福 井 学	低温科学研究所教授
低温科学研究所附属環オホーツク観測研究センター長 (期間：平成32年 3月31日まで)	三 寺 史 夫	低温科学研究所附属環オホーツク観測研究センター教授
遺伝子病制御研究所附属感染癌研究センター長 (期間：平成32年 3月31日まで)	近 藤 亨	遺伝子病制御研究所教授
遺伝子病制御研究所附属動物実験施設長 (期間：平成32年 3月31日まで)	高 岡 晃 教	遺伝子病制御研究所教授
遺伝子病制御研究所長 (期間：平成32年 3月31日まで)	村 上 正 晃	遺伝子病制御研究所教授
触媒科学研究所附属触媒連携研究センター長 (期間：平成32年 3月31日まで)	中 野 環	触媒科学研究所教授
触媒科学研究所長 (期間：平成32年 3月31日まで)	長谷川 淳 也	触媒科学研究所教授
人獣共通感染症リサーチセンター長 (期間：平成32年 3月31日まで)	鈴 木 定 彦	国際連携研究教育局・人獣共通感染症リサーチセンター教授
量子集積エレクトロニクス研究センター長 (期間：平成32年 3月31日まで)	橋 詰 保	量子集積エレクトロニクス研究センター教授
北方生物圏フィールド科学センター長 (期間：平成32年 3月31日まで)	佐 藤 冬 樹	北方生物圏フィールド科学センター教授
環境健康科学研究教育センター長 (期間：平成32年 3月31日まで)	小笠原 克 彦	大学院保健科学研究院教授
北極域研究センター長 (期間：平成32年 3月31日まで)	齊 藤 誠 一	国際連携研究教育局・北極域研究センター特任教授
脳科学研究教育センター長 (期間：平成32年 3月31日まで)	渡 辺 雅 彦	大学院医学研究院教授
【副研究科長・副研究院長等】		
大学院文学研究科副研究科長を命ずる (期間：平成32年 3月31日まで)	藏 田 伸 雄	大学院文学研究科教授
大学院文学研究科副研究科長を命ずる (期間：平成32年 3月31日まで)	藤 田 健	大学院文学研究科教授
大学院法学研究科副研究科長を命ずる (期間：平成32年 3月31日まで)	佐々木 雅 寿	大学院法学研究科教授
大学院情報科学研究科副研究科長を命ずる (期間：平成32年 3月31日まで)	末 岡 和 久	大学院情報科学研究科教授
大学院情報科学研究科副研究科長を命ずる (期間：平成32年 3月31日まで)	長谷山 美 紀	国際連携研究教育局・大学院情報科学研究科教授
大学院水産科学研究院副研究院長を命ずる (期間：平成32年 3月31日まで)	川 合 祐 史	大学院水産科学研究院教授
大学院水産科学研究院副研究院長を命ずる (期間：平成32年 3月31日まで)	藤 森 康 澄	大学院水産科学研究院教授

新 職 名 (発令事項)	氏 名	旧 職 名 (現職名)
大学院教育学研究院副院長を命ずる (期間：平成32年 3月31日まで)	横 井 敏 郎	大学院教育学研究院教授
大学院保健科学研究院副院長を命ずる (期間：平成32年 3月31日まで)	遠 山 晴 一	大学院保健科学研究院教授
大学院経済学研究院副院長を命ずる (期間：平成32年 3月31日まで)	安 部 由起子	大学院経済学研究院教授
大学院歯学研究院副院長を命ずる (期間：平成32年 3月31日まで)	網 塚 憲 生	大学院歯学研究院教授
低温科学研究所副所長を命ずる (期間：平成32年 3月31日まで)	渡 部 直 樹	低温科学研究所教授
遺伝子病制御研究所副所長を命ずる (期間：平成32年 3月31日まで)	廣 瀬 哲 郎	遺伝子病制御研究所教授
触媒科学研究所副所長を命ずる (期間：平成32年 3月31日まで)	清 水 研 一	触媒科学研究所教授
【教育研究評議会評議員】 (期間：平成32年 3月31日まで) (期間：平成32年 3月31日まで) (期間：平成32年 3月31日まで) (期間：平成32年 3月31日まで) (期間：平成32年 3月31日まで)	藤 田 健 都 木 靖 彰 横 井 敏 郎 安 部 由起子 網 塚 憲 生	大学院文学研究科教授 大学院水産科学研究院教授 大学院教育学研究院教授 大学院経済学研究院教授 大学院歯学研究院教授
【教授】 大学院文学研究科教授 大学院文学研究科教授 大学院文学研究科教授 大学院法学研究科教授 大学院工学研究院教授 大学院工学研究院教授 大学院工学研究院教授 大学院工学研究院教授 大学院工学研究院教授 大学院工学研究院教授 大学院獣医学研究院教授 電子科学研究所教授 量子集積エレクトロニクス研究センター教授 産学・地域協働推進機構教授 国際連携研究教育局教授 国際連携研究教育局教授 国際連携研究教育局教授 国際連携研究教育局教授 国際連携研究教育局教授 (転出) 京都大学 東京外国語大学	大 沼 進 田 口 茂 谷 本 晃 久 山 下 竜 一 石 井 一 英 内 田 賢 悦 澤 和 弘 東 藤 正 浩 戸 谷 剛 乙 黒 兼 一 松 尾 保 孝 池 辺 将 之 山 崎 淳一郎 GORDON STEPHEN VINCENT HACKMAN ROBERT MARK FOX BRIAN GRANT KARPE PHILIPPE BAUMGARD LANCE HALL 湊 真 一 SEATON PHILIP ANDREW	大学院文学研究科准教授 大学院文学研究科准教授 大学院文学研究科准教授 大学院公共政策学連携研究部教授 大学院工学研究院准教授 大学院工学研究院准教授 採用 大学院工学研究院准教授 大学院工学研究院准教授 大学院獣医学研究院准教授 電子科学研究所准教授 大学院情報科学研究科准教授 研究推進部長 採用 採用 採用 採用 国際連携研究教育局・大学院情報科学研究科教授 大学院メディア・コミュニケーション研究院教授
【部長】 総務企画部長 財務部長 学務部長 研究推進部長 施設部長 附属図書館事務部長 理学・生命科学事務部長 (兼) 理学・生命科学事務部事務課長	関 崎 徳 彦 松 本 歩 河 本 雅 弘 長谷川 康 弘 天 野 良 相 原 雪 乃 川 上 豊	横浜国立大学事務局次長 (兼) 総務部長 筑波大学病院総務部長 大学入試センター総務企画部長 総務企画部次長 (兼) 総務企画部企画課長 山形大学施設部長 附属図書館管理課長 研究推進部研究振興企画課長

新 職 名 (発令事項)	氏 名	旧 職 名 (現職名)
医学系事務部長 (転出)	寺 澤 陸	理学・生命科学事務部長 (兼) 理学・生命科学事務部事務課長
国立文化財機構奈良国立博物館副館長	湊 公 夫	総務企画部長
帯広畜産大学事務局長	山 岸 仁	財務部長
京都大学附属図書館事務部次長	島 文 子	附属図書館事務部長
【次長】 (兼) 国際部国際教務課長	坂 本 秀 敬	国際部次長 (兼) 国際企画課長
【課長・室長・政策調整室室長代理】		
総務企画部人事課厚生労務室長	小 澤 嘉 磨	総務企画部人事課課長補佐
総務企画部情報企画課長	金 川 眞 行	総務企画部広報課長
総務企画部総務課長 (兼) 総務企画部総務課安全衛生室長	河 野 孝 紀	総務企画部情報企画課長
総務企画部企画課長	平 松 亨	総務企画部人事課厚生労務室長
総務企画部広報課長	吉 田 年 克	政策調整室室長代理
財務部主計課長	片 山 則 行	文部科学省大臣官房会計課専門官 (併) 総務班総務係長
財務部経理課長	高 野 雅 広	財務部資産運用管理課長
財務部調達課長	入 澤 秀 次	工学系事務部経理課長
財務部資産運用管理課長	浅 野 智 裕	財務部主計課課長補佐
研究推進部研究振興企画課長	六 家 英 紀	財務部経理課長
学務部学務企画課長	岡 林 精 二	学務部教育推進課長
学務部教育推進課長	西 田 政 利	小樽商科大学学生支援課長
学務部キャリア支援課長	太 田 裕 美	工学系事務部総務課長
施設部施設企画課長	竹 内 真 司	施設部施設整備課長
施設部施設整備課長	飯 島 浩 司	北海道教育大学財務部施設課長
政策調整室室長代理 (兼) WP I 対策室長	眞 野 茂 樹	研究推進部研究振興企画課WP I 対策室長
政策調整室室長代理	菅 原 育 哉	総務企画部総務課課長補佐
薬学事務部事務長	三本木 毅	教育学事務部事務長
教育学事務部事務長	佐 藤 浩 司	医学系事務部総務課長
工学系事務部総務課長	桃 山 光 樹	函館キャンパス事務部事務長
函館キャンパス事務部事務長	小 塩 俊 二	学務部キャリア支援課長
北海道大学病院医事課長	吉 田 直 美	医学系事務部会計課長
低温科学研究所事務長	中 田 雄 二	薬学事務部事務長
附属図書館管理課長	久保田 壮 活	東京大学教養学部等図書館課長
附属図書館利用支援課長	岸 本 一 志	附属図書館学術システム課長
附属図書館研究支援課長 (出向復帰)	結 城 憲 司	小樽商科大学学術情報課長
事務局付	中 塚 英 俊	函館工業高等専門学校総務課長
学務部入試課長	菅 原 暢 廣	北見工業大学学務課長
工学系事務部経理課長	辻 賢 司	室蘭工業大学経営企画課長
医学系事務部会計課長	八 卷 雅 彦	室蘭工業大学経理課長
医学系事務部総務課長 (出向)	伊 藤 美 香	放送大学学園北海道学習センター事務長
室蘭工業大学総務広報課長	及 川 晃 男	総務企画部人事課課長補佐
室蘭工業大学学務課長	的 野 裕 司	学務部入試課長
室蘭工業大学経理課長	岩 松 正 一	学務部学務企画課課長補佐
旭川医科大学病院事務部経営企画課長 (転出)	花 島 純	北海道大学病院経営企画課課長補佐
国立高等専門学校機構事務局総務課長	鈴 木 剛	総務企画部総務課長
文部科学省大臣官房会計課専門官	前 田 隆 司	財務部主計課長
旭川工業高等専門学校学生課長	千日坂 和 彦	研究推進部産学連携課係長
旭川医科大学総務部施設課長	押 田 聡	施設部施設整備課課長補佐
北海道教育大学財務部施設課長	空 橋 博 幸	施設部施設企画課課長補佐
日本学生支援機構留学生事業部留学生事業計画課留学生宿舍管理室長	萩 原 隆 史	国際部国際教務課長
北海道教育大学学術情報室長	田 邊 千 雪	附属図書館管理課課長補佐
情報・システム研究機構国立情報学研究所学術基盤課長	樋 口 秀 樹	附属図書館利用支援課長
弘前大学医学部附属病院経理調達課長	佐 藤 悟	北海道大学病院医事課長

新任理事紹介

平成30年4月1日付

理事・事務局長に


 せき やすなお
 関 靖直 氏

平成30年3月31日限りで徳久治彦理事・事務局長が転出され、その後任として関 靖直氏が発令されました。

任期は、平成31年3月31日までです。

略 歴

生年月日 昭和36年2月15日
 昭和58年4月 文部省大臣官房総務課
 昭和62年4月 文部省教育助成局財務課法規係長
 昭和63年7月 文部省高等教育局大学課法規係長
 平成2年9月 宮城県教育委員会教育庁行政課長
 平成4年7月 文部省教育助政局地方課課長補佐
 平成6年8月 文部省高等教育局私学部私学行政課課長補佐
 平成8年3月 文部省高等教育局大学課課長補佐
 平成9年7月 文部省高等教育局大学課大学改革推進室長
 平成11年4月 文部省大臣官房企画官
 平成13年4月 文部科学省初等中等教育局財務課教育財政室長
 平成13年5月 文部科学省スポーツ・青少年局青少年課長
 平成15年5月 文部科学省初等中等教育局児童生徒課長
 平成16年7月 広島県教育委員会教育長
 平成19年7月 文部科学省初等中等教育局財務課長
 平成21年7月 文部科学省初等中等教育局初等中等教育企画課長
 平成22年7月 文部科学省大臣官房人事課長
 平成24年1月 文部科学省大臣官房審議官(初等中等教育局担当)(併)国立教育政策研究所次長
 平成25年7月 文部科学省大臣官房文教施設企画部長
 平成27年8月 文部科学省大臣官房政策評価審議官
 平成28年4月 文部科学省大臣官房サイバーセキュリティ・政策評価審議官
 平成28年6月 文部科学省大臣官房総括審議官
 平成28年12月 文部科学省研究振興局長
 平成30年1月 文部科学省大臣官房付
 平成30年3月 同上退職(役員出向)

新任部局長等紹介

平成30年4月1日付

情報科学研究科長に



きた ひろゆき
北 裕幸 教授

平成30年3月31日限りで宮永喜一情報科学研究科長が任期満了となり、その後任として北裕幸教授が発令されました。

任期は、平成32年3月31日までです。

略 歴

生年月日 昭和38年5月7日
 昭和61年3月 北海道大学工学部卒業
 昭和63年3月 北海道大学大学院工学研究科修士課程修了
 平成元年3月 北海道大学大学院工学研究科博士後期課程中退
 平成元年4月 北海道大学工学部助手
 平成6年6月 博士（工学）（北海道大学）
 平成7年4月 北海道大学大学院工学研究科助教授
 平成17年7月 北海道大学大学院情報科学研究科教授
 平成24年4月 } 北海道大学大学院情報科学研究科副研究科長
 平成27年3月 }

水産科学研究院長・水産科学院長・水産学部長に



きむら のぶお
木村 暢夫 教授

平成30年3月31日限りで安井 肇水産科学研究院長・水産科学院長・水産学部長が任期満了となり、その後任として木村暢夫教授が発令されました。

任期は、平成32年3月31日までです。

略 歴

生年月日 昭和32年11月9日
 昭和55年3月 北海道大学水産学部卒業
 昭和59年3月 北海道大学大学院水産学研究科修士課程修了
 昭和61年4月 北海道大学大学院水産学研究科博士後期課程退学
 昭和61年5月 北海道大学水産学部助手
 平成2年6月 水産学博士（北海道大学）
 平成3年4月 北海道大学水産学部助教授
 平成12年4月 北海道大学大学院水産科学研究科助教授
 平成17年4月 北海道大学大学院水産科学研究院教授
 平成26年4月 北海道大学大学院水産科学研究院副研究院長

教育学研究院長・教育学院長・教育学部長に



みやざき たかし
宮崎 隆志 教授

平成30年3月31日限りで小内 透教育学研究院長・教育学院長・教育学部長が任期満了となり、その後任として宮崎隆志教授が発令されました。

任期は、平成32年3月31日までです。

略 歴

生年月日 昭和33年2月28日
 昭和57年3月 北海道大学教育学部卒業
 昭和59年3月 北海道大学大学院教育学研究科修士課程修了
 平成14年12月 博士（教育学）（北海道大学）
 昭和61年4月 北海道大学教育学部助手
 平成6年4月 北海道大学教育学部助教授
 平成12年4月 北海道大学大学院教育学研究科助教授
 平成17年10月 北海道大学大学院教育学研究科教授
 平成19年4月 北海道大学大学院教育学研究院教授
 平成26年4月 } 北海道大学教育研究評議会評議員
 平成30年3月 }
 平成26年4月 } 北海道大学大学院教育学研究院副研究院長
 平成30年3月 }
 平成27年4月 } 北海道大学大学院教育学研究院附属子ども発達臨床研究センター長
 平成30年3月 }

総合学院長に



たけつぐ てつや
武次 徹也 教授

平成30年3月31日限りで大熊 毅総合化学院長が任期満了となり、その後任として武次徹也教授が発令されました。

任期は、平成32年3月31日までです。

略 歴

生年月日 昭和39年11月14日
 平成元年3月 東京大学工学部卒業
 平成3年3月 東京大学大学院工学系研究科修士課程修了
 平成6年3月 東京大学大学院工学系研究科博士課程修了
 平成6年3月 博士（工学）（東京大学）
 平成6年4月 } お茶の水女子大学理学部非常勤講師
 平成6年9月 }
 平成6年9月 } 米国アイオワ州立大学博士研究員
 平成7年9月 }
 平成7年4月 } 日本学術振興会特別研究員
 平成7年11月 }
 平成7年11月 東京大学大学院工学系研究科助手
 平成11年4月 お茶の水女子大学理学部助教授
 平成14年4月 お茶の水女子大学大学院人間文化研究科助教授
 平成17年4月 北海道大学大学院理学研究科教授
 平成18年4月 北海道大学大学院理学研究院教授

経済学研究院長・経済学院長・経済学部長に



ひらもと けんた 教授
平本 健太 教授

平成30年3月31日限りで町野和夫経済学研究院長・経済学院長・経済学部長が任期満了となり、その後任として平本健太教授が発令されました。任期は、平成32年3月31日までです。

略 歴

生年月日 昭和39年1月7日
昭和62年3月 北海道大学経済学部卒業
平成元年3月 北海道大学大学院経済学研究科修士課程終了
平成3年3月 北海道大学大学院経済学研究科博士後期課程退学
平成3年4月 滋賀大学経済学部助手
平成4年4月 滋賀大学経済学部講師
平成8年4月 滋賀大学経済学部助教授
平成9年4月 北海道大学経済学部助教授
平成12年4月 北海道大学大学院経済学研究科助教授
平成19年4月 北海道大学大学院経済学研究科准教授
平成20年1月 北海道大学大学院経済学研究科教授
平成28年4月 北海道大学大学院経済学研究科副研究科長
平成29年4月 北海道大学大学院経済学研究院副研究院長

歯学研究院長・歯学院長・歯学部長に



やわか やすたか 教授
八若 保孝 教授

平成30年3月31日限りで横山敦郎歯学研究院長・歯学院長・歯学部長が任期満了となり、その後任として八若保孝教授が発令されました。任期は、平成32年3月31日までです。

略 歴

生年月日 昭和35年8月21日
昭和61年3月 北海道大学歯学部卒業
平成2年1月 北海道大学歯学部附属病院 助手
平成5年3月 博士(歯学)(北海道大学)
平成5年6月 北海道大学歯学部助手
平成12年4月 北海道大学大学院歯学研究科 助手
平成15年4月 北海道大学歯学部附属病院 講師
平成15年10月 北海道大学医学部・歯学部附属病院 講師
平成16年4月 北海道大学病院 講師
平成17年4月 北海道大学大学院歯学研究科 教授
平成29年4月 北海道大学大学院歯学研究院 教授
平成23年4月 }北海道大学病院高次口腔医療センター部長
平成29年3月 }
平成26年4月 }北海道大学教育研究評議会議員
平成30年3月 }
平成26年4月 }北海道大学大学院歯学研究科副研究科長
平成29年3月 }
平成29年4月 }北海道大学大学院歯学研究院副研究院長
平成30年3月 }

低温科学研究所長に



ふくい まなぶ 教授
福井 学 教授

平成30年3月31日限りで江淵直人低温科学研究所長が任期満了となり、その後任として福井学教授が発令されました。任期は、平成32年3月31日までです。

略 歴

生年月日 昭和35年9月11日
昭和58年3月 新潟大学教育学部卒業
昭和61年3月 東京都立大学大学院理学研究科修士課程修了
平成元年3月 東京都立大学大学院理学研究科博士課程修了
平成元年3月 理学博士(東京都立大学)
平成元年4月 通商産業省工業技術院公営資源研究所研究員
平成5年10月 通商産業省工業技術院資源環境技術総合研究所主任研究官
平成10年1月 通商産業省工業技術院エネルギー技術開発課及び技術評価課併任
平成10年7月 東京都立大学大学院理学研究科助教授
平成16年8月 北海道大学低温科学研究所教授
平成17年7月 }第47次南極地域観測隊員
平成18年3月 }
平成21年4月 }北海道大学低温科学研究所副所長
平成23年3月 }
平成26年4月 }北海道大学低温科学研究所副所長
平成30年3月 }

触媒科学研究所長に



はせがわ じゅんや 教授
長谷川 淳也 教授

平成30年3月31日限りで朝倉清高触媒科学研究所長が任期満了となり、その後任として長谷川淳也教授が発令されました。任期は、平成32年3月31日までです。

略 歴

生年月日 昭和45年8月7日
平成5年3月 京都大学工学部卒業
平成10年3月 京都大学工学研究科博士課程修了
平成9年4月 日本学術振興会特別研究員
平成11年4月 スウェーデン国立ルンド大学理論化学科博士研究員
平成11年11月 京都大学大学院工学研究科助手
平成20年12月 京都大学大学院工学研究科講師
平成23年10月 京都大学福井謙一記念研究センター准教授
平成24年10月 北海道大学触媒化学研究センター教授
平成27年10月 北海道大学触媒科学研究所教授
平成27年10月 北海道大学触媒科学研究所副所長(平成30年3月まで)
平成28年4月 北海道大学触媒科学研究所附属触媒連携研究センター長(平成30年3月まで)

北方生物圏フィールド科学センター長に

さとう ふゆき
佐藤 冬樹 教授



平成30年3月31日限りで本村泰三北方生物圏フィールド科学センター長が任期満了となり、その後任として佐藤冬樹教授が発令されました。

任期は、平成32年3月31日までです。

略 歴

-
- 生 年 月 日 昭和31年9月15日
 - 昭和54年3月 北海道大学農学部卒業
 - 昭和56年3月 北海道大学大学院農学研究科修士課程修了
 - 昭和59年9月 北海道大学大学院農学研究科博士後期課程修了
 - 昭和59年9月 農学博士（北海道大学）
 - 昭和61年8月 北海道大学農学部附属演習林助手
 - 平成6年8月 北海道大学農学部附属演習林助教授
 - 平成13年4月 北海道大学北方生物圏フィールド科学センター教授
 - 平成20年4月 } 北海道大学北方生物圏フィールド科学センター副センター長
 - 平成30年3月 }

部局長等（再任）紹介

平成30年4月1日付

文学研究科長・文学部長に

やまもと ふみひこ
山本 文彦 教授

山本文彦教授は、平成28年4月1日から文学研究科長・文学部長を務め、平成30年3月31日をもって任期満了となりましたが、引き続き同教授が再任されました。

任期は、平成32年3月31日までです。

保健科学研究院長・保健科学院長に

さいとう たけし
齋藤 健 教授

齋藤 健教授は、平成28年4月1日から保健科学研究院長・保健科学院長を務め、平成30年3月31日をもって任期満了となりましたが、引き続き同教授が再任されました。

任期は、平成32年3月31日までです。

遺伝子病制御研究所長に

むらかみ まさあき
村上 正晃 教授

村上正晃教授は、平成28年4月1日から遺伝子病制御研究所長を務め、平成30年3月31日をもって任期満了となりましたが、引き続き同教授が再任されました。

任期は、平成32年3月31日までです。

人獣共通感染症リサーチセンター長に

すずき やすひこ
鈴木 定彦 教授

鈴木定彦教授は、平成28年4月1日から人獣共通感染症リサーチセンター長を務め、平成30年3月31日をもって任期満了となりましたが、引き続き同教授が再任されました。

任期は、平成32年3月31日までです。

量子集積エレクトロニクス研究センター長に

はしづめ たもつ
橋詰 保 教授

橋詰 保教授は、平成26年4月1日から量子集積エレクトロニクス研究センター長を務め、平成30年3月31日をもって任期満了となりましたが、引き続き同教授が再任されました。

任期は、平成32年3月31日までです。

環境健康科学研究教育センター長に

おがさわら かつひこ
小笠原 克彦 教授

小笠原克彦教授は、平成28年4月1日から環境健康科学研究教育センター長を務め、平成30年3月31日をもって任期満了となりましたが、引き続き同教授が再任されました。

任期は、平成32年3月31日までです。

北極域研究センター長に

さいとう せいいち
齊藤 誠一 教授

齊藤誠一教授は、平成27年4月1日から北極域研究センター長を務め、平成30年3月31日をもって任期満了となりましたが、引き続き同教授が再任されました。

任期は、平成31年3月31日までです。

脳科学研究教育センター長に

わたなべ まさひこ
渡辺 雅彦 教授

渡辺雅彦教授は、平成28年4月1日から脳科学研究教育センター長を務め、平成30年3月31日をもって任期満了となりましたが、引き続き同教授が再任されました。

任期は、平成32年3月31日までです。

新任教授紹介

平成30年3月16日付



医学研究院教授に

渡利 英道 氏

生殖・発達医学分野
産婦人科学教室

生年月日

昭和39年8月16日

最終学歴

北海道大学大学院医学研究科(外科系専攻)博士課程修了(平成7年3月)
博士(医学)(北海道大学)

専門分野

産婦人科学

平成30年4月1日付



大学院文学研究科教授に

大沼 進 氏

人間システム科学専攻
行動システム科学講座

生年月日

昭和45年1月20日

最終学歴

名古屋大学大学院文学研究科博士課程修了(平成7年3月)
博士(心理学)(名古屋大学)

専門分野

環境社会心理学, リスクガバナンス



大学院文学研究科教授に

田口 茂 氏

思想文化学専攻倫理学講座

生年月日

昭和42年11月3日

最終学歴

ヴァッパートル大学人文・文化科学分野哲学専攻博士課程修了(平成15年11月)
Dr. phil. (哲学博士)(ヴァッパートル大学)

専門分野

近現代西洋哲学, 近代日本哲学



大学院文学研究科教授に

谷本 晃久 氏

歴史地域文化学専攻
日本史学講座

生年月日

昭和45年1月15日

最終学歴

学習院大学大学院人文科学研究科博士後期課程中退(平成10年3月)
修士(史学)(学習院大学)

専門分野

日本近世史



大学院工学研究院教授に

石井 一英 氏

環境創生工学部門
環境管理工学分野

生年月日

昭和45年4月22日

最終学歴

北海道大学大学院工学研究科修士課程修了(平成7年3月)
博士(工学)(北海道大学)

専門分野

循環共生システム, 廃棄物管理



大学院工学研究院教授に

内田 賢悦 氏

北方圏環境政策工学部門
技術環境政策学分野

生年月日

昭和47年7月6日

最終学歴

北海道大学大学院工学研究科博士後期課程修了(平成12年3月)
博士(工学)(北海道大学)

専門分野

社会基盤計画学



大学院工学研究院教授に

さわ かずひろ
澤 和弘 氏

エネルギー環境システム部門エネルギー生産・環境システム分野

生年月日

昭和34年 8月16日

最終学歴

北海道大学大学院工学研究科修士課程修了(昭和59年 3月)
博士(工学)(北海道大学)

専門分野

原子力システム安全工学



大学院工学研究院教授に

とうどう まさひろ
東藤 正浩 氏

人間機械システムデザイン部門バイオ・ロボティクス分野

生年月日

昭和46年12月 7日

最終学歴

北海道大学大学院工学研究科博士後期課程修了(平成11年 3月)
博士(工学)(北海道大学)

専門分野

バイオメカニクス



大学院工学研究院教授に

と たに つよし
戸谷 剛 氏

人間機械システムデザイン部門マイクロシステム分野

生年月日

昭和45年 1月21日

最終学歴

北海道大学大学院工学研究科博士後期課程修了(平成11年 3月)
博士(工学)(北海道大学)

専門分野

超小型衛星の熱設計・熱制御, 放射エネルギーの波長制御



獣医学研究院教授に

おつぐろ けんいち
乙黒 兼一 氏

獣医学部門基礎獣医学科学分野

生年月日

昭和45年 3月17日

最終学歴

北海道大学大学院獣医学研究科博士課程修了(平成10年 3月)
博士(獣医学)(北海道大学)

専門分野

薬理学



電子科学研究所教授に

まつ お やすたか
松尾 保孝 氏

物質化学コース無機物質化学講座
研究支援部ナノテク連携推進室

生年月日

昭和47年 2月 2日

最終学歴

北海道大学大学院工学研究科電子情報工学専攻博士後期課程修了
博士(工学)(北海道大学)(平成13年12月)

専門分野

ナノ・マイクロ科学



量子集積エレクトロニクス
研究センター教授に

いけ べ まさゆき
池辺 将之 氏

量子情報エレクトロニクス講座

生年月日

昭和46年 6月20日

最終学歴

北海道大学大学院工学研究科博士後期課程修了(平成12年 3月)
博士(工学)(北海道大学)

専門分野

センシング用デバイス・回路・信号処理



産学・地域協働推進機構教授に

やまざき じゅんいちろう
山崎 淳一郎 氏

生年月日

昭和36年 8月10日

最終学歴

山形大学大学院理工学研究科博士後期課程単位取得退学(平成28年9月)

専門分野

危機管理(日本危機管理士機構員, 危機管理士1級), 科学技術イノベーション政策, 技術経営



国際連携研究教育局教授に

ステファン ヴィンセント ゴードン
Stephen Vincent Gordon 氏

生年月日

昭和43年10月 7日

最終学歴

英国レスター大学 微生物学博士号取得(平成7年7月)

専門分野

細菌学とゲノミクス



国際連携研究教育局教授に

ロバート マーク ハックマン
Robert Mark Hackman 氏

食水土資源グローバルステーション 海外
ユニット(カリフォルニア大学デーヴィス校)

生年月日

昭和28年 5月29日

最終学歴

カリフォルニア大学デーヴィス校 博士課程修了(昭和56年6月)
Ph.D., Nutrition (カリフォルニア大学デーヴィス校)

専門分野

果物とナッツの血管機能, 薬用キノコとがん, 栄養学研究の傾向



国際連携研究教育局教授に

ブライアン グラント フォックス
Brian Grant Fox 氏

食水土資源グローバルステーション 海外
ユニット(ワイソコンシン大学マディソン校)

生年月日

昭和31年 7月27日

最終学歴

ミネソタ大学 博士課程修了(昭和64年9月)
Ph.D., Biochemistry (ミネソタ大学)

専門分野

酵素の構成と機能, バイオエネルギーの系統発生空間における機能予測



国際連携研究教育局教授に

フィリップ カルプ
Philippe Karpe 氏

食水土資源グローバルステーション 海外ユニット
(フランス農業開発国際協力研究センター(CIRAD))

生年月日

昭和43年 3月25日

最終学歴

パリ第10大学 博士課程修了(平成14年3月)
Ph.D., Public Law, International Public Law (パリ第10大学)
ストラスブール大学 博士課程学生指導資格取得(平成22年12月)
HDR (Accreditation to supervise research), Law (ストラスブール大学)

専門分野

土地の使用・保有権, 農村・環境・森林法, 野生動物・保護区域, 生活権・伝統的権利, 先住民族の権利, 伝統的な地域社会と女性の地位



国際連携研究教育局教授に

ランス ホール バームガード
Lance Hall Baumgard 氏

食水土資源グローバルステーション
海外ユニット(アイオワ州立大学)

生年月日

昭和47年 7月19日

最終学歴

コーネル大学 博士課程修了(平成14年1月)
Ph.D., Animal Science (コーネル大学)

専門分野

栄養環境生理学, 成長期や授乳中の動物にみる熱応力の内分泌代謝結果

新任部課長等紹介

平成30年4月1日付



総務企画部長に

せきごき のりひこ
関崎 徳彦 氏

昭和38年9月5日生
日本大学法学部卒業
昭和59年7月 東京大学情報処理課
昭和62年4月 東京大学経理課
平成2年4月 文部省教育助成局海外子女教育課
平成3年4月 文部省教育助成局財務課
平成5年4月 文部省教育助成局施設助成課
平成6年10月 文部省教育助成局地方課
平成7年1月 文部省教育助成局地方課調査係主任
平成8年4月 文部省教育助成局地方課専門職員
平成9年4月 文部省教育助成局地方課調査係長
平成12年4月 文部省教育助成局財務課総務係長
平成13年1月 文部省初等中等教育局初等中等教育企画課総務係長
平成14年4月 岡山大学主計課長
平成16年4月 国立教育政策研究所庶務課長
平成18年1月 文部科学省初等中等教育局初等中等教育企画課教育制度改革室補佐
平成19年10月 文部科学省初等中等教育局児童生徒課補佐
平成21年7月 文部科学省大臣官房総務課補佐（事務次官室）
平成22年7月 文部科学省初等中等教育局初等中等教育企画課補佐
平成25年4月 文部科学省大臣官房総務課総務班主査
平成27年4月 横浜国立大学総務部長
平成28年7月 横浜国立大学事務局次長（兼）総務部長



財務部長に

まつもと あゆみ
松本 歩 氏

昭和40年6月11日生
昭和59年3月 長野県立松代高等学校
昭和59年4月 筑波大学管理課
平成4年10月 文部省大臣官房会計課用度班
平成5年4月 文部省大臣官房会計課総務班
平成8年10月 文部省大臣官房会計課総務班監査係主任
平成10年4月 文部省大臣官房会計課管財班管財第三係主任
平成11年9月 文部省大臣官房会計課管財班管財第二係長
平成13年4月 文部科学省大臣官房会計課総務班法規係長
平成15年4月 文部科学省大臣官房会計課総務班総務係長
平成16年4月 文部科学省大臣官房会計課専門官（兼）総務班総務係長
平成17年4月 信州大学財務課長
平成19年4月 名古屋大学財務課長
平成21年4月 文部科学省大臣官房会計課専門官
平成22年4月 文部科学省大臣官房会計課政府調達専門官
平成23年4月 文部科学省大臣官房会計課用度班主査
平成24年4月 文部科学省大臣官房会計課経理班主査
平成26年4月 東京海洋大学財務部長
平成29年4月 筑波大学病院総務部長



学務部長に

かわもと まさひろ
河本 雅弘 氏

昭和39年7月生
昭和58年4月 旭川医科大学業務部医事課
平成2年4月 大学入試センター事業部事業第二課
平成4年4月 文部省高等教育局私学部
平成9年4月 メディア教育開発センター管理部総務課庶務係長併任企画法規係長
平成12年4月 文部省高等教育局私学部私学行政課法人係長
平成15年4月 大学評価・学位授与機構評価事業部評価第2課長
平成16年4月 独立行政法人大学評価・学位授与機構評価事業部企画調整課長
平成18年4月 文部科学省高等教育局専門教育課課長補佐
平成19年4月 文部科学省高等教育局学生支援課留学生交流室外国人学生指導専門官
平成20年3月 文部科学省高等教育局学生支援課留学生交流室室長補佐
平成22年4月 文部科学省高等教育局専門教育課課長補佐
平成23年4月 文部科学省高等教育局私学部私学行政課課長補佐
平成25年4月 新潟大学総務部長
平成28年4月 独立行政法人大学入試センター事業部長
平成29年4月 独立行政法人大学入試センター総務企画部長



施設部長に

あまの りょう
天野 良 氏

昭和35年1月13日生
昭和58年4月 一関工業高等専門学校
昭和61年4月 文部省大臣官房文教施設部仙台工事事務所
平成6年4月 文部省大臣官房文教施設部仙台工事事務所施設係長
平成13年4月 文部科学省大臣官房文教施設部仙台工事事務所専門職
平成15年10月 秋田大学施設部企画課長
平成16年4月 秋田大学施設部企画管理課長
平成18年4月 宮城工業高等専門学校施設課長
平成19年4月 独立行政法人国立高等専門学校機構宮城地区事務部施設課長
平成21年5月 東北大学施設部施設管理課長
平成23年10月 東北大学施設部設備整備課長
平成25年4月 弘前大学施設環境部長
平成27年4月 山形大学施設部長



附属図書館事務部長に

あいはら ゆきの
相原 雪乃 氏

昭和37年生
昭和60年3月 図書館情報大学卒
昭和60年4月 神戸大学附属図書館整理課
平成2年7月 学術情報センター管理部
平成8年4月 学術情報センター目録情報課相互協力係長
平成11年4月 学術情報センター研修課指導第二係長
平成12年4月 国立情報学研究所成果普及課専門研修係長
平成14年4月 北海道大学附属図書館情報管理課雑誌受入掛長
平成17年4月 国立情報学研究所企画調整課補佐
平成18年4月 国立情報学研究所コンテンツ課補佐（目録情報担当）
平成19年4月 国立情報学研究所学術コンテンツ課副課長（図書館連携チーム）
平成20年4月 千葉大学情報部情報サービス課長
平成22年4月 京都大学附属図書館情報サービス課長
平成25年4月 国立情報学研究所学術コンテンツ課長
平成27年4月 北海道大学附属図書館管理課長



理学・生命科学事務部長に

かわかみ ゆたか
川上 豊 氏

昭和34年6月12日生
昭和53年3月 北海道岩見沢東高等学校卒業
昭和53年5月 苫小牧工業高等専門学校
昭和63年4月 北海道大学
平成5年4月-7月 文部省学術国際局研究助成課併任
平成12年4月 苫小牧工業高等専門学校会計課用度係長
平成15年4月 北海道大学触媒化学研究センター総務掛長
平成16年4月 北海道大学北キャンパス合同事務部経理掛長
平成18年4月 北海道大学財務部経理課経理係長
平成19年4月 北見工業大学財務課副課長
平成21年4月 北海道大学学術国際部産学連携・研究推進課課長補佐
平成22年7月 北海道大学財務部経理課課長補佐
平成24年4月 北海道大学函館キャンパス事務部事務長
平成27年4月 北海道大学研究推進部研究支援課長
平成29年4月 北海道大学研究推進部研究振興企画課長



政策調整室室長代理に

すがわら いくや
菅原 育哉 氏

昭和41年7月19日生
平成2年2月 東京大学
平成7年4月 国立学校財務センター管理部企画課
平成9年4月 北海道大学経理部経理課収入掛
平成12年4月 北海道大学経理部主計課第二予算掛主任
平成15年4月 大学評価・学位授与機構評価事業部評価第3課研究評価第2係長
平成16年4月 大学評価・学位授与機構評価事業部評価第3課法人評価第2係長
平成17年4月 北海道大学財務部主計課第二予算係長
平成18年4月 北海道大学財務部主計課予算第三係長
平成18年9月 北海道大学総務部総務課秘書室係長
平成19年4月 北海道大学総務企画部秘書室係長（秘書担当）
平成21年4月 北海道大学企画部企画調整課係長（組織整備担当）
平成23年4月 北海道大学総務企画部企画課係長（組織整備担当）
平成24年4月 北海道大学研究推進部産学連携課課長補佐
平成28年4月 北海道大学財務部経理課課長補佐（資産活用・増収検討PT）
平成29年4月 北海道大学総務企画部総務課課長補佐



総務企画部人事課厚生労務室長に

おざわ よしまる
小澤 嘉磨 氏

昭和44年3月16日生
平成4年4月 北海道大学
平成16年4月 北海道大学総務部人事課専門職員
平成16年7月 北海道大学総務部総務課専門職員
平成17年4月 北海道大学総務部総務課法規係長
平成19年4月 北海道大学総務部総務課係長
平成23年4月 北海道大学総務企画部総務課係長
平成24年4月 北海道大学総務企画部総務課専門員
平成25年4月 北海道教育大学総務部総務課副課長
平成25年10月 北海道大学研究推進部外部資金戦略課課長補佐
平成27年4月 北海道大学研究推進部研究振興企画課課長補佐
平成28年4月 北海道大学総務企画部人事課課長補佐



財務部主計課長に

かたやま のりゆき
片山 則行 氏

昭和52年 2月13日生
平成11年 3月 立命館大学産業社会学部卒業
平成12年10月 九州大学管財課
平成14年 4月 文部科学省大臣官房会計課管財班
平成16年 4月 文部科学省大臣官房会計課管理班
平成18年 1月 独立行政法人国立大学財務・経営センター施設助成課主任助成員
平成20年 4月 文部科学省大臣官房会計課総務班企画係主任
平成21年 4月 文部科学省大臣官房会計課総務班法規係主任
平成22年 4月 文部科学省大臣官房会計課財務企画班決算係長
平成23年 1月 文部科学省大臣官房会計課財務企画班財務評価係長
平成25年 4月 文部科学省大臣官房会計課総務班経理第三係長
平成26年 4月 文部科学省大臣官房会計課総務班企画渉外係長
平成27年 4月 文部科学省大臣官房会計課監査班監査総括係長
平成28年 4月 文部科学省大臣官房会計課専門官（併）総務班総務係長



財務部資産運用管理課長に

あさの ともひろ
浅野 智裕 氏

昭和42年 4月 6日生
昭和61年 4月 国立大雪青年の家
平成 7年 4月 北海道大学
平成18年 1月 北海道大学財務部経理課財務管理室財務管理係長
平成18年 4月 北海道大学財務部主計課財務管理室財務管理係長
平成19年 4月 北海道大学財務部主計課係長（財務法規担当）
平成20年 4月 北海道大学財務部主計課係長（財務企画担当）
平成22年 4月 北海道大学理学・生命科学事務部事務課係長（会計担当）
平成23年 7月 北海道大学財務部主計課係長（総務担当）
平成24年 4月 北海道大学財務部主計課専門員
平成25年 7月 北海道教育大学財務部経理課副課長
平成26年 4月 北海道教育大学財務部財務課副課長
平成27年 7月 北海道大学財務部調達課課長補佐
平成29年 4月 北海道大学財務部主計課課長補佐



学務部教育推進課長に

にしだ まさとし
西田 政利 氏

昭和37年 6月 4日生
昭和56年 4月 北海道大学
平成13年 4月 北見工業大学総務課学事法規係長
平成16年 4月 北見工業大学総務企画課広報・法規係長
平成17年 4月 北海道大学学務部入試課入試第三係長
平成19年 4月 北海道大学学務部入試課係長（試験実施担当）
平成21年 4月 旭川医科大学教務部入試課長
平成24年 4月 旭川医科大学教務部学生支援課長
平成28年 4月 小樽商科大学学生支援課長（兼）キャリア支援室長



学務部入試課長に

すがわら のぶひろ
菅原 暢廣 氏

昭和40年 8月生
昭和60年 4月 北海道教育大学
平成元年 3月 北海学園大学法学部卒業
平成 4年 4月 東京大学
平成 6年 8月 北海道大学
平成15年 4月 旭川医科大学教務部学生課教務係長
平成18年 4月 北海道大学歯学研究所・歯学部教務係長
平成21年 4月 北海道大学文学研究科・文学部係長
平成24年 4月 北海道大学医学系事務部総務課係長
平成25年 4月 北海道大学医学系事務部総務課課長補佐
平成26年 4月 北海道大学学務部教育推進課課長補佐
平成27年 4月 北海道大学学務部学務企画課課長補佐
平成28年 4月 北見工業大学学務課長



施設部施設整備課長に

い い じ ま こ う じ
飯島 浩司 氏

昭和35年1月2日生
昭和55年7月 北海道大学施設部建築課
平成10年4月 旭川医科大学業務部施設課工管係長
平成13年4月 北海道大学施設部建築課第三建築掛長
平成15年4月 北海道大学施設部建築課第二建築掛長
平成16年4月 北海道大学施設部施設整備課建築整備第一掛長
平成16年7月 北海道大学施設部施設整備課整備計画係長
平成19年4月 北海道大学施設部施設整備課係長
平成20年4月 北海道教育大学事務局財務部施設課総括主査
平成20年7月 室蘭工業大学施設課長
平成22年7月 室蘭工業大学施設グループマネージャー
平成23年4月 帯広畜産大学企画総務部施設課長
平成24年4月 帯広畜産大学経営企画支援部施設課長
平成24年7月 帯広畜産大学経営管理部施設課長
平成27年4月 北海道教育大学事務局財務部施設課長



附属図書館管理課長に

く ぼ た そ う か つ
久保田 壮活 氏

昭和42年7月5日生
平成2年4月 東京大学
平成16年4月 東京大学附属図書館情報サービス課柏図書館情報サービス係長
平成18年4月 東京大学附属図書館総務課柏図書館情報サービス係長
平成18年7月 東京大学医学部・医学系研究科情報サービス係長
平成20年4月 官房政策課資料係長
平成23年4月 東京大学附属図書館総務課主査（図書担当）
平成25年4月 小樽商科大学学術情報課長
平成27年4月 東京大学教養学部等図書課長



附属図書館研究支援課長に

ゆ う き け ん じ
結城 憲司 氏

平成6年4月 北海道大学農学部
平成8年4月 北海道大学文学部
平成11年10月 北海道大学附属図書館情報管理課
平成13年12月 室蘭工業大学附属図書館整理係長
平成16年4月 室蘭工業大学附属図書館学術情報係長
平成16年10月 室蘭工業大学図書課学術情報係長
平成17年4月 北海道大学経済学研究科・経済学部図書係長
平成19年4月 北海道大学附属図書館情報サービス課係長
平成21年4月 北海道大学附属図書館利用支援課係長
平成22年4月 北海道大学附属図書館学術システム課係長
平成25年4月 室蘭工業大学図書・学術情報事務室ユニットマネージャー
（兼）図書・学術情報事務室総務ユニットリーダー
平成27年4月 小樽商科大学学術情報課長



医学系事務部総務課長に

い と う み か
伊藤 美香 氏

昭和38年3月6日生
昭和56年4月 北海道大学低温科学研究所
昭和60年5月 北海道大学工学部総務課
平成元年5月 北海道大学教養部
平成2年4月 北海道大学庶務部庶務課
平成5年4月 北海道大学医学部
平成8年11月 北海道大学工学部総務課
平成15年4月 北海道大学工学研究科・工学部総務課主任
平成18年1月 北海道大学文学研究科・文学部主任
平成21年7月 北海道大学北キャンパス合同事務部係長
平成24年4月 北海道大学医学系事務部総務課係長
平成27年4月 放送大学学園北海道学習センター事務長



医学系事務部会計課長に

やまき まさひこ
八巻 雅彦 氏

昭和36年 5月31日生まれ
 昭和55年 5月 日本国有鉄道職員
 平成 2年 4月 北海道大学農学部附属演習林中川地方演習林
 平成13年 4月 北海道大学水産科学研究科・水産学部専門職員（契約担当）
 平成15年 4月 北海道大学水産科学研究科・水産学部用度掛長
 平成16年 4月 北海道大学学術国際部研究協力課研究助成係長
 平成19年 4月 北海道大学獣医学研究科・獣医学部係長（研究支援担当）
 平成23年 4月 北海道大学工学系事務部経理課課長補佐
 平成26年 7月 北海道大学医学系事務部会計課課長補佐
 平成28年 7月 室蘭工業大学経理課長



工学系事務部経理課長に

つじ けんじ
辻 賢司 氏

昭和59年 6月 北見工業大学
 昭和60年 4月 北海道大学
 平成16年 4月 小樽商科大学財務課予算係長
 平成18年 9月 北海道大学主計課予算第三係長
 平成19年 4月 北海道大学主計課係長
 平成22年 4月 北海道大学病院経営企画課課長補佐
 平成28年 4月 室蘭工業大学財務グループマネージャー
 平成28年 7月 室蘭工業大学経営企画課長

訃報

名誉教授 なしもと 梨本 かつあき 勝昭 氏
(享年79歳)



本学名誉教授 梨本勝昭先生が平成30年3月1日逝去されました。先生は昭和13年に北海道にお生まれになり、昭和36年3月に北海道大学水産学部漁業学科を卒業した後、同年北海道大学水産学部教務員に採用され、同37年3月に同大学助手、同44年3月に講師、同49年4月に助教授、平成元年4月に同大学教授に昇任され、北海道大学水産学部漁業学科漁具設計学講座を担当されました。平成7年4月からは学部改組に伴い海洋生産システム学科生産

工学講座を担当、同12年4月に北海道大学大学院水産科学研究科教授に配置換えとなり同大学院環境生物資源科学専攻生産システム学講座水産施設工学分野を担当し、平成14年3月停年により退職され、同年4月北海道大学名誉教授の称号を授与されました。通算40年以上の永きにわたり北海道大学に勤務され教育・研究に対して多大な貢献をされました。

教育面では、適切かつ懇切な指導を以て、多数の学部学生や大学院学生の教育にあられたほか、38名に上る課程博士ならびに論文博士を世に送り出されました。

研究面では、漁具の漁獲機構や漁獲選択性に関する研究に従事され、特に刺網漁具の漁獲特性を生物と漁具の力学的関係から究明した研究についてはその内容が高く評価され昭和56年に日本水産学会田内賞を受賞されました。また、桁網の漁獲効率を同仕様の桁網

を前後に配置して求めるという独自の方法は、「梨本の方法」として資源調査に広く利用されています。長年にわたり、これら一連の漁獲機構と選択性に関する研究に取り組み、優れた研究成果をあげたことから平成16年には日本水産学会功績賞を受賞されました。

以上のように、梨本先生は、教育分野では数多くの人材の養成を行われたほか、漁業生産学分野で優れた研究成果をとおして学術の進展に寄与されました。また大学・学部の管理運営、社会に対しても多大の貢献をされました。先生のこれらのご功績に敬意を表し、斯界の発展への多大なご貢献に改めて感謝申し上げます、ここに謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

(水産科学院・水産科学研究院・水産学部)

名誉教授 よねだ 米田 のりひこ 徳彦 氏
(享年80歳)



名誉教授 米田徳彦先生が平成30年3月8日にご逝去されました。

先生は昭和38年に北海道大学工学部応用化学科を卒業、同大学大学院工学研究科応用化学専攻修士課程・博士課程へと進学し、昭和43年に工学博士の学位を取得されました。同年北海道大学工学部に講師として着任後、昭和44年に助教授、平成3年には教授に昇任され、同学部応用化学科応用化学第二

講座をご担当されました。その後、改組により北海道大学大学院工学研究科分子化学専攻精密合成化学講座応用有機化学分野教授に配置換えされ、平成13年に停年退官、同年北海道大学名誉教授の称号を授与されました。

教養課程や学科及び専攻の講義や演習を数多く担当し、学生の教育に尽くされるとともに、学部生及び大学院生の研究指導にあたり、多数の技術者と研究者を養成されました。一方、本学の学部移行新規方式の審議の取りまとめに教務委員長として多大なご尽力をされるなど、本学及び工学部・大学院工学研究科の発展に大きく寄与されました。

研究面では、新規超強酸による有機合成反応に関する研究、芳香族フッ素化合物の新規合成法に関する研究、アミン-HF錯体及び超原子価ヨウ素試

薬による新規フッ素化反応に関する研究等に従事され、有機化学、有機合成化学、有機フッ素化学、有機電気化学そして有機光化学の学問分野の発展に貢献されるとともに、得られた理学的研究成果の工学・工業的応用・展開にご尽力されました。

また、多数のシンポジウム・国際会議の組織委員やプログラム編成委員として運営に参画されると同時に、これらの分野の研究者を各国から多数招くなど有機合成化学、有機フッ素化学等の分野の国際交流にも多大な貢献をされました。

先生の長年にわたるご貢献に感謝し、謹んで心よりご冥福をお祈り申し上げます。

(工学院・工学研究院・工学部)

資料

平成30年度入学者の道内・道外別及び卒業年度調べ

学部・学科等	募集人員	入学者数		一般・AO・国際総合入試 (高等学校卒業程度認定試験合格者等は含まない)								その他			
				人数		比率		人数		比率					
		全体	女子	道内	道外	道内	道外	29年度卒業	過年度卒業	29年度卒業	過年度卒業	人数	比率		
総合入試文系	100	101	29	19	81	18.8%	80.2%	72	28	71.3%	27.7%	1	1.0%		
総合入試理系	数学重点選抜群	130	135	19	46	89	34.1%	65.9%	95	40	70.4%	29.6%	0	0.0%	
	物理重点選抜群	235	245	20	80	164	32.7%	66.9%	131	113	53.5%	46.1%	1	0.4%	
	化学重点選抜群	235	242	51	67	175	27.7%	72.3%	143	99	59.1%	40.9%	0	0.0%	
	生物重点選抜群	177	187	71	30	157	16.0%	84.0%	124	63	66.3%	33.7%	0	0.0%	
	総合科学選抜群	250	264	85	84	180	31.8%	68.2%	166	98	62.9%	37.1%	0	0.0%	
	計	1,027	1,073	246	307	765	28.6%	71.3%	659	413	61.4%	38.5%	1	0.1%	
文学部	155	159	67	57	101	35.8%	63.5%	108	50	67.9%	31.4%	1	0.6%		
教育学部	30	30	12	14	15	46.7%	50.0%	22	7	73.3%	23.3%	1	3.3%		
法学部	180	187	54	78	107	41.7%	57.2%	126	59	67.4%	31.6%	2	1.1%		
経済学部	160	163	34	85	74	52.1%	45.4%	106	53	65.0%	32.5%	4	2.5%		
理学部	数学科	13	13	1	1	11	7.7%	84.6%	9	3	69.2%	23.1%	1	7.7%	
	物理学科	10	10	1	1	7	10.0%	70.0%	6	2	60.0%	20.0%	2	20.0%	
	化学科	23	23	4	2	21	8.7%	91.3%	13	10	56.5%	43.5%	0	0.0%	
	生物科学科	生物学専修分野	10	10	1	1	9	10.0%	90.0%	7	3	70.0%	30.0%	0	0.0%
		高分子機能学専修分野	5	5	3	0	5	0.0%	100.0%	2	3	40.0%	60.0%	0	0.0%
	小計	15	15	4	1	14	6.7%	93.3%	9	6	60.0%	40.0%	0	0.0%	
	地球惑星科学科	10	10	2	2	8	20.0%	80.0%	9	1	90.0%	10.0%	0	0.0%	
	計	71	71	12	7	61	9.9%	85.9%	46	22	64.8%	31.0%	3	4.2%	
医学部	医学科	102	102	17	47	55	46.1%	53.9%	45	57	44.1%	55.9%	0	0.0%	
	保健学科	看護学専攻	67	68	63	49	18	72.1%	26.5%	50	17	73.5%	25.0%	1	1.5%
		放射線技術科学専攻	35	36	12	28	8	77.8%	22.2%	13	23	36.1%	63.9%	0	0.0%
		検査技術科学専攻	35	36	23	24	12	66.7%	33.3%	20	16	55.6%	44.4%	0	0.0%
		理学療法専攻	17	17	8	5	12	29.4%	70.6%	9	8	52.9%	47.1%	0	0.0%
		作業療法専攻	17	17	12	11	6	64.7%	35.3%	14	3	82.4%	17.6%	0	0.0%
	小計	171	174	118	117	56	67.2%	32.2%	106	67	60.9%	38.5%	1	0.6%	
計	273	276	135	164	111	59.4%	40.2%	151	124	54.7%	44.9%	1	0.4%		
歯学部	43	42	18	16	24	38.1%	57.1%	13	27	31.0%	64.3%	2	4.8%		
薬学部	24	24	9	3	21	12.5%	87.5%	18	6	75.0%	25.0%	0	0.0%		
工学部	応用理工系学科	38	42	3	9	28	21.4%	66.7%	25	12	59.5%	28.6%	5	11.9%	
	情報エレクトロニクス学科	38	39	5	8	25	20.5%	64.1%	20	13	51.3%	33.3%	6	15.4%	
	機械知能工学科	30	32	1	3	27	9.4%	84.4%	21	9	65.6%	28.1%	2	6.3%	
	環境社会工学科	53	54	10	14	39	25.9%	72.2%	26	27	48.1%	50.0%	1	1.9%	
	計	159	167	19	34	119	20.4%	71.3%	92	61	55.1%	36.5%	14	8.4%	
農学部	53	53	22	2	48	3.8%	90.6%	33	17	62.3%	32.1%	3	5.7%		
獣医学部	35	35	24	1	34	2.9%	97.1%	28	7	80.0%	20.0%	0	0.0%		
水産学部	175	175	49	42	131	24.0%	74.9%	100	73	57.1%	41.7%	2	1.1%		
現代日本学プログラム	-	17	10	-	-	-	-	-	-	-	-	17	100.0%		
合計	2,485	2,573	740	829	1,692	32.2%	65.8%	1,574	947	61.2%	36.8%	52	2.0%		

※その他とは、高等学校卒業程度認定試験合格者、高等専門学校第3学年修了者、帰国子女入試による入学者及び外国人留学生である。

(学務部入試課)

平成30年度入学者の都道府県分布及び地域比率

地域名	入学者	男子	女子	地域%
-----	-----	----	----	-----

北海道	829	559	270	32.2%
-----	-----	-----	-----	-------

東北	124	92	32	4.8%
----	-----	----	----	------

青森県	23	14	9
-----	----	----	---

岩手県	14	11	3
-----	----	----	---

宮城県	38	34	4
-----	----	----	---

秋田県	20	14	6
-----	----	----	---

山形県	7	6	1
-----	---	---	---

福島県	22	13	9
-----	----	----	---

関東	677	501	176	26.3%
----	-----	-----	-----	-------

茨城県	44	31	13
-----	----	----	----

栃木県	26	21	5
-----	----	----	---

群馬県	29	23	6
-----	----	----	---

埼玉県	90	78	12
-----	----	----	----

千葉県	64	49	15
-----	----	----	----

東京都	300	206	94
-----	-----	-----	----

神奈川県	124	93	31
------	-----	----	----

北陸・中部	385	286	99	15.0%
-------	-----	-----	----	-------

新潟県	43	29	14
-----	----	----	----

富山県	32	29	3
-----	----	----	---

石川県	46	32	14
-----	----	----	----

福井県	3	3	0
-----	---	---	---

山梨県	14	11	3
-----	----	----	---

長野県	34	18	16
-----	----	----	----

岐阜県	20	11	9
-----	----	----	---

静岡県	67	51	16
-----	----	----	----

愛知県	126	102	24
-----	-----	-----	----

地域名	入学者	男子	女子	地域%
-----	-----	----	----	-----

近畿	326	239	87	12.7%
----	-----	-----	----	-------

三重県	30	24	6
-----	----	----	---

滋賀県	19	15	4
-----	----	----	---

京都府	41	30	11
-----	----	----	----

大阪府	97	70	27
-----	----	----	----

兵庫県	94	66	28
-----	----	----	----

奈良県	27	21	6
-----	----	----	---

和歌山県	18	13	5
------	----	----	---

中国・四国	108	77	31	4.2%
-------	-----	----	----	------

鳥取県	6	5	1
-----	---	---	---

島根県	7	4	3
-----	---	---	---

岡山県	27	20	7
-----	----	----	---

広島県	21	13	8
-----	----	----	---

山口県	13	8	5
-----	----	---	---

徳島県	6	5	1
-----	---	---	---

香川県	14	10	4
-----	----	----	---

愛媛県	10	9	1
-----	----	---	---

高知県	4	3	1
-----	---	---	---

九州・沖縄	72	52	20	2.8%
-------	----	----	----	------

福岡県	26	19	7
-----	----	----	---

佐賀県	7	2	5
-----	---	---	---

長崎県	7	5	2
-----	---	---	---

熊本県	7	6	1
-----	---	---	---

大分県	5	5	0
-----	---	---	---

宮崎県	4	4	0
-----	---	---	---

鹿児島県	7	5	2
------	---	---	---

沖縄県	9	6	3
-----	---	---	---

その他	52	27	25	2.0%
-----	----	----	----	------

高等学校卒業程度認定試験等	7	4	3
---------------	---	---	---

帰国子女入試	6	3	3
--------	---	---	---

外国人留学生	39	20	19
--------	----	----	----

入学者数合計	2,573	1,833	740
--------	-------	-------	-----

地域別入学者数割合は小数点第2位を四捨五入しているため、合計が100%にならない場合がある。

(学務部入試課)

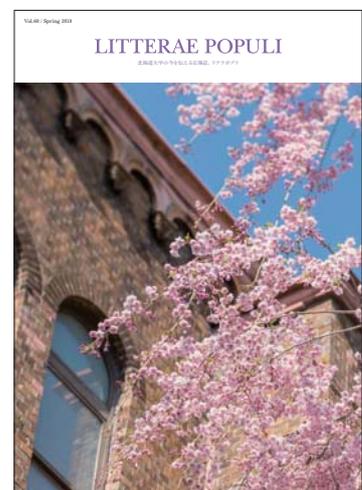
編集メモ

●ようやく春の陽気を感じられるようになり、キャンパス内を散歩するのも心地よい季節となりました。花々も続々と咲き始め、キャンパスに彩りを添えています。

●「広報誌」リテラポプリ第60号を発行しました。

特集ページでは、“紡ぐ”をテーマに、「総合博物館」、「数理・データサイエンス教育研究センター」、「北海道大学東京オフィス」を取り上げています。

◆ <https://www.hokudai.ac.jp/pr/publications/litterae.html>





2006.4.15 室蘭本線 長万部～静狩（長万部町）

北の鉄道風景 61 残雪の山

北海道には難読地名が数多く存在する。その一つとして広く知られているのが道南の長万部町だ。「雪解けの季節、山の残雪の模様が鱒の形になる頃が漁期だと神に教えられた」という説が、この地で暮らしていたアイヌの人々に伝わっていたという。この伝説に登場する山のアイヌ語名「ウパシシャマンベ」を長万部という地名の由来とする説がある。写真は

長万部町内の室蘭本線を走る貨物列車、その背景にそびえる残雪の山が「ウパシシャマンベ」こと長万部山である。上記の伝説にあるように、山腹の残雪が鱒の形に見えるような気がするのは著者だけであろうか。

情報科学研究科 准教授 山本 学

北大時報 ④ No.769 平成30年4月発行

北海道大学総務企画部広報課 〒060-0808 札幌市北区北8条西5丁目

TEL：(011) 706-2610 / FAX：(011) 706-2092 / E-mail：kouhou@jimuhokudai.ac.jp

北大時報はインターネットでもご覧いただけます。https://www.hokudai.ac.jp/pr/publications/jihou.html